

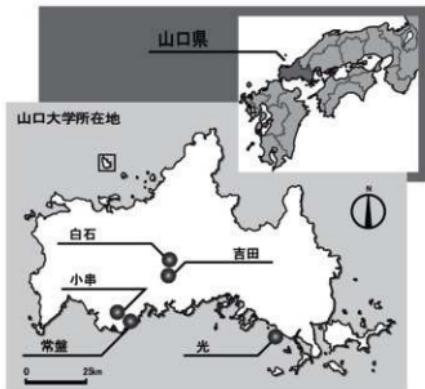
山口大学埋蔵文化財資料館年報
－平成23年度－

2015

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学埋蔵文化財資料館年報

平成23年度 山口大学構内遺跡発掘調査概報
平成23年度 山口大学埋蔵文化財資料館活動報告



2015

山口大学埋蔵文化財資料館

序

山口大学埋蔵文化財資料館は、吉田構内をはじめ小串・常盤・白石・光地区に所在する山口大学構内遺跡における埋蔵文化財の発掘・保護を基幹業務としています。同時に、学術資料の管理と発信を主要業務とする大学情報機構所属の一組織として、これら埋蔵文化財の調査成果や学術的価値を広く社会に告知するため、資料展示や広報誌発行、社会教育活動など、情報発信活動にも積極的に取り組んでおります。

さて、平成23(2011)年度は、本学中期計画の2年目となり、埋蔵文化財保護業務に関しては、本発掘調査1件、予備発掘調査1件、立会調査11件を各構内で実施し、主として吉田構内にて埋蔵文化財に関する新たな知見を得るに至りました。その他の取り組みとして、新たに「山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業」を開始しました。これは、平成22年度に開始した梅光学院大学博物館との連携事業を発展させたもので、新たに大学図書館とも連携し、県内4大学にて巡回展示を行ったものです。文字を取り扱う図書館と、モノを取り扱う博物館との連携が、新たな教育研究空間を創出することを期待しています。

本書には、当館が同年に実施した構内遺跡の調査成果をはじめ、収蔵資料の展示活動や社会連携活動、館員の研究活動を収録しております。本書が山口大学および学外研究機関、地域社会において幅広く活用されることを願っています。

当館は、埋蔵文化財保護体制をはじめ、出土品や調査記録の整理・保管場所の不足が年々深刻化するなど多くの課題を抱えていますが、当該年度は玄関スロープの取設や外壁改修など大規模改修が実施され、施設のバリアフリー化が図されました。学内ばかりではなく地域に開かれた学術研究・教育の場として、活用していただこう、全力を尽くして取り組む所存です。これまで当館の調査・研究活動にご支援、ご協力を頂いた関係機関、関係各位に心から厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月

山口大学埋蔵文化財資料館長

山内 直樹

例言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」と呼称）が平成23年度に実施した、山口大学構内の遺跡発掘調査成果報告と、同年度に資料館が実施した社会教育等の活動報告を記したものである。
2. 構内遺跡発掘調査に関しては、現地での調査は資料館員である田畠直彦（大学情報機構埋蔵文化財資料館助教）・横山成己（大学情報機構埋蔵文化財資料館助教）・松浦暢昌（事務局情報環境部学術情報課教務補佐員※当時）が担当した。
また、現地での調査に際しては、中林建設株式会社、有限会社久常工務店に協力を依頼した。
3. 出土資料の整理は、平成23年度から平成26年度にかけて、資料館員である田畠・横山・乃美友香（事務局情報環境部学術情報課事務補佐員）・松浦が担当した。
4. 発掘調査における現地での実測は山畠・横山・松浦が、写真撮影は田畠・横山が行った。出土遺物に関しては、実測・写真撮影を田畠・横山・川島尚宗（大学情報機構埋蔵文化財資料館助教※平成25年11月1日より）が行った。製図・整図は田畠・横山・川島・松浦・乃美が行った。
5. 術手洗遺跡出土の近世陶磁器については、北九州市芸術文化振興財團埋蔵文化財調査室 佐藤浩可氏、山口県立萩美術館・出土記念館 不崎泰之氏・徳留大輔氏に助言を仰ぎ、懇切なご教示を得た。記して感謝の意を表したい。
6. 発掘調査に伴う事務は、事務局情報環境部学術情報課総務係が統括した。
7. 発掘調査の諸記録類と出土資料は資料館で適正に保管している。
8. 本文の執筆分担は口次に記した。
9. 本書の編集は資料館員の補佐を得て横山が行った。

凡例

1. 山口大学の吉田・白石・小串・常盤・光構内は、いずれもが文化財保護法(法律第214号)で定められた「周知の埋蔵文化財包蔵地」内に位置する。各構内の位置する遺跡名は以下の通りである。

青山構内～青山遺跡 白石構内～白石遺跡 小串構内～山口大学医学部構内遺跡
常盤構内～山口大学工学部構内遺跡 光構内～御手洗遺跡・月待山遺跡

2. 青山構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国上座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割のA～24区南西隅を起点(構内座標x=0, y=0)とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第III系における座標値(X, Y)と構内座標値(x, y)とは下記の計算式で変換される。

$$x = X + 206,000$$

$$y = Y + 64,750$$

3. 平成23年度に実施した予備発掘調査に関しては、以下の略号により資料整理を行っている。
吉田構内特高受変電設備棟新設工事に伴う本発掘調査……………YD2011-1
光構教育学部附属光小学校公共下水接続工事に伴う予備発掘調査……………MTR2011-1

4. 各遺構は下記の記号で表記することがある。

堅穴住居……SB	撿立柱建物……SII	上壠……SK
溝……SD	柱穴・ピット……Pit・SP	落ち込み……SX

5. 本書で使用した方位は、青山構内では国上座標を基準とした真北、他の構内では磁北を示す。

6. 標高数値は海拔標高を示す。

7. 上層および上器の色調記号は、農林省農林水産技術会事務局監修『新版標準上色帳』(1976)に準拠した。

8. 遺物の実測図は、下記のように分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶器、磁器	
断面白抜き……縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、石器、木器、金属器	

本文目次

第1章 平成23年度山口大学構内遺跡の調査

第1節 平成23年度に実施した遺跡調査の概要	（横山）	1
第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査		
1 特高受変電設備棟新営工事に伴う木発掘調査・立会調査	（横山）	5
2 基幹整備（第1体育館周辺排水整備）に伴う立会調査	（横山）	26
3 墓葬文化財資料館スロープ取設工事に伴う立会調査	（横山）	27
4 第2学生食堂西側テーブル・ベンチ取設工事に伴う立会調査	（横山）	28
5 農学部植物工場新設工事に伴う立会調査	（横山）	29
6 農学部連合獣医学科棟横倉庫撤去・新設工事に伴う立会調査	（横山）	30
7 教育学部附属特別支援学校散水栓増設工事に伴う立会調査	（田畠）	31
第3節 白石構内（白石遺跡）の調査		
1 教育学部附属学校園案内板設置工事に伴う立会調査	（田畠）	32
2 教育学部附属幼稚園渡り廊下根拡張工事に伴う立会調査	（田畠）	33
第4節 小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査		
1 医学部地域医療教育研修センター新営工事に伴う立会調査	（横山）	34
第5節 光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査		
1 教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う木発掘調査	（田畠）	35
2 教育学部附属光小学校遊具設置工事に伴う立会調査	（田畠）	41
付録1 平成23年度 山口大学構内遺跡調査要項		42
付録2 山口大学構内の土上な調査		45

第2章 平成23年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告（横山）68

第1節 資料館における展示・情報公開活動

1 第31回企画展「遺跡に行こう！～家族で楽しむ遺跡公園～」を開催	（横山）	69
2 第32回企画展『でた！～山口大学発掘調査速報展2011～』を開催	（横山）	70
3 山口県大学ML連携企画巡回展 『風化させない記憶への一歩～自然とともに～』山口大学会場を開催	（横山）	71
4 平成23年度刊行物	（横山）	73

第2節 資料館における社会教育活動

1 第11回公開授業 「古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう6－」を開催	（田畠）	74
---	------	----

付録1 山口市秋穂古墳の出土遺物（横山）77

付録2 山口県答倉古墳出土金属製品成分分析調査（吉田生物研究所）88

挿図目次

第1章第1節 平成23年度に実施した遺跡調査の概要	
図1 山口大学吉田・白石構内位置図	2
図2 小畠・常盤構内位置図	4
図3 光構内位置図	4
第1章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査	
図4 調査区位置図	5
図5 調査区平面図	8
図6 調査区上層断面図	9
図7 出土遺物実測図①	15
図8 出土遺物実測図②	17
図9 調査区位置図	23
図10 A～D 地点土層断面柱状図	24
図11 E～H 地点土層断面柱状図	25
図12 調査区位置図	26
図13 上層断面柱状図	26
図14 調査区位置図	27
図15 十層断面柱状図	27
図16 調査区位置図	28
図17 上層断面柱状図	28
図18 調査区位置図	29
図19 十層断面柱状図	29
図20 調査区位置図	30
図21 土層断面柱状図	30
図22 調査区位置図	31
第1章第3節 白石構内（白石遺跡）の調査	
図23 調査区位置図	32
図24 調査区位置図	33
第1章第4節 小畠構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査	
図25 調査区位置図	34
図26 B 地点土層断面柱状図	34
第1章第5節 光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査	
図27 調査区位置図	35
図28 調査区詳細図	36
図29 調査区土層断面図	37
図30 出土遺物実測図	39
図31 調査区位置図	41
第1章付録2 山口大学の主な調査	
図32 山口大学吉田構内地区割および当な 調査区位置図	61・62
図33 山口大学白石構内（幼稚園・小学校） 調査区位置図	63
図34 山口大学白石構内（中学校） 調査区位置図	64
図35 山口大学小串構内調査区位置図	65
図36 山口大学宮盤構内調査区位置図	66
図37 山口大学光構内調査区位置図	67
付録1 山口市秋穂谷倉古墳の出土遺物	
図38 遺跡位置図	77
図39 谷倉古墳石室平面図	79
図40 谷倉古墳出土金属器実測図	81
図41 谷倉古墳出土上器実測図	83
図42 山口市（三秋穂町）所蔵 谷倉古墳出土遺物実測図	83
付録2 山口県谷倉古墳出土金属製品成分分析調査	
図43 遺物IIK 1 耳環表面の金色部分	90
図44 遺物IIK 1 耳環の芯	90
図45 遺物IIK 2 耳環表面の鉛色部分	91
図46 遺物IIK 2 耳環の芯	91

写真目次

第1章第1節 平成23年度に実施した遺跡調査の概要	
写真1 吉田構内航空写真	2
写真2 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校） 航空写真	2
写真3 白石構内（教育学部附属山口中学校） 航空写真	2
写真4 小畠構内航空写真	4
写真5 常盤構内航空写真	4
写真6 光構内航空写真	4
第1章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査	
写真7 調査区調査前全景	5
写真8 調査前樹木伐採風景	5

写真9 直機掘削の模様	10	写真45 B 調査区全景	38
写真10 旧床上（L 3）検山状況	10	写真46 C 調査区北西壁上層断面	38
写真11 河川堆積土（1.5）検出状況	10	写真47 D 調査区全景	38
写真12 河川堆積土（L 5）掘削状況	10	写真48 E 調査区掘削状況	38
写真13 ピット完掘状況	10	写真49 E 調査区南東壁土層断面	38
写真14 河川床面に検出された杭列	10	写真50 出土遺物	39
写真15 完掘状況	11	写真51 A 地点全景	41
写真16 完掘状況	11	写真52 A 地点南東壁十層断面	41
写真17 調査区東壁 南壁上層断面	12	第2章第1節 資料館における展示公開活動	
写真18 調査区北壁上層断面	12	写真53 第31回企画展ポスター	69
写真19 出土遺物①	18	写真54 展示の模様	69
写真20 出土遺物②	19	写真55 第32回企画展ポスター	70
写真21 出土遺物③	20	写真56 展示の模様	70
写真22 A 地点北壁土層断面	24	写真57 展示ポスター	71
写真23 B 地点南壁十層断面	24	写真58 山口大学会場（埋蔵文化財資料館）の模様	
写真24 C 焼点有壁十層断面	24	写真59 山口大学会場（図書館）の模様	72
写真25 D 地点北壁上層断面	24	写真60 山口大学会場（図書館）の模様	72
写真26 E 地点北壁土層断面	25	写真61 設置した募金箱と缶バッヂ	72
写真27 F 地点南壁十層断面	25	写真62 平成23年度埋蔵文化財資料館刊行物	73
写真28 G 地点南壁上層断面	25	第2章第2節 資料館における社会教育活動	
写真29 H 地点北壁土層断面	25	写真63 第長挨拶（6月18日）	75
写真30 土層断面	26	写真64 苗の説明（6月18日）	75
写真31 改修工事風景	27	写真65 田植え（6月18日）	75
写真32 上層断面	28	写真66 犀の説明（7月30日）	75
写真33 柱穴検査状況	29	写真67 土器づくりの説明（7月30日）	75
写真34 土層断面	30	写真68 土器づくり（7月30日）	75
写真35 調査区全景	31	写真69 犀の状況（9月13日）	75
写真36 調査区上層断面	31	写真70 犀の收穫（10月22日）	75
第1章第3節 白石構内（白石遺跡）の調査		写真71 泥塗づくり（10月22日）	76
写真37 調査区全景	32	写真72 烧成後の土器（10月23日）	76
写真38 調査区上層断面	32	写真73 美による選別（11月12日）	76
写真39 B 地点土層断面	33	写真74 朴葉焼（11月12日）	76
写真40 C 地点土層断面	33	写真75 釜食メニュー（11月12日）	76
第1章第4節 小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査		写真76 食事風景（11月12日）	76
写真41 D 地点上層断面	34	付録1 山口市秋桜畠倉古墳の出土遺物	
第1章第5節 光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査		写真77 耳環保存処理前	77
写真42 A 調査区調査前全景	35	写真78 鉄器保存処理前	77
写真43 C 調査区調査前全景	35	写真79 発掘調査時の省倉古墳	79
写真44 A 調査区全景	38		

写真80 遺跡地遠景	79	写真86 答合古墳出土余属器X線画像②	86
写真81 遺跡地近景	79	付録2 山口県答合古墳出土金属製品成分分析調査	
写真82 答合古墳出土土器	83	写真87 遺物H K 1	88
写真83 答合古墳出土金屬器①	84	写真88 遺物H K 2	88
写真84 答合古墳出土金屬器X線画像①	85	写真89 遺物H K 1の接面	89
写真85 答合古墳出土金屬器②	86	写真90 遺物H K 2の接面	89

表目次

第1章第1節 平成23年度に実施した遺跡調査の概要	
表1 平成23年度山口大学構内出土遺物一覧表	1
第1章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査	
表2 山上遺物（土器）観察表	21・22
表3 山上遺物（石器）観察表	22
第1章第5節 光構内（御平洗遺跡・月待山遺跡）の調査	
表4 出土遺物（土器）観察表	39
第1章付録2 山口大学の主な調査	
表5 山口大学構内の主な調査一覧表	45

第2章 山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告	
表6 埋蔵文化財資料館利用者の推移	68
表7 平成23年度月別入館者数	68
付録1 山口市秋穂答合古墳の出土遺物	
表8 山上遺物（土器）観察表	86
表9 出土遺物（金属器）観察表	87
付録2 山口県答合古墳出土金属製品成分分析調査	
表10 試料表	88
表11 答合古墳出土金属製品成分分析結果表	89

第1章 平成23年度山口大学構内遺跡の調査

第1節 平成23年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連施設は、山口市(吉田・白石構内)、宇部市(小串・常盤構内)、光市(光構内)の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概観すると、吉田構内は繩文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡として県内でも著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物が出土する山口大学医学部構内遺跡内・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は繩文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡と川待山遺跡内にまたがって位置している。

このような環境の下、山口大学埋蔵文化財資料館は山口大学構内に埋存する貴重な埋蔵文化財を保護・調査・研究・活用する施設として、昭和53年(1978)に職員が配置されて以来、その重責を担い続けている。当館の平成23年度時の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画の確認を行った後、文化財保護法の諸手続の下、山口大学各構内に位置する地方公共団体(山口県および各市)の指導により、埋蔵文化財保護の立場から本発掘・予備発掘・立会の3種の方法で調査を厳密に行っている。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設(職員宿舎等)敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して、出来る限り工事掘削時に資料館員が確認調査を行っている。これらの調査に対する当館の平成23年度の職員配置は、専任教員2名と教務補佐員1名、事務補助員1名である。

上記の調査の結果で埋蔵文化財が確認された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく、T.事計画・T.事設計の変更等で現状保存が可能であるかどうかについて厳密な協議を行い、保存方法を決定している。また、調査成果については地方公共団体への報告後、内業整理等を経て可能な限り迅速に発掘調査概報(本書)を刊行している。

上記の調査体制の下、平成23年度に当館が実施した大学構内における埋蔵文化財の調査は、表1

表1 平成23年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地図	構内地図区割	面積(m ²)	調査期間	本書掲載頁
本 整備	特高受電設備棟新設工事	吉田	P-16	200	5月9日～6月23日	5～22
予備 整備	教育学部附属光学校下水道接続工事	光		19.4	9月12日～9月18日	35～40
	特高受電設備棟新設工事	吉田	Q-16 R・S・T・U・V-17	280	12月16・19～21・26・27日 1月5・6日	22～25
	基幹整備(第1体育館周辺排水整備)工事	吉田	G-13・14	72	1月27日	26
	埋蔵文化財資料館エレーブ取設工事	吉田	N-16	48	2月28日	27
	第2学生食堂西側テーブル・ベンチ取設工事	吉田	M-15	8	3月9日	28
	農学部植物工場新設工事	吉田	P-15	224	3月21・22日	29
	農学部融合医学科棟新設工事	吉田	O-17	75	3月6日	30
	教育学部附属特別支援学校水栓増設工事	吉田	C-D-21	16.8	12月22日	31
立会	教育学部附屬学校園案内板設置工事	白石		1	7月25日	32
	教育学部附屬幼稚園渡り廊下屋根拡張工事	白石		11.5	8月3日	33
	地域医療教育研修センター新設工事	小串		4	9月6・9・16日	34
	教育学部附属光小学校遊具設置工事	光		20	8月1日	41

の通り、本発掘調査1件、予備発掘調査1件、立会調査11件の計13件であった。

吉田構内（本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市吉田1677-1）、教育学部附属幼稚園・小学校：同吉田5003番地）

例年通り、平成23年度の埋蔵文化財調査も吉田構内に集中し、その件数は本発掘調査1件、立会調査7件を数える。

特高受変電設備棟新営に伴う本発掘調査では、南東-北西方向に走る旧河川が検出された。埋積土には主として古代後期から中世初頭の遺物が含まれており、河川が機能した時期を推定できる。調査範囲に遺構は希薄であったが、河道に直交するかたちで河床に杭列が設けられていることが確認された。また、杭列に近接して左岸にピット1基が設けられていることも確認された。

立会調査では、埋蔵文化財に支障が生じた工事は少なかったものの、特高受変電設備棟に近接する農学部植物工場新設工事にて、大型の柱穴1基を確認した。工事地周辺では北東に隣接する農学部



写真1 吉田構内航空写真（南東から）



図1 山口大学吉田・白石構内位置図



写真2 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校）
航空写真（東から）



写真3 白石構内（教育学部附属山口中学校）
航空写真（南から）

植物工場敷地にて古代の土器を主とする遺物包含層が、また東に隣接する農学部農業観測実験施設では大型掘立柱建物跡が検出されている。当地周辺に古代官衙が存在した可能性は極めて高く、今後も慎重な対応が必要と言える。

白石構内（教育学部附属山口幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同山口小学校：白石三丁目1-1、同山口中学校：白石一丁目9-1所在）

立会調査2件を実施した。このうち教育学部附属幼稚園渡り廊下吊根括張工事に伴う立会調査では、調査した4地点中3地点で遺物包含層を確認し、弥生土器または土師器の小片が出土している。

小串構内（教育学部、医学部附属病院：宇部西蒲小串1丁目1-1）

立会調査1件を実施した。平成22年度に予備発掘調査を実施した地域医療教育研修センター棟の配管設備ルートにおいて、4箇所で立会を実施した。近世の客土とその下位に遺物包含層が形成されていることを確認したが、遺物の発見には至らなかった。

常盤構内（工学部、宇部市立常盤2丁目16-1、尾山寮寄宿：同上町2668-3所有）

予備発掘調査1件と立会調査1件を実施した。教育学部附属光学校下水道直接工事に伴う予備発掘調査では、配管予定地5箇所を対象に発掘調査の手を加えたが、遺構面形成層の確認はできたものの遺構の検出には至らなかった。

教育学部附属光小学校遊具設置工事に伴う立会調査では、木製アスレチックの基礎掘削部において遺構面形成層と見られる砂層を検出したが、遺構の確認には至らなかった。

平成23年度は、例年に比して構内における土地の掘削を伴う開発工事計画数が少なかったため、当館としても十分な体制で埋蔵文化財保護対応を実施することができた。特に、古山構内において今までやや不明確であった平安時代後期から中世初期の遺構分布の一端を得ることができたのは大きな成果と言える。他の構内では、工事計画が少なく、かつ埋蔵文化財に大きな支障は生じる工事は行われなかつた。



図2 小串・常盤構内位置図



写真4 小串構内航空写真（南東から）



写真5 常盤構内航空写真（南から）



写真6 光構内航空写真（北東から）



図3 光構内位置図

第2節 吉田構内(吉田遺跡)の調査

1. 特高受変電設備棟新設工事に伴う

本発掘調査・立会調査

調査地区 吉田構内P-16区

調査面積 200m²

調査期間 平成23年5月9日～6月23日

調査担当 横山成己 松浦暢昌

調査結果

平成23年(2011)2月、施設環境部より吉田構内に特高受変電設備を新設する事業計画が大学情報機構に提出された(図4、写真7・8)。工事計画地周辺では、南に隣接する農学部連合獣医学科棟にて縄文時代の河川が、北に近接する農学部農場観測施設では古代の大型掘立柱建物跡が検出されている。今回の工事計画地においても埋蔵文化財が検出される可能性は極めて高く、新築計画部分は本発掘調査が、配管部分は工事中の立会調査が妥当と判断されたため、その旨平成22年度第9回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成23年2月16日開催:メール審議)に諮り、了承された。

【註】

- 1) 田中和之(1994)「吉田構内農学部連合獣医学科棟新設に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅡ』,山口
- 2) 河村吉行(1992)「吉田構内農学部農業環境観測実験施設新設工事に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X』,山口

(1) 調査の経過(写真9～12)

設備棟建設予定地全域を対象とする本発掘調査は、平成23年(2011)5月6日(金)に事前工(安全フェンス・仮設ハウス設置)、座標杭設置、レベル移動を行った。重機掘削は5月9日(月)より着手し、間に3日間の雨天中止をはさみながら、5月16日(月)に旧耕土層(L2)上面までの掘削を終了した。

翌5月17日(火)からは人力による堆積層掘削を開始した。旧耕土(L2)、旧床上(L3)、自然堆積層



図4 調査区位置図



写真7 調査区調査前全景(北西から)



写真8 調査前樹木伐採風景(南から)

(遺物包含層:L4)、検出された河川堆積層(L5)の順に除去し、6月14日(火)までに掘削を終えた。6月15日(水)・17日(金)両日で完掘状況および調査区断面、遺構等の写真撮影を行い、各種測量も完了した。

埋め戻しは6月21日(火)より行い、23日(木)に全工程を終えた。

(2) 基本層序(図6、写真17・18)

今回の調査では、現地表下2.6mまでの地層を確認した。基本層序は6層に大別される。以下、文章中では地層区分を「L○」と表記する。

L1は本学統合移転に伴う造成土層で、層厚は約110~150cmを測る。層中からは探土を行った場所に元来埋蔵されていたとみられる須恵器片や磁器片などの混人が見られるが、量は少ない。

L2はオリーブ褐色~暗灰黄色の極細粒砂質シルト層で層厚は最大で15cmである。上面は造成時に削平を受けているようであり、層厚は一定しないが、下面に残る耕作痕やほぼ均質な土質と植物の根の痕跡が見られることから、大学造成前の耕土遺存層と判断される。層中からは主として近世から近代の遺物が出土している。

L3はオリーブ褐色極細粒砂質シルト層であり層厚は約10cmとなる。上面に耕作痕と植物の根による酸化鉄がみられる。上面はほぼ水平となるが、層下位は傾斜が旧地形を明確に反映するため、本層は整地土層(旧床土)であると判断した。層中に含まれる遺物は古代が主体を占めるが、近世陶磁も含まれるため、当地が耕地化された時期を伺い知ることができる。

L4は暗灰黄色~オリーブ褐色の極細粒砂質シルトと、練~中疊混りシルト質極細粒~細粒砂の2層に大きく分類ができる。前者の層厚はおよそ5~30cmを測り、後者は5~20cmを測る。後者の疊混り層が高所を除いて全域に分布するが、総体的にラミナは見られず河川埋没(1.5堆積)後の自然堆積と考えられる。層中に含まれる遺物は古代から中世後期までが主体を占める。

L5は黒色~オリーブ黒色のシルト質極細粒砂~粘土質シルトと、暗灰黄色や褐色の砂礫の中疊~中流砂、シルト質砂などからなる自然河川の埋土でラミナが多く見られる。層厚は最大で50cmを測る。粘土やシルト層は暗色を呈しており、層中に植物遺体を含む。流路内北側では流路とほぼ直行方向で杭列が検出されている。層中に含まれている遺物の上部は、古代後半期から中世初頭とある程度のまとまりを見せる。

L6はオリーブ黒色~灰色シルト混り細粒砂~中疊層で最大層厚は60cm以上となる。北東と南西に高地を形成し、自然河川の下部へと続いている。層上面清掃中に石礫1点を検出したが、調査区側溝断ち割り部においては明確な遺物を確認することができなかった。調査では当地層を地山と判定したが、縄文時代以前の堆積層である可能性は否定できない。

【註】

- 1) 調査終了後の平成23年(2011)1月13日、新学建物基礎工事(現地表下約7mの掘削)が実施されたため、立会調査を実施した。その結果、L6は層厚約1.2mの堆積であり、下位に5m以上の岩盤風化層が存在することが確認された。基礎坑が裏堀であり、安全性が確保されないことから断面特査は実施しなかったが、目視した限りでは下位に遺構は存在せず、L6が遺物包含層である確証も得られなかった。

(3) 遺構(図5)

自然河川、ビット、杭列が確認された。

自然河川(写真17・18)

調査区中央やや東寄りに、南東から北西に走る自然河川を検出した。測量により河床が調査区内で緩やかに北西に傾斜することが分かるが、人休の感覚で感じられるほどのものではない。河川幅は調査区中央寄りで最も狭く、2.2mを測る。上流である南東部はやや広がり、幅3.4mを測る。深さは最深部で約0.7mであるが、河川の下位にもぐる堆積層L6上面が河川沈殿物などにより変質しているため、厳密な河床を特定するのは困難であった。埋積土(1.5)は複雑で、一定期間流水と淀みが繰り返されたものと推測される。堆積土からは、平安時代後期から中世初期にかけての土器器塊・环類などが出土している。

ピット(写真13)

調査区内で確認されたピットは1基のみであり、調査区中央西よりに検出した。Pit1は地山(1.6)北東傾斜地に設けられており、平面形は長軸60cm、短軸52cmの橢円形で、深さは32cmを測る。当ピットは河川堆積土(L5)の下位より検出したものである。遺構埋土は均質で、暗灰黄色(2.5Y5/2)強粘質土である。埋土内からは、土器器塊2点が出土している。

杭列(写真14)

調査区北側西寄りの自然河川河床に、南西→北東方向に並ぶ杭列を確認した。およそ0.5m間隔で杭3本が1組となるように配されており、水流に対し直交することから堰としての機能を考えられるが断定できない。

以上が調査区内に検出された遺構の全てである。吉田遺跡では、護岸用と考えられる杭列は複数箇所で検出されているが、河川の走向方向に直交する杭列は確認例がなく、本件が初出である。ピットとの関係については、近接することから一連の構造物とも考えられるが、河川対岸を未検出であるため憶測を控えたい。

(4) 遺物(図7~9、写真19~21、表2・3)

ここでは、基本層序に従って出土遺物を報告する。なお、L4およびL5は可能な限り細分した層位で遺物の取り上げを行ったが、堆積状況が複雑であったため厳密な意味では出土層位を保証できない。表では細分層(L○ ○)まで明記したが、ここでは基本層序で一括する。

L1

1は須恵器皿の口縁~底部片。小片であるが底部棱線から復元した。平底の底部から外開きに体部が立ち上がるが、わずかに外反する。口縁端部は丸く取める。復元口径22.8cm、復元底径18.6cm、器高2.6cmを測る。

L1からは他に弥生土器と思われる底部付近の小片が出土しているが、ここでは報告を省く。

L2

2は須恵器環蓋の小片である。端部復元口径は11.8cm、かぶり径は10.2cmであり環G蓋と見られる。残存高2.1cm。

3~6は陶器。3は香炉蓋と見られる陶器蓋の大井~口縁部片。外面大井部は露胎で口縁のみ灰釉がかかるが自然釉の可能性がある。4は陶器皿の口縁~一体部片。復元口径11.5cmを測る。内面から口縁外面には灰釉がかかるが、体部外面は露胎。5は陶器碗底~一体部片。復元高台径4.2cm、残存高1.65cmを測る。内面および体部外面は灰釉がかかり、底部は高台付まで鉄釉がかかる。6は陶器播鉢口縁部片。内面には残存部に7条の鉤目が確認される。口縁端部外面を断面台形状に肥厚させており、全面

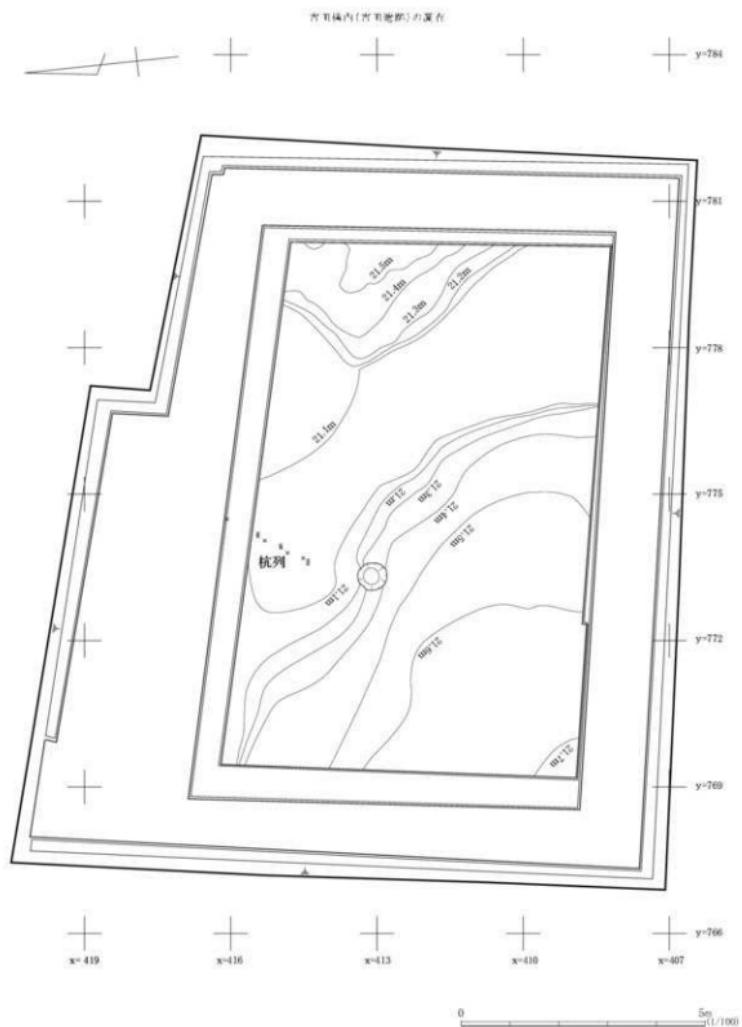


図5 調査区平面図

古河橋内(古河市郊)の位置



【L.3】

1 オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト質極細粒砂(細縫少含む)

【L.4】

2 暗灰黄色(2.5Y4/2)含細縫シルト

3 オリーブ色(GV4/3)細～中縫混り極細粒～細粒砂

4 暗灰黄色(2.5Y4/2)含粘土細粒砂(縫～中縫を一部含む)

【L.5】

5 オリーブ黒色(GV3/1)シルト質極細粒砂

6 オリーブ墨～灰色(7.5V3/1)細～大縫混り極細粒砂

7 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土混りシルト質極細粒～細粒砂

8 オリーブ色(7.5V4/2)シルト混り極細粒砂～暗オリーブ灰色(2.5GV4/1)シルト質極細粒砂～中縫

9 シルト質極細粒砂(縫～中縫を一部含む)

10 オリーブ色(GV4/2)極細粒砂～中縫

11 暗オリーブ色(GV4/1)粘土混り極細粒～粗粒砂と細縫・中縫

【L.6】

12 暗オリーブ色(7.5V4/2)シルト混り極細粒砂～暗オリーブ灰色(2.5GV4/1)シルト質極細粒砂～中縫

13 シルト質極細粒砂(縫～中縫を一部含む)

14 オリーブ黒色(GV3/2)シルト質極細粒砂

(灰)オリーブ色(7.5V3/1)細～大縫混り極細粒砂

15 黒褐色(2.5V3/2)粘土～細粒砂

16 黑褐色(2.5V3/1)粘土混り極細粒砂

17 黑褐色(2.5V2/1)粘土混り極細粒砂

【L.7】

18 暗灰黄色(2.5V4/2)粗粒砂混りシルト質極細粒砂

19 オリーブ色(7.5V3/2)極細粒砂(粗粒砂と少含む)

20 オリーブ色(7.5V3/2)～灰オリーブ色(2.5V4/2)

含粘土中粒～細縫混り極細粒～極細粒砂

21 明オリーブ～墨～オリーブ褐色(2.5V3.5/3)

細～中縫混り中粒～粗粒砂

22 暗灰黄色(2.5V4/2)細～中縫混り中粒～粗粒砂

23 暗オリーブ色(5V3/2)シルト～シルト質極細粒砂

24 オリーブ灰色(2.5GY4/1)極細粒～粗粒砂

【L.8】

0 造底土

1 オリーブ褐色(2.5V4/3)シルト(細縫少含む)

2 オリーブ褐色(2.5V4/4)極細粒砂質シルト

3 暗灰黄～オリーブ褐色(2.5V4/2)～30極細粒砂質シルト

4 反オリーブ色(5V4/2)細～中縫混り極細粒～極細粒砂

5 暗灰黄～オリーブ褐色(2.5V4/2.5)極細粒砂質シルト

(粗粒砂と細縫含む)

6 暗灰黄(2.5V4/2)極細粒砂

7 暗灰黄～オリーブ褐色(2.5V4/2.5)

極細粒砂質シルト(細縫含む)

8 オリーブ褐色(2.5V4/4)シルト質極細粒砂(細～中縫多く含む)

9 オリーブ褐色(2.5V4/3)シルト質極細粒砂(細～中縫多く含む)

10 暗灰黄色(2.5V4/2)極細粒砂質シルト(極粗粒砂少含む)

11 オリーブ黒色(GV3/2)粘土砂～中縫混りシルト質細粒砂

12 暗灰色(GV4/1)粘土～中縫混りシルト質極細粒砂

13 オリーブ黑色(5V3/1)シルト質極細粒砂

14 オリーブ黑色(5V3/2)シルト質極細粒砂

(灰)オリーブ色(7.5V3/1)細～大縫混り極細粒砂

15 黑褐色(2.5V3/2)粘土～細粒砂

16 黑褐色(2.5V3/1)粘土～粗粒砂

17 黑褐色(2.5V2/1)粘土～粗粒砂

18 黑褐色(2.5V2/1)粘土～粗粒砂

19 暗灰黄色(2.5V4/2)粗粒～細粒砂

20 オリーブ墨～灰墨(7.5V3.5/1)粘土～粗粒砂

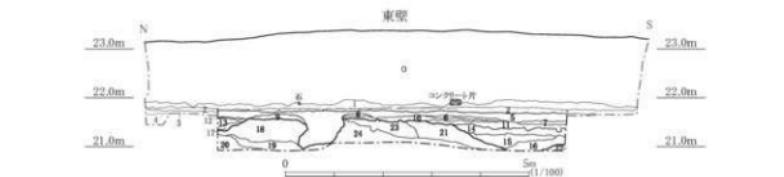
21 オリーブ墨～灰墨(7.5V3.5/1)粘土～粗粒砂

22 オリーブ色(GV3/2)含粘土粗粒砂混り細粒砂

23 暗灰(0V4/1)～暗オリーブ灰色(GV4/1)極細粒砂質シルト

24 暗灰黄色(7.5V4/1)粗粒砂混り極細粒砂質シルト

25 オリーブ墨～灰墨(7.5V3.5/1)粘土～粗粒砂



【L.1】

0 造底土

1 オリーブ褐色(2.5V4/3)シルト(細縫少含む)

2 オリーブ褐色(2.5V4/4)極細粒砂質シルト

3 暗灰黄～オリーブ褐色(2.5V4/2)～30極細粒砂質シルト

4 反オリーブ色(5V4/2)細～中縫混り極細粒～極細粒砂

5 暗灰黄～オリーブ褐色(2.5V4/2.5)極細粒砂質シルト

(粗粒砂と細縫含む)

6 暗灰黄(2.5V4/2)極細粒砂

7 暗灰黄～オリーブ褐色(2.5V4/2.5)

極細粒砂質シルト(細縫含む)

8 オリーブ褐色(2.5V4/4)シルト質極細粒砂(細～中縫多く含む)

9 オリーブ褐色(2.5V4/3)シルト質極細粒砂(細～中縫多く含む)

10 暗灰黄色(2.5V4/2)極細粒砂質シルト(極粗粒砂少含む)

11 オリーブ黒色(GV3/2)粘土砂～中縫混りシルト質細粒砂

12 暗灰色(GV4/1)粘土～中縫混りシルト質極細粒砂

13 オリーブ黑色(5V3/1)シルト質極細粒砂

14 オリーブ黑色(5V3/2)シルト質極細粒砂

(灰)オリーブ色(7.5V3/1)細～大縫混り極細粒砂

15 黑褐色(2.5V3/2)粘土～細粒砂

16 黑褐色(2.5V3/1)粘土～粗粒砂

17 黑褐色(2.5V2/1)粘土～粗粒砂

18 黑褐色(2.5V2/1)粘土～粗粒砂

19 暗灰黄色(2.5V4/2)粗粒～細粒砂

20 オリーブ墨～灰墨(7.5V3.5/1)粘土～粗粒砂

21 オリーブ墨～灰墨(7.5V3.5/1)粘土～粗粒砂

22 オリーブ色(GV3/2)含粘土粗粒砂混り細粒砂

23 暗灰(0V4/1)～暗オリーブ灰色(GV4/1)極細粒砂質シルト

24 オリーブ墨～灰墨(7.5V3.5/1)粘土～粗粒砂



【L.3】

1 オリーブ褐色(2.5V3.5/1)シルト質極細粒砂(細縫少含む)

【L.4】

2 暗灰黄色(2.5V4/2)極細粒砂質シルト(細縫少含む)

3 灰色(GV4/1)細～中縫混りシルト質極細粒砂

4 オリーブ黒色(5V3/1)シルト質極細粒砂

5 灰色(GV4/1)含粗粒砂シルト質極細粒砂

6 喀灰黄色(2.5V4/2)極細粒砂～細粒砂(中縫含む)

～黑褐色(2.5V3/1)粘土質シルト

7 オリーブ褐色(5V3/1)シルト質極細粒砂(粗粒砂少含む)

8 オリーブ褐色(2.5V4/2)極細粒砂～細粒砂(中縫含む)

～黑褐色(2.5V3/1)粘土質シルト

9 オリーブ褐色(5V3/1)シルト質極細粒砂(粗粒砂少含む)

10 オリーブ褐色(2.5V3/1)極細粒砂～細粒砂(中縫含む)

11 黑色(GV2/1)極細粒砂

12 黑～オリーブ褐色(2.5V2/1)極細粒砂～細粒砂質粘土質シルト

13 黑色(GV2/1)極細粒砂質シルト

14 オリーブ墨～灰墨(7.5V3.5/1)粘土～粗粒砂

15 明暗灰黄色(2.5V4/2)粗粒～細粒砂

16 喀灰黄色(2.5V4/2)粗粒～細粒砂

17 喀灰黄色(2.5V4/2)粗粒～細粒砂

18 喀灰黄色(2.5V4/2)粗粒～細粒砂

19 喀灰黄色(2.5V4/2)粗粒～細粒砂

20 オリーブ墨～灰墨(7.5V3.5/1)粘土～粗粒砂

21 オリーブ墨～灰墨(7.5V3.5/1)粘土～粗粒砂

22 オリーブ色(GV3/2)含粘土粗粒砂混り細粒砂

～灰～オリーブ色(5V4/2)中縫砂～細粒砂

23 暗灰(0V4/1)～暗オリーブ灰色(GV4/1)極細粒砂質シルト

24 暗灰黄色(7.5V4/1)粗粒砂混り極細粒砂質シルト

25 オリーブ墨～灰墨(7.5V3.5/1)粘土～粗粒砂

図6 調査区土層断面図



写真9 重機掘削の模様(南東から)



写真10 旧床土(L3)検出状況(南東から)



写真11 河川堆積土(L5)検出状況(南東から)



写真12 河川堆積土(L5)掘削状況(北西から)



写真13 ピット完掘状況(北から)



写真14 河川底面に検出された杭列(南から)



写真 15 完掘状況（南東から）



写真 16 完掘状況（南西から）



写真17 調査区東壁-南壁土層断面(北西から)



写真18 調査区北壁土層断面(南から)

に鉢軸がかかる。

このほか、L2からは須恵器、土師器、瓦質土器、青磁、瓦、横櫛などが出土しているが、いずれも小片である。

L3

7は磁器小鉢の口縁一体部片。口縁内端部に太い圓線が1条巡らされる。復元口径9.6cmを測る。

8～10は須恵器。8は須恵器境口縁一体部片。やや内湾する部から口縁は短く外反する。部にロクロ水引痕が明瞭に残る。小片のため口径復元不能。9・10は須恵器坏口縁部片。9は口縁端部を尖り気味に丸く收め、10は口縁端を短く外反させる。両者とも小片であり口径復元不能。

L3からはこのほか土師器片、須恵器体部片などが出土しているが、いずれも図化不能である。

L4

11～18は土師器。11は境口縁一体部片。体部は緩やかに内湾し、口縁を軽く外反させる。口縁端部は丸く收める。器面の風化が著しいが、ロクロ水引痕がわずかに観察される。復元口径13.0cmを測る。12は高台の皿底部片。復元高台径7.4cm、残存高2.5cmを測る。底部外面に糸切り痕が残る。13は坏底一体部片。底部には回転糸切り痕が残り、底部外端に形骸化した断面三角形の低い高台が付加される。内面は横および斜め方向に丁寧にミガキが施されている。他の土師器と異なり胎土に金雲母が多く含まれている。復元高台径6.6cm、残存高2.85cm。14～16は坏。いずれも底部に糸切り痕が残る。15は完形復元可能な個体で、体部はあまり開かず直線的に立ち上がる。口縁部はやや肥厚している。外面焼成痕により重ね焼かれた状況が分かる。復元口径12.2cm、底部径5.6cm、器高4.65cm。16は15に比して器壁が薄いが、同様にあまり開かず直線的に立ち上がる。復元底部径7.4cm、残存高3.2cmを測る。17は皿の口縁一底部片。口縁の立ち上がりは短く、端部は丸く收める。復元口径7.5cm、復元底部径5.6cm、器高1.1cm。18は土師器坏口縁部片。直線的な口縁で、端部は丸く收める。小片のため口径復元不能。

19～21は瓦質土器。19は火鉢口縁一体部片。小片のため口径復元不能であるが、浅鉢形と見られる。口縁端部外端はヨコナダゲにより面を取り、内端は蒲鉾形に肥厚させる。口縁外面下に「米」字状のスタンプを連続して施す。20は擂鉢。体部下端の破片と見られるが、底部は剥離している。内面の凹目は7条が遺存する。21はやや須質焼成の足端脚部片。脚部上位の破片と見られ、内面に明瞭に指圧痕が残っている。

22～27は須恵器。22は蓋の大井一口縁部片。口縁端部および大井中央部を欠失している。扁平な蓋であり、調整は外面口縁および天井外方は回転ナデ、他はナデを施す。23は高台付き坏の底一体部片。復元高台径は7.6cm、残存高2.1cmを測る。底部外端に断面逆台形の小ぶりな高台が付き、高台端部全面で接地する。底部外面はヘラ起こし未調査である。24も高台付き坏の底部片。焼成不良品である。底部外端に高台が付くが、端部は欠失しており、部分的に底面から剥離している。25は壺類の底部片。小片であるが、高台剥離痕から径を復元した。器壁の厚い個体であり、底部外面外端には幅太の高台が剥離した痕跡を残す。26は高坏根部片。復元根部径9.2cm、残存高0.65cmを測る。脚部から屈曲気味に外方に開き、端部を下垂させている。27も高坏根部片である。26と同様の形態であるが、根端部および下垂部が丸みを帯びる。

45は打製凹基石鐵。先端部と基部の一部を欠失する。基部の抉りが深く、側縁部の摩耗が顕著である。風化のため稜線が明確でないが、一部に主要剥離面が観察される。残存長1.86cm、幅1.46cm、厚さ0.33cm、重量0.58g。サヌカイト製と見られる。

このほか、L4からは須恵器壺、土師器壺、土師器盃、白磁碗、瓦質土器探ね鉢などバラエティーに富んだ資料が出土しているが、いずれも体部小片であることから、ここでは図示しない。

L5

河川堆積土から出土した資料を報告する。

28～38は十師器。28は完形復元可能な高台付き壺。底部から体部が大きく開き内湾して上がり、口縁はわずかに外反する。口縁端部は鈍く面を取る。体部内面は単位は観察できないが丁寧にミガキが施されている。外面調整は口縁部付近が回転ナデ、他は不定方向のナデ。底部外端やや内側に丸みを帯びた断面三角形状のこぶりな高台が付く。底部外面はナデが施される。復元口径16.0cm、高台径5.6cm、器高5.8を測る。調査区北西部最上層からの出土である。29は高台付き壺の底一体部片。26と同様底部から体部が大きく開き内湾して立ち上がる。底部外端に丸みを帯びた三角形状の高台が付く。体部内面は縱方向に緻密なミガキが、外面は丁寧にナデが施されており、底部外面もナデが施される。高台径5.4cm、残存高2.6cm。30は壺の底部片。強く内湾する底部の外端に長い高台が付く。底部内面および高台外面はナデ、高台内面は回転ナデ調整が施される。底部外面は摩耗が著しい。復元高台径6.4cm、残存高1.1cmを測る。31も高台付き壺底部片。底部外端に幅太で低い高台が付く。内面は風化で調整が判別できないが、外面にはナデが施されている。復元高台径6.8cm、残存高1.5cm。32は壺底部片。円盤高台で、底部外面に糸切り痕が残る。復元底部径6.0cm、残存高1.2cmを測る。33も円盤高台の壺底部。こちらは底部外面にナデが施される。復元底部径5.7cm、残存高1.25cmを測る。34はここでは土師器壺底一体部片として報告するが、須恵器の焼成不良品である可能性も残す。半底の底部から体部はあまり開かず直線的に立ち上がる。体部内外面とも回転ナデ調整を施す。復元底部径11.0cm、残存高2.6cm。35・36は壺口縁部片。いずれも小片のため、口径復元不能な資料である。35は内湾気味の体部で口縁は軽く外反させ、口縁端部は丸く收める。口縁水引痕が明瞭に残る。36は直線的に体部が開く個体で、壺の可能性もある。口縁端部は尖り気味に丸く收める。内外面とも回転ナデが施される。37はここでは皿の口縁部片としておく。体部が大きく開く個体と見られ、口縁端部は丸く收める。小片のため口径復元不能。38は甕の口縁部片。直線的に軽く外傾する口縁で、端部は尖り気味に丸く收める。小片のため口径復元不能。

39～41は須恵器。39は高台付き壺の底一体部片。壺としては器壁の厚い體である。体部は開かず直立気味に立ち上がるが、口縁付近で外反するものと思われる。体部内外面とも回転ナデ調整が施される。底部外端に断面逆台形の高台が開き気味に付き、高台内端部で接地する。復元高台径9.2cm、残存高3.55cmを測る。40は蓋の口縁部片。扁平な器形の蓋で、口縁部をほぼ垂直に下垂させ、端部は丸く收める。小片のため口径復元不能。胎土は精緻で、焼成も良好の優品である。41は甕の口縁部片。外面口縁下に断面三角形の小さな突脊を巡らす。下位には波状文が施される。口縁端部は鈍く面取りを行っている。小片のため口径復元不能。

Pit1

埋土からは42・43のみが出土している。42は完形復元可能な十師器壺である。大きく外方に開き緩やかに内湾する体部を有し、口縁端部は丸く收める。底部外端に丸みを帯びた断面三角形状の高台が付く。内面は風化が著しく調整の観察が困難であるが、底部から体部下位までミガキが施されているようである。上位から口縁にかけては回転ナデ。外面は口縁付近に回転ナデ、下位はナデが施される。底部には回転糸切り痕が明瞭に残る。復元口径15.2cm、高台は垂みがあるが径5.6cm程度、器高4.9cmを測る。43は平底の土師器壺。接合しないが同一個体の底一体部と口縁部片が存在する。38と異なり無高

古井場内(吉田遺跡)の遺存

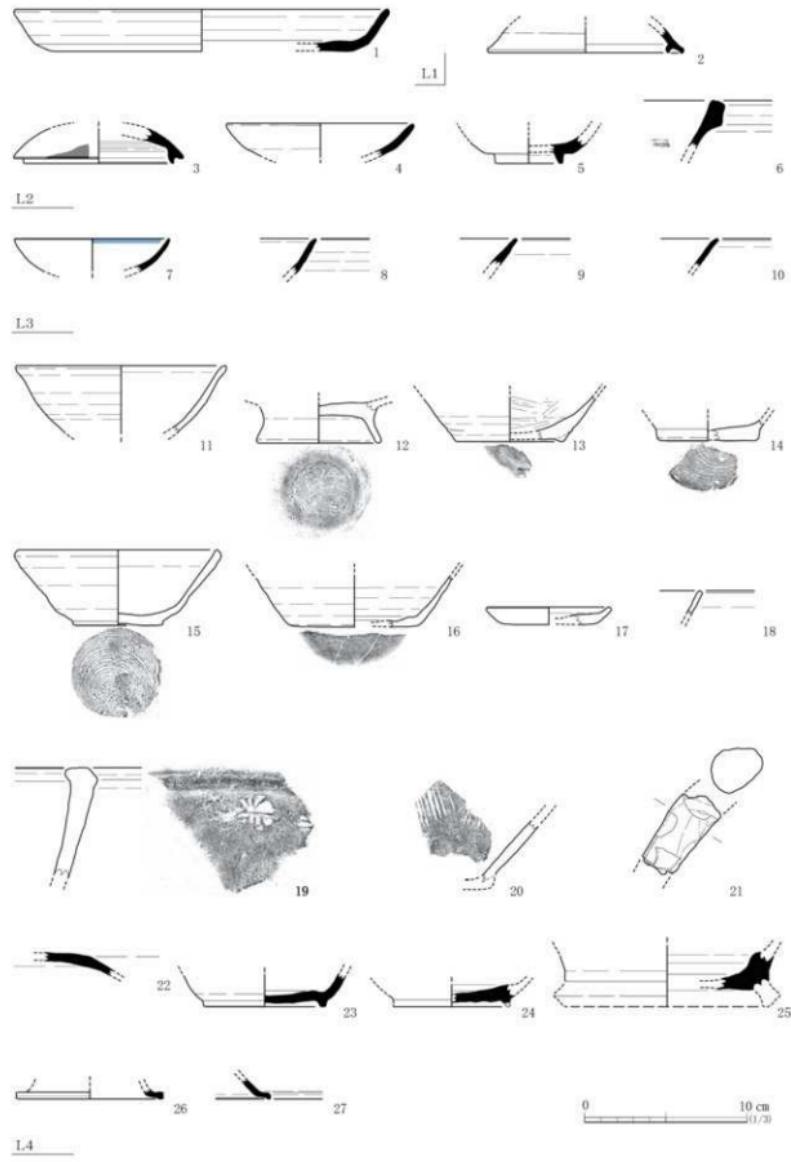


図7 出土遺物実測図①

台であり、上げ底気味の底部であるが、体部から口縁部にかけての器形はほぼ同一と言って良い。体部内面と口縁から体部中位までの外面に回転ナデ、底部内面と体部外面下位にナデが施される。底部外面には糸切り痕が明瞭に残る。図上では口径と器高を復元したが、接合不能な資料であり根拠はない。底部径5.6cmを測る。

L5からはこのほか各器種の体部片が出土しているが、ここでは図示しない。いずれも土師器または須恵器である。

L6(地山)

層上面精査中に石鎚1点を確認した。44は打製回基石鎚、基部の一部を欠失するが、ほぼ完形品である。45に比して基部の抉りが浅い。こちらも風化のため稜線が明確でないが、片面に主要剥離面が観察される。残存長1.68cm、幅1.38cm、厚さ0.28cm、重量0.47g。サヌカイト製と見られる。

(4) 本発掘調査小結

今回の調査では、遺構の分布は希薄であったが、調査区内に自然河川と堰状杭列、杭列に近接してピット1基が検出された。

当館の既往の調査では、南西に近接する連合獣医学研究科棟敷地において北東から南西に走ると見られる繩文時代の埋没河川が確認されているため、走向から当調査地においてもその上流が検出されるものと予想されたが、方向を互いにする南東から北西に走る自然河川が確認されたことは想定外であった。

河川堆積土(L5)出土遺物からみると、古墳時代の遺物が少量混ざるもの、10世紀から12世紀に所属する遺物が主体である。埋積土上層から12世紀代と見られる土師器壺(28)が出土しており、また河川埋積土に覆われたPit1からもあり時期差の見られない土師器壺(42・43)が出土していることから、当河川の存続期間はそれほど長くなかったものと考えられる。また、平成12年(2000)に調査地の南東300m地点で実施された総合研究棟新営に伴う試掘調査¹では、同じく南東から北西に走る河川が検出されている。埋積土から円面鏡などが出土していることから平安時代の河川と推定されており、当調査区で確認された河川との関係が注目される。

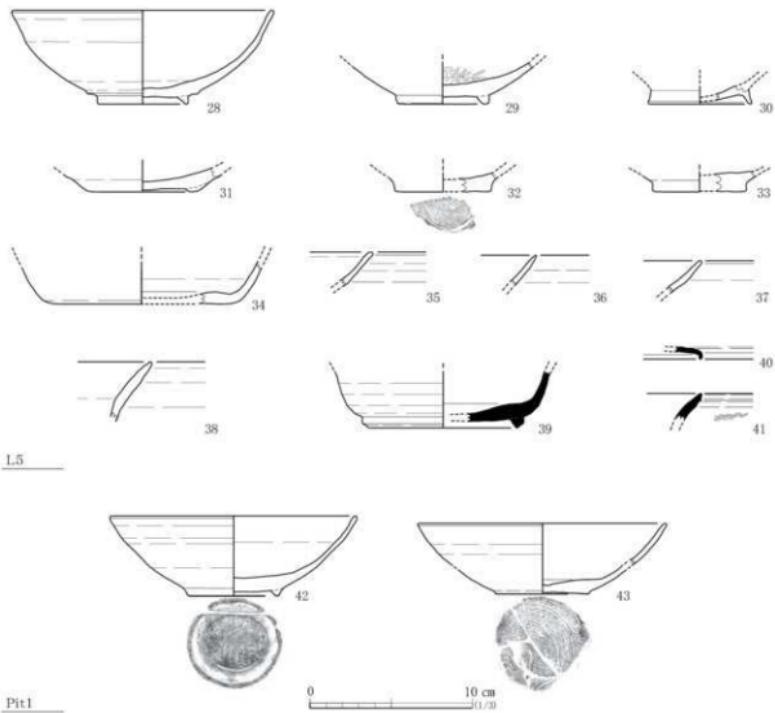
その他、河川方向に直交する状態で床面に打たれた痕の可能性がある杭列の存在にも注意したい。これまで古田遺跡において検出された谷および河川に杭列が設けられている場合は、護岸のためと認識されてきた。平成21年(2010)に実施した農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事にともなう木発掘調査において古代の埋没谷を検出したが、確認されたのはやはり護岸と見られる杭列であった。²今回の発見により、同時期の谷または河川に同様の施設が存在する可能性が生じたことになる。自然地形といえどもトレーン調査による安易な確認はできる限り避けるべきであろう。

なお、当調査区周辺には水田が広がり空閑地も多い。今後の整備計画等にも注意すべきである。

【注】

- 1) 田谷和之(1994)「古田城内農学部連合獣医学研究科棟新営に伴う発掘調査」、『山口大学埋蔵文化財資料館(編)』『山口大学城内調査研究年報XII』、山口
- 2) 田畠直彦(2004)「平成12年度山口大学城内遺跡調査の概要」、『山口大学埋蔵文化財資料館(編)』『山口大学城内遺跡調査研究年報VI・VII』、山口
- 3) 横山成己(2012)「農学部附属動物医療センター改修工事に伴う本発掘調査」、『山口大学埋蔵文化財資料館(編)』『山口大学埋蔵文化財資料館(編) 平成20年度』、山口

古井場内(吉田地盤)の遺存



44はL6上面、45はL4中層出土

石器



図8 出土遺物実測図②

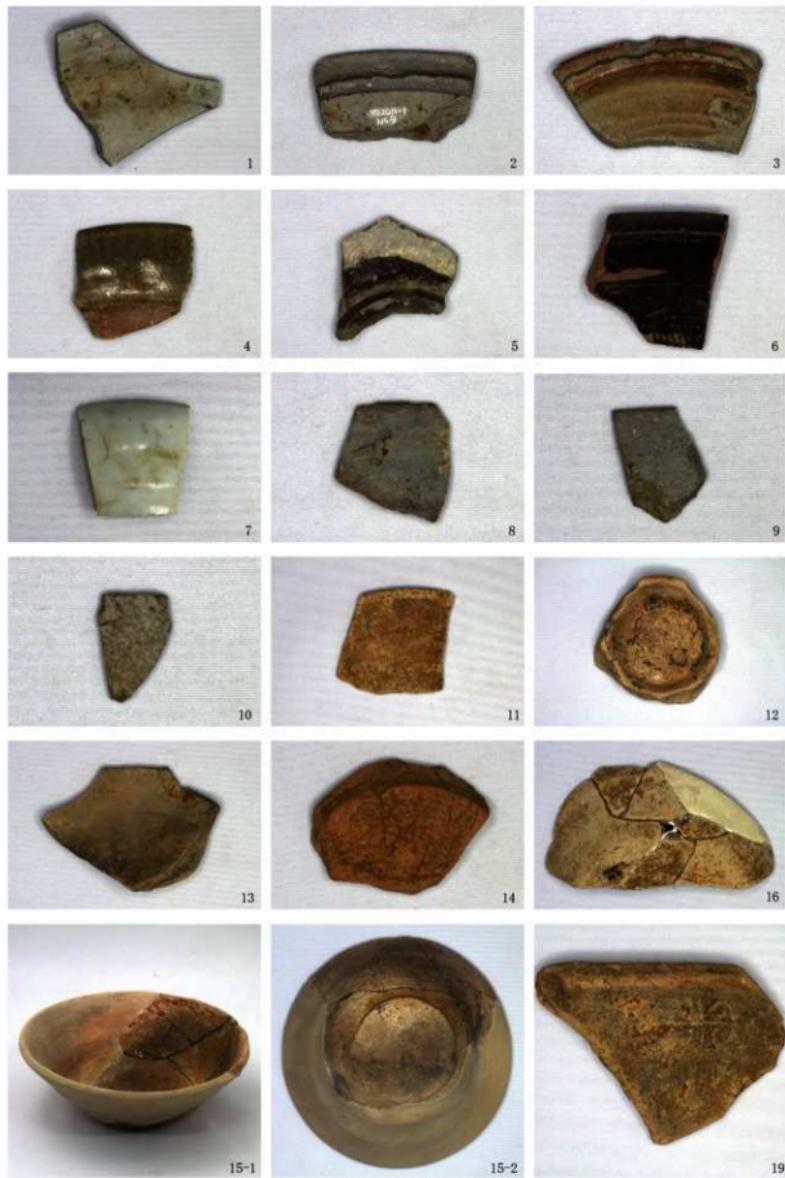


写真19 出土遺物①



写真20 出土遺物②



写真21 出土遺物③

表2 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm) ①外縁部②底面	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
1	L.1	須恵器 皿	口縁部 ～底部	①(22.8) ②(18.6) ③2.6	①灰色(N6/) ②灰白色(7.5Y7/1)	密0.1～2mm φ の砂粒少量 混ざる	
2	L.2	須恵器 壺蓋	口縁部	①(11.8)	①②灰白色(N7/)	密0.1～1mm φ の砂粒極少 量混ざる	
3	L.2	陶器 蓋	口縁部	①(9.2)	素地 灰白色(2.5Y7/1) 輪 灰黄色(2.5Y7/2)	精緻	香炉蓋か 外縁部分的に 反転
4	L.2	陶器 皿	口縁部	①(11.5)	素地 にぶい橙色(5Y6/3) 輪 灰色(7.5Y6/2)	密0.1～0.2mm φ の砂粒極少 量混ざる	
5	L.2	陶器 碗	底部	②(4.2)	素地 灰白色(7.5Y7/1) 鉄輪 暗赤褐色(2.5YR3/3) 灰輪 灰白色(7.5Y8/1)	精緻	
6	L.2	陶器 捣鉢	口縁部		素地 にぶい橙色 輪 暗赤褐色(2.5YR3/1)	精緻	
7	L.3	磁器 小鉢	口縁部	①(9.6)	①②灰白色(2.5GY8/1) コバルト 明青灰色(5B7/1)	精緻	
8	L.3	須恵器 壺	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密0.1～1mm φ の砂粒少量 混ざる	
9	L.3	須恵器 壺	口縁部		①②灰白色(7.5Y7/1)	密0.1～0.5mm φ の砂粒少量 混ざる	
10	L.3	須恵器 壺	口縁部		①②灰白色(N7/)	密0.1～1mm φ の砂粒極少 量混ざる	
11	LA-2	土師器 壺	口縁部	①(13.0)	①淡黄色(0.5Y8/3) ②にぶい黄褐色(10YR6/4)	密0.1～0.5mm φ の砂粒極少 量混ざる	
12	LA-2	土師器 皿	底部	②(7.4)	①②浅黃褐色(10YR8/3)	密0.1～7mm φ の砂粒少量 混ざる	糸切り痕
13	LA-2	土師器 壺	底部	②(6.6)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密0.1～3mm φ の砂粒少量 混ざる、金雲母混	糸切り痕
14	LA-2	土師器 壺	底部	②(6.3)	①橙色(7.5YR7/6) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	0.1～1mm φ の砂粒極少量 混ざる	糸切り痕
15	LA-2	土師器 壺	口縁部 ～底部	①(12.2) ②(5.6) ③(4.65)	①上部 黄色(2.5Y7/2) 下部 淡黄色(2.5Y8/3) ②黄灰色(2.5Y5/1)	密0.1～0.5mm φ の砂粒少 量混ざる	糸切り痕
16	LA-2	土師器 壺	底部	②(7.4)	①②灰白色(2.5Y8/2)	密0.1～2mm φ の砂粒少量 混ざる	糸切り痕
17	LA-1	土師器 皿	口縁部 ～底部	①(7.5)②(5.6) ③(1.1)	①②浅黃褐色(7.5YR8/6)	密0.1～2mm φ の砂粒極少 量混ざる	
18	LA-2～4	土師器 壺	口縁部		①②淡黄色(2.5Y8/3)	精緻	
19	LA-1	瓦質土器 火鉢	口縁部		①淡黄色(2.5Y7/4) ～黄灰色(2.5Y6/1) ②明黄褐色(10YR7/6)	密0.1～3mm φ の砂粒少量 混ざる	
20	LA-2	瓦質土器 捣鉢	体部		①②灰白色(2.5Y8/2)	密0.1～1mm φ の砂粒少量 混ざる	
21	LA-3	瓦質土器 足鍤	脚部		灰白色(2.5Y7/1)	密0.2～5mm φ の砂粒少量 混ざる	
22	LA-2	須恵器 蓋	体部		①②灰白色(2.5Y7/1)	密0.1～1mm φ の砂粒少量 混ざる	
23	LA-2	須恵器 壺	底部	②(7.6)	①②灰白色(N7/)	密0.1～1mm φ の砂粒少量 混ざる	
24	LA-2	須恵器 壺	底部		①②にぶい黄褐色 ～黄灰色(2.5Y6/1) ②(10YR7/3)	密0.1～0.5mm φ の砂粒少 量混ざる	
25	LA-2	須恵器 蓋	底部		①②灰白色(N7/)	密0.1～1mm φ の砂粒少量 混ざる	
26	LA-3	須恵器 高壺	脚部	②(9.2)	①②灰白色(2.5Y8/1)	密0.1～1mm φ の砂粒極少 量混ざる	
27	LA-1	須恵器 高壺	脚部		①②灰白色(2.5Y8/1)	密0.1～2mm φ の砂粒極少 量混ざる	
28	L5-1	土師器 壺	口縁部 ～底部	①(16.0) ②(5.6) ③(5.8)	①灰白色(10YR8/1) ②淡黄色(2.5Y8/3)	密0.1～1mm φ の砂粒少量 混ざる	
29	L5-5	土師器 壺	底部	②(5.4)	①②淡黄色(2.5Y7/3)	精緻:0.1～0.4mm φ の砂粒 極少量混ざる	
30	L5-2～3	土師器 壺	底部	②(6.4)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	密0.1～1mm φ の砂粒極少 量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①幅②奥深さ③高さ	色調		胎土	備考
					①外面	②裏面		
31	L5-2	土師器 壺	底部	②(6.8)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰黄色(2.5Y5/1)	やや粗.0.1~1.5mm φの砂粒や多く混ざる		
32	L5-2~3	土師器 壺	底部	②(6.0)	①灰色(5Y6/1) ②灰白色(5Y7/1)	密.0.1~0.5mm φの砂粒極少量混ざる	糸切り痕	
33	L5-1	土師器 壺	底部	②(5.7)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密.0.2~1.5mm φの砂粒少量化混ざる		
34	L5-2~3	土師器 壺	底部	②(11.0)	①②浅黄色(2.5Y8/3)	密.0.1~1mm φの砂粒少量混ざる		
35	L5-1	土師器 壺	口縁部		①②浅黄色(2.5Y8/3)～ にぶい黄褐色(10YR6/4)	精緻		
36	L5-2~3	土師器 壺	口縁部		①②灰黄色(2.5Y7/2)	密.0.1~0.3mm φの砂粒極少量混ざる		
37	L5-2	土師器 盆	口縁部		①②にぶい椎色 (7.5YR6/4)	密.0.1~0.5mm φの砂粒極少量混ざる		
38	L5-2~3	土師器 壺	口縁部		①②にぶい黄褐色 (10YR5/3)	やや粗.0.2~2mm φの砂粒多く混ざる		
39	L5-2~3	須恵器 壺	底部	②(9.2)	①②青灰色(10BG5/1)	密.0.1~1mm φの砂粒やや多く混ざる		
40	L5-7	須恵器 盖	口縁部		①②灰白色(2.5Y7/1)	精緻		
41	L5-4	須恵器 壺	口縁部		①②褐色(5YR5/1)	密.0.1~0.2mm φの砂粒極少量混ざる		
42	ピット1	土師器 壺	口縁部 ～底部	①(15.2) ②(5.6)34.9	①②灰白色(2.5Y8/2)	密.0.1~0.5mm φの砂粒極少量混ざる	糸切り痕	
43	ピット1	土師器 壺	口縁部 ～底部	①(15.2) ②(5.6)3(4.4)	①浅黃褐色(10YR8/3) ②浅黄褐色(7.5YR8/4)	密.0.1~2mm φの砂粒極少量混ざる、金雲母混	糸切り痕、no.42と共に	

表3 出土遺物(石器)観察表

法量()は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	形態	法量(mm) ①長さ②幅③厚さ④重さ(g)	石材	備考
44	L6	回基盤	三角形	①(16.8) ②(13.8) ③2.8 ④(0.47)	サスカイト	
45	LA-2	回基盤	三角形	①(18.6) ②(14.6) ③3.3 ④(0.58)	サスカイト	

(4) 立会調査(図9~11、写真22~29)

調査地区 吉田構内Q-16、R・S・T・U・V-17区 調査面積 280m²

調査期間 平成23年12月16・19~21・26・27日 平成24年1月5・6日~6月25日

調査担当 横山成己 松浦暢凸

調査結果

特高受変電設置工事実施後(平成23年(2011)12月より、吉田構内東門から新宮建物までの配管埋設工事が実施されたため、立会調査を実施した。掘削ルートは総延長280mにも及ぶため、配管掘削の1スパンごとに立会を行い、要所で土層断面図を作成した。土層断面作成ポイントは、A~Hの8箇所である(図9)。

A地点(図10、写真22)では掘削深度が現地表下1.4mに及んだが、造成土中におさまっていた。

B地点(図10、写真23)では掘削深度1.42mであり、現地表下1.16mから①層厚0.14mの黒褐色粘質土(ⅢI耕土)が、その下位に②層厚0.12mの明黄色粘土(ⅢI床土)が、その下位に③青灰色砂礫(河川堆積上か)が確認された。

C地点(図10、写真24)も同様に掘削深度が1.42mであり、現地表下0.42mから①層厚0.15mの黒褐色粘質土(旧耕土)、②層厚0.12mの明黄色粘土(旧床土)、③層厚0.18mの黒褐色粘質土、④層厚0.2mの赤褐色砂礫土、⑤層厚0.2mの青灰色砂礫土、⑥層厚0.2m以上の褐色砂礫の堆積が確認された。本学移転前は当地点で棚田が形成されていたようで、旧耕土および旧床土は西方に向かい0.4mほど高度を下げている。③層より地山と認識している。

D地点(図10、写真25)は掘削深度1.4mであり、現地表下0.6mから①層厚0.15mの黒褐色粘質土(旧

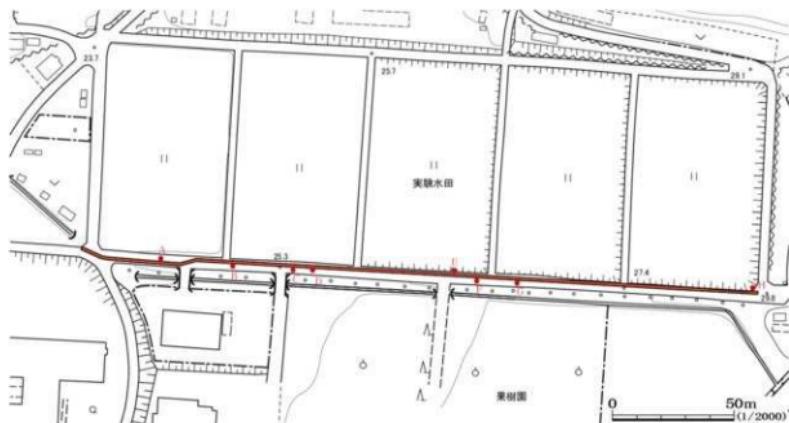


図9 調査区位置図

耕土)、②層厚0.05mの明黄色粘土(旧耕土)、③層厚0.2mの黄褐色粘質土、④層厚0.15mの青灰色礫混土、⑤層厚0.25m以上の褐色砂礫の堆積を確認した。C地点からD地点の間で赤褐色礫混土の堆積が途切れ見えるようである。C地点同様、③層以下が地山と認識している。

E地点(図11、写真26)も掘削深度1.4mであり、現地表下1.0mから①層厚0.1mの黒褐色粘質土(旧耕土)、②層厚0.3m以上のオリーブ灰色礫混土を確認した。また、②層を掘り込むかたちで幅0.2mのPit状落ち込みを検出したが、埋土が①層と同一であることから、大学移転前(近代)の耕作にかかる遺構と見られる。

F地点(図11、写真27)も掘削深度1.4m。現地表下1.02mで①層厚0.18mの黒褐色粘質土(旧耕土)、②層厚0.2mのオリーブ灰色礫混土を確認した。E地点と同様の層序であるが、①層の旧耕土に関し、②層を床として水田が維持できていたのか疑問が残る。

G地点(図11、写真28)も掘削深度1.4m。層序は現地表下1.12mから①層厚0.2mの黒褐色粘質土(旧耕土)、②層厚0.08m以上の青灰色砂礫土である。当地点では、①層上部より掘り込まれた直径約1mの板枠野窓が検出された。埋土からは、近代の磁器(染付け碗)などが出土している。

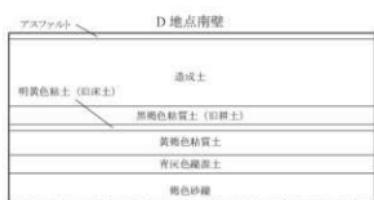
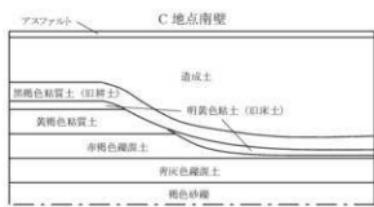
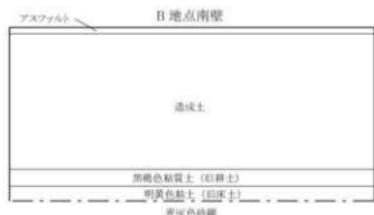
H地点(図11、写真29)も掘削深度1.56mであったが、造成土内におさまっている。

実験水田では、平成9年(1997)に実験水田西部(1号田)において農学部バイオ環境制御施設新宮に伴う試掘調査が実施され、河川3条と溝1条などが検出され、円面鏡など主として古代の遺物が出土している。また平成21年(2009)に実験水田北部で実施した立会調査においても河川及び遺物包含層が確認され、古代の遺物が出土している。今回は頗る著な堆積文化財は検出されなかったが、実験水田周域は奈良～平安時代の遺構・遺物が埋存する可能性が極めて高く、今後も慎重な対応が必要である。

【註】

1) 山根直彦(2004)「農学部バイオ環境制御施設新宮に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』,山口

2) 横山成己(2013)「農学部附置農場水田防除排水工事に伴う立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成21年度-1』,山口



0 2m 1/40

図 10 A ~ D 地点土層断面柱状図





図 11 E ~ H 地点土層断面柱状図



2. 基幹環境整備(第1体育館周辺排水整備)工事に伴う立会調査



図12 調査区位置図



写真30 土層断面（北東から）



図13 土層断面柱状図

調査地区 吉田構内G-13・14区

調査面積 72m²

調査期間 平成24年1月27日

調査担当 横山成己

調査結果

吉田構内北西部に位置する野球場において、排水整備工事が計画された(図12)。当工事は長期計画であり、平成21・22年度に引き続く最終年として実施された。

立会は、T工事掘削終了時に行なった。掘削は現地表下1.7mの規模であり、確認した層序は、①表上(層厚0.2m)、②造成土(層厚1.2m)、③旧耕土(層厚0.05m)、④暗灰色粘土:旧底土(層厚0.1m)、⑤黄灰色シルト(層厚0.15m以上)である(図13、写真30)。

⑤層の締まりは強く、地山と推察されたため、掘削範囲において上層との境界部の断面精査を行なったが、遺構の検出には至らなかった。

3年間に及ぶ立会調査により、排水処理センター周辺の造成土は総じて1m以上と厚く、その下位には旧耕土・底土が埋存していることが明らかとなつた。当該地は旧来低地水田であり、大学移転時に大規模な盛土が施されたものと推測される。耕作関連土の下位に遺構が存在するとすれば、遺存状態は良好である可能性が高い。今後も立会調査等による丁寧な遺跡情報の収集が必要である。

【註】

- 1)横山成己(2013)「基幹環境整備(第1体育館周辺排水整備)工事に伴う立会調査」、(1)大学埋蔵文化財資料解(編)「山口大学埋蔵文化財資料館年報」平成21年度 山口
- 2)横山成己(2014)「基幹環境整備(第1体育館周辺排水整備)工事に伴う立会調査」、(1)大学埋蔵文化財資料解(編)「山口大学埋蔵文化財資料館年報」平成21年度 山口

3. 埋蔵文化財資料館スロープ取設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内N-16区

調査面積 48m²

調査期間 平成24年2月28日

調査担当 横山成己

調査結果

埋蔵文化財資料館は昭和52年(1977)3月に竣工し、翌昭和53年(1978)4月に助手1名が配され、本学における埋蔵文化財保護業務を開始した。竣工以来、細かな改修等は行われたが、建物の老朽化は進み、バリアフリー化にも対応できていなかった。

平成23年度、館員の長らくの希望であった建物改修と玄関スロープの取設、トイレのバリアフリー化工事が計画された。スロープ取設に関しては、玄関前の空間を約0.4m掘削することとなった(図14)ため、地下の状況を確認すべく立会調査を実施した。

調査の結果、深度0.4mでは造成土内にとどまつたため(図15)、下位の堆積層を確認することはできなかった。館の西に隣接する総合図書館新館の建設に伴う発掘調査では、南東から北西に走る河川と土塚5基、溝7条が検出されている。その他、館の北を西流する水路(排水溝)の付け替え工事に伴う発掘調査では、遺構の詳細は不明確であるが、弥生時代から古墳時代を主体とする大量の遺物が出土している。資料館敷地においても地下に埋蔵文化財が遺存する可能性は極めて高い。当地において当館の建て替え計画等が生じた場合は、発掘調査の実施が必須である。

【註】

1) 不可解なことに、当館建設に伴い発掘調査が実施された記録は残っていない。

2) 河村五行(1985)「中央図書館増築予定M-16区の発掘調査」、

山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内深跡調査研究年報Ⅱ』山口

3) 田谷和之(1993)「吉田追跡第1地区A区の発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内深跡調査研究年報X-1』山口



図14 調査区位置図



写真31 改修工事風景(南西から)

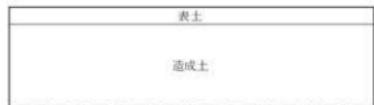


図15 土層断面柱状図

4. 第2学生食堂西側テーブル・ベンチ取設工事に伴う立会調査



図 16 調査区位置図



写真 32 土層断面（東から）

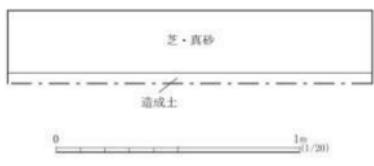


図 17 土層断面柱状図

調査地区 吉田構内M-15区

調査面積 8m²

調査期間 平成24年3月9日

調査担当 横山成己

調査結果

本学吉田構内には「遺跡保存地区」と呼称される地区が2箇所存在するが、総合図書館北側に位置する遺跡保存地区的南方広場(下段部)において、テーブルとベンチを増設する計画が立案された(図16)。

当地においては、昭和60年(1985)に境界整備伴う試掘調査が実施され、弥生時代から近世にかけての多くの遺構および遺物が確認されている。当工事計画は掘削深度が0.3mと浅く、造成土内にとどまることが推定されたが、開発予定地が昭和60年調査のDトレーナー(近世埋甕や柱穴、落ち込み等遺構を確認。埋め戻し保存)に一部重複する(図16・図32)ため、慎重を期して工事立会にて対応する運びとなった。

調査の結果、想定通り掘削は現表土(芝および真砂)と造成土の上端で止まることが確認され(図17、写真32)、地下の遺構に支障は生じなかった。

遺跡保存地区は、現在では主に学生や教職員の憩いの場として活用されているが、本来的には埋蔵文化財という学術資料を未来永劫、後世に継承するという本学の姿勢を具現化した場所である。地区内の花見や宴会を否定する気は無いが、当地区の存在意義を学内にアピールする必要性を感じている。

【註】

1)河村吉行(1986)「吉田構内大学会館境隈に伴う試掘調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究会報V』山口

5. 農學部植物工場新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内P-15区

調査面積 224m²

調査期間 平成24年3月21・22日

調査担当 横山成己 松浦暢昌

調査結果

吉田構内東部域において平成21年度に実施した農學部植物工場新設工事に伴う立会調査では、造成土下に遺物包含層の遺存を確認し、上として古代の遺物の出土を見た。

平成23年度、植物工場の南西隣に新規の植物工場の建設が立案された(図18)。建設予定地は当時畑地であったが、平成21年度同様表土を薄くはぎ取り、盛土を行った上で仮設プレハブを設置すること、さらには新設される工場は10年をめどに撤去される予定であることを鑑み、工事計画地において埋蔵文化財保護対応は立会調査にとどめることが決定された。

工事計画地における地下の掘削は予定通り耕上のすき取りで終了するかに見えたが、既設水道管の位置確認のため開発域の西端部で深掘りが行われることとなった。T.事立会に赴いたところ、水道管直下に柱穴が露出していることが確認された。精査を行った結果、深掘り部の層序は①表土(層厚0.2m)、②明黄褐色砂質土(層厚0.3m)、③灰黄色弱粘質土(遺物包含層: 層厚0.2m)であることを確認した。遺構は③層下に遺存しており、遺構埋土は黒褐色粘質土である。検出した柱穴は径0.3m以上になるものと推測されることから、当地に大型掘建柱建物が存在する可能性が高まった。

工事における既設水道管の撤去に関しては、管確認位置での切断を打診し、本学施設環境部の理解の下、開発域の既設管は埋蔵文化財保護のため残置することとなった。

【註】

1) 横山成己(2013)「農學部植物工場新設工事に伴う立会調査」

・山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資

料館年報 平成21年度』山口大



図 18 調査区位置図



写真 33 柱穴検出状況（南から）

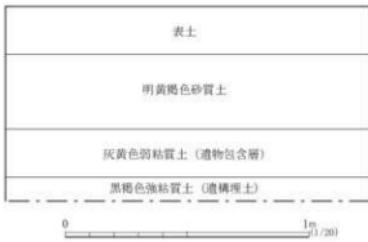


図 19 土層断面柱状図

6. 農学部連合獣医学科棟横倉庫撤去・新設工事に伴う立会調査



調査地区 吉田構内O-17区

調査面積 75m²

調査期間 平成24年3月6日

調査担当 横山成己

調査結果

平成23年度、吉田構内農学部連合獣医学科研究棟北隣に設けられていた倉庫の建て替え工事が計画された(図20)。工事計画における土地の掘削は軽微なものであったが、連合獣医学科研究棟の新工事に伴う発掘調査においては、繩文時代の遺物を含むする河川が検出されているため、慎重を期して工事立会を実施する運びとなつた。

埋蔵文化財保護に関する文化財保護法書類提出後、久しく当館には工事等に関する連絡が届かなかつたが、平成24年(2012)3月6日、工事地が当館に近接することから偶然に着工されていることに気づくこととなつた。急遽工事地に赴き、掘削が表上および造成土内に掘削が止まることを確認した(図21、写真34)が、所轄の事務に連絡不足に対する厳重注意を行つた。

本学における埋蔵文化財保護対応は古く昭和41年(1966)に始まる。およそ半世紀が経過しているにもかかわらず、未だ学内には周知の埋蔵文化財包蔵地に立地する意識が希薄である。当館の周知不足との批判もあるかもしれないが、教育・研究の場としての本学が社会的地位を保証されるのは、社会に対し誠実にその責任を果たすことにある。今後このようなことがないよう、当館を含め本学が強く自覚すべきと考える。

【註】

- 1) 田谷和之(1994)「吉田構内農学部連合獣医学科棟跡に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料編(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XII』、山口

7. 教育学部特別支援学校散水栓増設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内C-D-21区

調査面積 約16.8m²

調査期間 平成23年12月22日

調査担当 山畠直彦

調査結果 特別支援学校で、散水栓増設工事に伴い立会調査を実施した。工事では、管路及び散水栓増設に伴い、幅70cm、長さ約24mの範囲で現地表下約35cmまで掘削が行われた。調査の結果、全て造成土の範囲内で埋蔵文化財に支障はなかった。

今回の調査区周辺では、平成9年度の時計塔新設工事に伴う立会調査の際、現地表下約45cmで、遺物包含層である黒褐色粘質土が確認されている。また、平成22年度の雨水排水補修工事に伴う立会調査でも現地表下約60cmで遺物包含層と考えられる黒褐色砂質土及び河川堆積土が検出されている。以上から、調査区周辺においては、現地表下50～60cmに遺物包含層が分布する可能性が高いため、今後の開発にあたっては注意が必要である。

【註】

- 1) 田畠直彦(2004)「教育学部附属養護学校時計塔新設工事に伴う立会調査」、山口大学生産文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報 XVI・XVII』、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報 平成22年度』、山口
- 2) 横山成己(2014)「教育学部附属特別支援学校雨水排水補修工事に伴う立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報 平成22年度』、山口



図20 調査区位置図



写真39 調査区全景（北東から）



写真40 調査区土層断面（北西から）

第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

1. 教育学部附属学校案内板設置工事に伴う立会調査



図23 調査区位置図



写真37 調査区全景（東から）



写真38 調査区土層断面（東から）

調査地区 白石構内小学校正門西側

調査面積 1 m²

調査期間 平成23年7月25日

調査担当 山川直彦

調査結果 教育学部より、附属小学校西側に附属幼稚園・小学校の案内板設置工事計画が提出された。工事予定地周辺は昭和61年度の污水管布設に伴う試掘調査(第7レンチ)で遺物包含層が検出されている。今回の工事は小規模であるが、埋蔵文化財が検出される可能性があることから、立会調査を実施することになった。

工事は平面形約20cm×約20cmの範囲を2箇所掘削するものである。調査の結果、現地表下約37cmまでが造成土で、以下約37~43cmで床土であるオリーブ灰色(2.5GY6/1)シルト、約43cm~64cmで地山である明黄褐色(2.5Y6/6)シルトを確認した。調査面積が狭小であったこともあり、遺構・遺物は確認できなかった。しかしながら、床土が残存しており、地山が確認できたことで、周辺に遺構が残存する可能性が考えられる。以上から、今後も調査地周辺では埋蔵文化財の保護に注意が必要である。

【註】

- 1)河村吉行・杉原和恵(1987)「第2章 鬼山構内教育学部山口附属学校污水管布設に伴う試掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』、山口

2. 教育学部附属幼稚園渡り廊下屋根拡張工事に伴う立会調査

調査地区 白石構内幼稚園園舎南側

調査面積 約11.5m²

調査期間 平成23年8月3日

調査担当 山畠直彦

調査結果 附属幼稚園渡り廊下屋根工事に伴い、立会調査を実施した。工事では、廊下の屋根の基礎4箇所で行われた。A地点は平面形約150cm×約150cmである。層序は現地表下65cmまでが造成土、以下約65~80cmは黒褐色(2.5Y3/1)シルトであった。B地点は平面形約150cm×約150cmである。層序は現地表下88cmまでが造成土で、以下88cm~94cmが旧耕土である暗青灰色(5B4/1)シルト、約94~118cmが黒褐色(2.5Y3/1)シルトであった。C地点は平面形約200cm×約150cmである。層序は現地表下95cmまでが造成土で、以下部分的に掘り下げたところ、現地表下95~115cmが黒褐色(2.5Y3/1)シルトであることを確認した。D地点は平面形約200cm×約200cmで現地表下約100cmまで掘削を行ったが、全て造成土の範囲内であった。

A~C地点で検出した黒褐色シルトは遺物包含層で、弥生土器もしくは土師器と考えられる土器片が各地点から1点出土した。今回調査区の東側では、平成元年度に汚水管布設に伴う発掘調査の際、造成土直下で「黒褐色・黑色粘質土」の河川堆積土が確認されていることから、今回調査区にも黒褐色シルトは平成元年に検出された河川の堆積土であった可能性がある。以上から、今後も小規模な土地掘削が行われる場合でも、工事立会を実施し、地下情報を蓄積する必要があろう。

【注】

- 1) 古賀真紀子・河村吉行(1991)「第3章 幼稚園構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水管布設に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究』第IX巻、山口



図24 調査区位置図



写真39 B地点土層断面（北から）



写真40 C地点土層断面（南東から）

第4節 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

1. 医学部地域医療教育研修センター新営工事に伴う立会調査

調査地区 小串構内体育館北東側空地

調査面積 4m²

調査期間 平成23年9月6・9・16日

調査担当 横山成己

調査結果

平成23年度に実施した予備発掘調査は、医学部地域医療教育研修センター建物部分を対象として実施したものであった。調査の結果、近世客土の下位に堆積する第4層に縄文時代～中世の遺物が混在して比較的密に包含されることが明らかとなつた。

一方で平成16年度に体育館北方で実施した職員宿舎他公共下水接続工事に伴う試掘調査にて確認した自然堆積層とはやや土質が異なるようであったため、新規建物への配管ルート上4地点において立会調査を実施したが(図24)、A地点が湧水のため地表下約1.4mの掘削に止められたため、実質的には残り3地点の調査を行うこととなつた。

調査の結果、B地点は平成16年度調査にて検出された層序と同一であることが確認された(図25)が、C・D地点は近世客土が厚く、耕設置削深度内に客土の下位層を確認することができなかつた(写真41)。

小串構内では、学部校舎や病院・病棟が集中する南部域は既設建物が密集するため、今後も新規建物等は体育館の北部域に計画されることが予想される。北部域は埋蔵文化財の分布が密であり、今後も慎重な対応が不可欠である。

【註】

- 横山成己・松浦暢昌(2014)「医学部地域医療教育研修センター新営工事に伴う予備発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成16年度－』14
- 横山成己(2006)「医学部職員宿舎他公共下水接続工事に伴う試掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成16年度－』14



図25 調査区位置図



写真41 D地点土層断面(南西から)



図26 B地点土層断面柱状図

第5節 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

1. 教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う予備発掘調査

調査地区 光構内小学校・中学校

調査面積 約19.4m²(A～B・D・E調査区約4m²)

C調査区約3.4m²)

調査期間 平成23年9月12～18日

調査担当 山畠直彦

調査結果

(1) 調査の経緯(図27・28、写真42～43)

教育学部附属光小・中学校で公共下水道接続工事が計画された。工事は小・中学校の校舎周囲・道路上に排水管を新設し、正門前まで布設されている下水道本管に接続するものである。平成23年度上半期段階で工事は決定していなかったが、工事掘削範囲が校庭を除く小・中学校の敷地全域に及ぶことから、事前に埋蔵文化財の分布状況を把握する必要が生じた。このため、平成22年度第11回埋蔵文化財資料館専門委員会(3月29日開催)で審議が行われた結果、事前に予備発掘調査を実施することになった。

調査は既往の調査により埋蔵文化財が存在する可能性が高い箇所(附属小学校体育館～附属小学校玄関～附属中学校玄関～附属中学校体育館)は対象外とし、埋蔵文化財の遺存状況が不明な箇所にA～Eの調査区を設定して実施した。

(2) 層序・遺構(図29、写真44～49)

A調査区

A調査区の層序は①表土(層厚13～22cm)、②造成土(層厚25～47cm)、③明黄褐色(2.5Y7/6, 2.5Y4/2)細砂(層厚35～53cm)、④灰白色(2.5Y7/1)細砂(層厚6cm以上)である。造成土が厚いほか、擾乱が著しい。③明黄褐色シルトは古墳時代の遺構面形成層と考えられるが遺構は検出していない。

B調査区

B調査区の層序は①表土(層厚4～8cm)、②造成土(層厚30～54cm)、③浅黄色(2.5Y7/4)細砂(層厚



図 27 調査区位置図



写真 42 A 調査区調査前全景(北東から)



写真 43 C 調査区調査前全景(北東から)

北側門(御手洗施設・月待山施設)の調査



図28 調査区詳細図

3~55cm)、④灰白色(5Y7/2)細砂(層厚15cm以上)である。⑤浅黄色練砂は古墳時代の遺構面形成層と考えられるが、A調査区同様、攪乱により削平を受けており、遺構は検出していない。

C調査区

C調査区の層序は①表上(層厚5~8cm)、②造成上(層厚10~18cm)、③暗灰黄色(2.5Y5/2、2.5Y4/2)粗砂…近代遺構面形成層か(層厚25~49cm)、④灰オリーブ色(5Y4/2)練・オリーブ褐色(5Y4/2、2.5Y4/3)疊、粗砂…古墳時代以降の堆積層か(層厚72cm以上)である。遺構は検出していない。

D調査区

D調査区の層序は①表上(アスファルト:層厚5cm)、②造成上(層厚13~55cm)、③淡黄色(2.5Y8/4)等細砂・粗砂・疊…近世～近代の堆積層(層厚128cm以上)である。遺構は検出してない。③の近世～近代の堆積層は波浪による堆積層と考えられる。壁面がきわめて脆弱であったため、詳しく調査を行う

支那川(湖手佐羅村・月待山遺跡)の調査

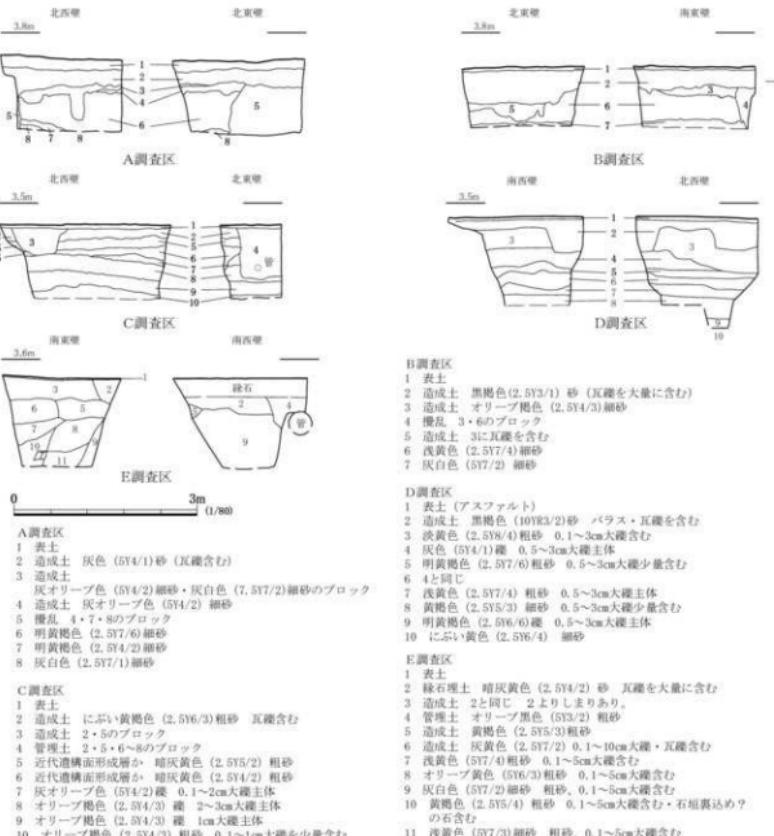


図29 調査区土層断面図

ことができなかつた。

E調査区

E調査区の層序は①表土(層厚3cm)、②造成土(層厚55~77cm)、③浅黄色(5Y7/4)等粗砂、細砂…近世～近代の造成土(層厚82cm以上)である。④の各層は海側に向かって傾斜しており、直径10cm以上の礫を多数含んでいた。またD調査区同様、壁面がさわめて脆弱であったため、詳しく調査を行うことができなかつた。

(3) 遺物(図30、写真50)

A調査区では造成土から近世～近代の陶磁器、瓦片が出土した。B調査区では造成土中から土師器片1点が出土した。C調査区では3層から土師器片、6層から須恵器片、7・8層から土師器片



写真44 A調査区全景（南西から）



写真45 B調査区全景（南西から）



写真46 C調査区北西壁土層断面（南から）



写真47 D調査区全景（南東から）



写真48 E調査区掘削状況（北西から）



写真49 E調査区南東壁土層断面（北東から）

が出土した。D調査区では2～6層から十師器片、須恵器片、近世～近代の陶磁器片、瓦片、貝殻が出土した。土師器、須恵器片は波浪による摩滅が著しいものが多い。E調査区では、1～4層から土師器片、須恵器片、近世～近代の陶磁器片、5～8層から上師器片が出土した。ただし、削削中に崩落が相次ぎ、厳密に層位別の取り上げができなかったため、上下層の土器が混入している可能性がある。

1はD調査区2層出土遺物。土師器竈形土器の底部で、一部剥離している。2～4はD調査区第6層出土遺物。2は萩焼系の碗である。外面に藁灰釉を厚く施釉する。18～19世紀。3は磁器碗(波佐見系くらわんか碗)である。外面上には草花文を染付ける。4は肥前系磁器の蓋付鉢か。胴部下外面には2条の墨線間に唐草文を染付ける。18世紀。

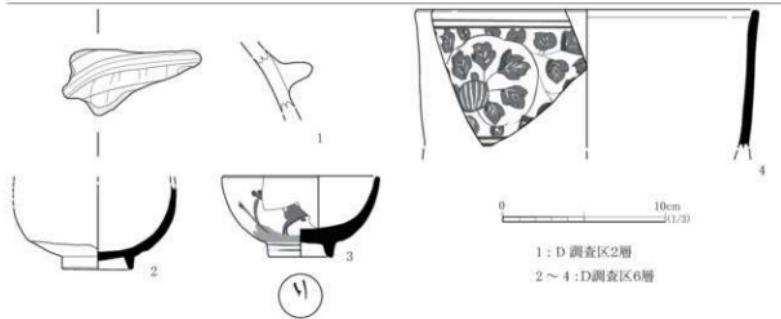


図 30 出土遺物実測図



写真 50 出土遺物

表4 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口徑②底径③器高	色調	胎土	備考
1	D調査区2層	土師器 瓢	底部		①にぶい褐色(7.5YR5/4) ②黒褐色(2.5Y3/1)	1~3mmの砂粒を含む	
2	D調査区6層	陶器 碗	脇～底部	②3.3	素地 呈黃色(2.5Y7/2) 釉 灰白色(5Y7/1)	精緻	萩焼系
3	D調査区6層	磁器 碗	口～底部	①(9.8) ②4.0 ③5.0	素地 灰白色(10Y7/1) 釉 灰白色(7.5Y8/1)	精緻	波佐見系 18C
4	D調査区6層	磁器 薙付鉢か	口～脇部	①(11.2)	素地 灰白色(7.5YR1) 釉 明瞭灰色(7.5GY8/1)	精緻	肥前系 18C

(4) 小結

今回の予備発掘調査の結果、A・B調査区では古墳時代の遺構面形成層と考えられる土層、C調査区では古墳時代以降の堆積層及び近代の遺構面形成層と考えられる上層を検出した。一方、D・E調査区ではA～C調査区とは異なり、現地表下約150cmまで近世～近代の土層がみられることが確認した。いずれの調査区からも遺構は検出されず、造成土出土の近世～近代の陶磁器・瓦類以外は遺物も僅少であった。

上記の調査結果について、平成23年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(10月11日開催)で審議を行った結果、今回の調査区周辺については顕著な遺構・遺物は検出されなかつたものの、掘削範囲が広範囲に及ぶことから立会調査を行うことになった。一方、本発掘調査については、詳細な工事計画が決定次第、地点を検討して実施することになった。

【注】

- 1) 河村吉行(1992)「第3章 光橋内教育学部附属光小学校運動場改修工事に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X』、山口
- 2) 横山成己(2005)「第1章 第6番教育学部附属光小学校エレベータ昇降機新設に伴う式街・立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』、110
- 3) 田畠直彦(2013)「第1章 第6番教育学部附属光中学校校舎改修工事に伴う本発掘調査・立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口埋蔵文化財資料館年報－平成21年度－』、110

2. 教育学部附属光小学校遊具設置工事に伴う立会調査

調査地区 光構内小学校校庭北西隅

調査面積 約20m²

調査期間 平成23年8月1日

調査担当 山畠直彦

調査結果 教育学部より、附属光小学校北西隅に遊具(木製アスレチック・ジャングルジム)設置工事が計画された。工事予定地周辺では平成11年度の上水道(給水管)改修工事に伴う試掘調査で遺物を少量含む包含層が検出されており、埋蔵文化財の遺存する可能性が考えられることから、立会調査を実施することになった。

工事は木製アスレチックの基礎6箇所(A地点 平面形約100cm×約150cm 挖削深度約80~90cm)、ジャングルジムの基礎(B地点 平面形約280cm×約280cm 挖削深度約30cm)で行うものである。調査の結果、A地点は擾乱が顕著であったが、部分的に現地表下45cm~65cmで古墳時代後期の遺構面形成層の可能性がある明黄褐色(2.5Y6/8)細砂を検出した。ただし、遺構は検出できず、堆上から土器器片2点が出土することとなった。B地点は全て造成土の範囲内であった。

以上から、調査区周辺は擾乱が著しいものの、埋蔵文化財が残存する可能性があることから、今後も慎重な対応が必要である。

【註】

- 1) 田畠直彦(2004)「第8章 3半成11年度山口大学構内遺跡調査の概要」、山口大学埋蔵文化財資料第(福)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、山口



図 31 調査区位置図



写真 51 A地点全景（南東から）



写真 52 A地点南東隅土層断面（北東から）

付節1 平成23年度 山口大学構内遺跡調査要項

山口大学大学情報機構規則

改正 平成18年3月14日規則第27号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人山口大学学則(平成16年規則第1号)第9条第2項の規定に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)の大字情報及び情報基盤を総合的に整備する山口大学大学情報機構(以下「機構」という。)に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 機構は、次の施設をもって組織する。

(1)図書館

(2)メディア基盤センター

(3)厚生文化財資料室

2 前項の施設に関し必要な事項は、別に定める。

(業務)

第3条 機構は、次の業務を行う。

(1)大学情報及び情報基盤の機能的並機能的運営の策定に当すること。

(2)大学書類及び情報基盤の整備の推進及び実施に関すること。

(3)情報セキュリティの確保及び実施に関すること。

(4)その他情報が必要と認めた事項に關すること。

2 前項の委託を行つた場合、機構は、各学者、各研究員、全学教育研究部会及び事務組織と相互に連携を図るものとする。

(運営委員会)

第4条 機構に、機構の管理及び運営に關する事項を委託するため、山口大学大学情報機構運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(情報セキュリティ委員会)

第5条 機構に、情報セキュリティに関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報セキュリティ委員会(以下「情報セキュリティ委員会」という。)を置く。

2 情報セキュリティ委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(権限委託審査委員会)

第6条 機構に、情報基盤の整備に關する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報基盤整備委員会(以下「情報基盤整備委員会」という。)を置く。

2 情報基盤整備委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(機長)

第7条 機構に機長を置き、学術情報担当副学長をもつて充てる。

2 機長は、機構の業務を統括する。

(副機長)

第8条 機構に副機長及び2名を置き、本法人の専任教授のうちから機構長が指名した者をもつて充てる。

2 副機長は、機構長を補佐する。

3 副機長の担当は、機長が定める。

4 副機長の任期は2年とし、合併を持げない。ただし、機長である副学長の任期の終期を経ることはできない。

5 副機長は次員が生じた場合の後任の副機長の任期は、前任者の就任期間とする。

(専任大学教育職員)

第9条 機構に、専任大学教育職員を置く。

2 専任大学教育職員の選考は、運営委員会の趣に基づき、学長が行う。

3 専任大学教育職員の選考に關し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 機構に關する事務は、情報基盤整備委員会裡に於いて処理する。

(雄則)

第11条 この規則に定めるもののほか、機構に關し必要な事項は、別に定める。

(附 则)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

平成13年度山口大学内造就委員会
山口大学埋蔵文化財資料館規則

平成16年4月1日 規則第148号

改正 平成17年3月24日 規則第62号

(總則)

第1条 この規則は、山口大学大学情報機構規則(平成16年規則第139号)第22条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)の組織及び運営に關し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 資料館は、文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)に所在する施設の埋蔵文化財の発掘調査及び研究を行い、出土品を収集・公開することを目的とする。

(業務)

第3条 資料館は、次の業務を行う。

- (1)本法人構内等から出土した埋蔵文化財の収集・展示及び調査研究
- (2)本法人構内等における埋蔵文化財の発掘調査及び報告書の刊行
- (3)その他の埋蔵文化財に関する必要な業務

(職員)

第4条 資料館に、次の職員を置く。

- (1)館長
 - (2)副館長
 - (3)資料館所属の専任大学教育職員
 - (4)その他必要な職員
- 2 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員を置くことができる。

3 特別調査員は、専門委員会の議に基づき、館長が委嘱する。

(館長)

第5条 館長は、大学情報機構長をもって充てる。

2 館長は、資料館の業務を掌理する。

(副館長)

第6条 副館長の選考は、国立大学法人山口大学の専任の教授又は准教授のうちから山口大学大学情報機構運営委員会の議に基づき、学長が行う。

2 副館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副館長に久負が生じた場合は、前任の副館長の任期は、前任者の任期期間とする。

3 副館長は、館長を協力し、日常的な業務の執行及びこれに必要な意思決定に關し、館長を助けるものとする。

(会務)

第7条 資料館に關する事務は、情報奥境運営委員会議において処理する。

(職員)

第8条 この規則に定めるもののほか、資料館に關し必要な事項は、別に定める。

規則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 第5条第1項の規定にむかづき、半分の間、館長は、大学情報機構長が代行する。

規則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会内規

(總則)

(1)その他の資料館に關し必要な事項

第1条 この規則は、山口大学大学情報機構運営委員会(平成16年規則第140号)第8条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に關し必要な事項を定める。

(審議事項)

(2)組織

第2条 専門委員会は、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)に於し、次の事項について審議する。

(1)資料館の運営に關する事項

(3)専門委員会は、次の委員をもって組織する。

(2)規律

(4)構成員

(3)予算

(5)副館長

(4)監査

(6)資料館所属の専任大学教育職員

(5)考古学担当の国立大学法人山口大学専任の大学教育職員

(7)メディア基盤センター所属の専任大学教員職員のうち館長が任命した者1名

平成23年度山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会

(6)施設運営部長	第6条 専門委員会が必要と認めたときは、専門委員以外の者を専門委員会に選ばせることができる。
(9)情報環境部長	
(10)情報環境部学術情報課長	(委員会等)
(11)情報環境部企画室長	第7条 専門委員会は、必要に応じて審査等を行くことができる。
(任期)	2. 委員会等に付し必要な事項は、専門委員会が別に定める。
第4条 前条第7号の委員の任期は2年とし、兼任を妨げない。ただし、委員に次員が生じた場合は、前任者の任期期間を延長する。	(業務)
(委員長)	第8条 専門委員会の事務は、情報環境部情報企画科において処理する。
第5条 専門委員会に委嘱員を置き、専長をもって充てる。	(専門)
2. 委員長は、専門委員会を招集し、その召集となる。	第9条 この内規に定めるものほか、専門委員会の運営に関する必要な事項は、専門委員会が定める
3. 委員長に事務あるときは、副幹長がその職務を代行する。	規則
(委員以外の者の選出)	この規則は、平成18年4月1日から施行する。

平成23年度 山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会

委員長 繁顕 厚（大学情報機構長・館長・人文学部教授）	
委員 小河原 加久治（大学情報機構副機構長・理工学研究科教授）	
松野 浩嗣（大学情報機構副機構長・理工学研究科教授）	
中村 友博（副館長 人文学部教授）	村田 裕一（人文学部准教授）
小柏香穂理（メディア基盤センター助教）	歳川 秀夫（施設環境部長）
酒井 清彦（情報環境部長）	吉光 紀行（情報環境部学術情報課長）
田畑 直彦（埋蔵文化財資料館助教）	横山 成己（埋蔵文化財資料館助教）

付録2 山口大学構内の主な調査

表5 山口大学構内の主な調査一覧表

吉田構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和41年	第I地区A・B区	L~N-15	1	30?	土壌・柱穴	弥生土器、土師器、須恵器	事前	調査担当 小野忠熙	年報X I
	第II地区家畜病院新営	R-20・21 S-T-19・20	2	2,000	溝、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器	#	#	年報X II
	第II地区		3			弥生土器、土師器	試掘	#	
	第IV地区牛舎新営	S-T-10・11	4	300	弥生溝・土壌、古墳敷穴住居、中世住跡跡・溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器	事前	#	
	第IV地区		5				試掘	#	
昭和42年	第III地区杭列区 および陸上競技場	D-19・20 E-17・19~21 F-17・18	6	1,600	杭列、弥生窪穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、矢板状木梳	事前	#	①
	第IV地区南区	G-21~23 H-22	7		河川跡、柱穴	縄文土器、弥生土器、木器、石器	#	#	
	第III地区北区	H-20 I-19~21 J-20・21	8	1,400	窪穴住居、溝、土壌、柱穴		#	#	
	第III地区東南区	G-23 H-23・24 I-J-24 K-23・24 L-23	9		弥生窪穴住居	弥生土器	#	#	
	第IV地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試掘	#	
昭和44年	第V地区学生食堂	J-20 N-14 P-18	11		弥生溝、古墳土壌	弥生土器、土師器	事前	#	
	第V地区		12		河川跡、柱穴、土壌	弥生土器、土師器	試掘	調査担当 山口大学吉田 遺跡調査室	年報X III
	第I地区C1区大学本部新営	K-L-14	13	600	窪穴住居、溝、土壌	土師器、須恵器、瓦質土器	事前	#	
	第V地区教育学部				河川跡	弥生土器、土師器、須恵器	試掘	#	
	第I地区D1区第1地点	L-13	14		近世大溝	弥生土器、木灰屑	#	#	
昭和46年	第I地区D1区第2地点	L-13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	#	#	
	第I地区D1区第3地点	M-13・14	16		土壌、柱穴	弥生土器、瓦質土器	#	#	
	第I地区D1区第4地点	M-N-14	17		土壌、検穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	#	#	
	第I地区D1区第5地点	L-12・13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	#	#	
	第I地区D1区第6地点	M-13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	#	#	
昭和50年	第I地区D1区第7地点	M-N-13	20			須恵器	#	#	
	第I地区E1区第2学生食堂新営	M-N-14・15 O-15	21	900	古墳窪穴住居、土壌溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、石器、鉄製品	事前	#	年報X II
	第II地区					弥生土器	試掘	#	②
	第III地区				窪穴住居	弥生土器、土師器、須恵器	#	#	
	人文学部校舎新営	M-N-21	22	160			#	調査担当 近藤義一	年報X
昭和54年	教育学部附属養護学校新営	A-20・21 B-19・20 C-19	23	410	溝、土壌	縄文土器、弥生土器	試掘		山口大学理系 文化財資料館 山口市 教育委員会
	理学部校舎新営	N-O-19・20	24	250			#		年報X
	農学部動物舎新営	P-19	25	380			#		年報X
	本部管理棟新営	L-14	26	740	溝、土壌、柱穴、中世井戸、土壤基、住居跡	弥生土器、土師器、石製品	事前		年報X
	経済学部校舎新営	K-21	27	66			試掘		
昭和55年	農学部農業機械実験施設新営	F-Q-15	28	50	溝、土壌		事前		年報X
	本部環境整備	E-14~16 F-15・16	29				立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和55年	農学部環境整備	N-11 O-10-11 P-9-10	30				"		年報X
	教育学部校舎新設	H-19	31		弥生鄭穴住居、土壙、溝、柱穴	弥生土器、石製品	事前		
	教育学部音楽棟新設	H-16	32		溝		"		
	教育学部美術科・技術科実験実習棟新設	J-K-19-20	33		旧河川、溝、柱穴	織文土器、弥生土器、須恵器、土師器	"		
	正門橋脚新設	I-11	34				立会		
	時計塔設置	I-14	35				"		
	本館構内擁壁取設	K-1-13-14	36				"		
	教養部構内擁壁取設	F-15-17 J-17	37				"	工法等変更	
	構内微循道路鋪装	J~M-15 M-N-16	38				"		
	農学部中庭整備	N-O-17	39				"		
昭和56年	職員宿改修	O-16	40				"	工法等変更	年報Y
	学生部社会車庫新設	M-S-9	41				"	工法等変更	
	学生部馬場整備	M-N-S-9	42				"		
	附属図書館増築	L-M-16	43	600	弥生～古墳講、土壤、柱穴、杭列	弥生土器、土師器、須恵器、石器	事前		
	大学会館新設	M-N-14-15	44	130	弥生鄭穴住居、溝	弥生土器	試掘		
	教育学部附属養護学校アーネル新設	A-B-21	45	880			立会		
	放送系同窓元素総合実験室	O-18	46	2			"		
	耕木部自転車置場								
	教養部自転車置場	L-17	47	10			"		
	教養部中庭環境整備	J-K-16	48	150			"		
昭和57年	大学会館新設	M-N-12-13	49	2,000	古墳井戸、土壤、柱穴、中世井戸、廻柱立堆物	弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁器、国産陶器、五管土器、縄文陶器、木簡、石器	事前		年報Z
	ラグビー場防球ネット新設	G-18-19 H-19-20	50	114	弥生講、弥生～古墳鄭穴住居、土壤	弥生土器、土師器、石製品	"	鄭穴住居は工法変更により現地保存	
	理学部大学院校舎新設	M-N-20	51	409			立会		
	正門・南門・駐車置場	I-J-12-13 H-23	52	183			"		
	学生部アーチホールの台・電柱設置	N-S-9	53	33			"		
	学生部総合整備	M-7-8	54	1.6			"		
	学生部野球場散水栓取設	J-21 K-22	55	1			立会		
	教養部環境整備	I-15-16 J-15 K-17-18 L-18	56	81			"		
	学生部テニスコート改修	C-18 D-17 E-15-16 F-16	57	12			"		
	大学会館ケーブル配設	N-12	58	160	弥生土壤、柱穴	弥生土器	事前		
昭和58年	大学会館排水水管布設	J-L-13	59	180	弥生～中世遺物包含層、古墳土壤、古代～中世土壤、溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦質土器	"		年報W
	学生部テニスコートフェンス改修	B-17 C-16-17 D-16 E-15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試掘		
	経済学部樹木移植	K-19-21	61	8			立会		
	大学会館環境整備	L-14-15 M-N-15	62	592	弥生～中世遺物包含層、弥生鄭穴住居、貯蔵穴、土壤、古代～近世土壤、溝、柱穴	織文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、輸入陶磁器、国産陶器、土製品、石斧、原石、鉄器、空甕	試掘		
昭和60年	経済学部環境整備(樹木移植)	K-L-20	63	5			立会		年報V
	農学部附属農場斜料園	R-17-19	64	30	古代末～中世河川跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器、縄口、石器、既存	"		
	耕木庫改修整備	V-15-17	65	325			"		
	教育学部前庭環境整備(樹木移植)	I-J-19	66	430			"		
	中央ポイント棲止設置	O-P-16	67	2.5		須恵器	"		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和60年	大学会館環境整備(樹木移植)	M-15	68	9		弥生土器、土師器、須恵器、石器、瓦片、鐵洋	#		年報V
	交通標識設置	J-20 N-14 P-18	69	3			#		
	農学部鉢割実習棟周辺環境整備 (実験動物実験場設置)	Q-18	70	16			#		
	理学部環境整備(砂利設置)	N-21	71	4			#		
昭和61年	農学部附属畜産病院舎装	S-T-19	72	270			#		年報VI
	国際交流会館新営	M-22-23 N-22	73	70	弥生・古墳・河川跡 中世～近世墓	弥生土器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器、鐵磁玉、加工板のある剝片	試掘		
	山口銀行現金自動支払機設置 (電線路埋設)	J-19	74	11	包含層(河川跡か)	弥生土器	立会		
	農学部附属農場農道整備	S-20 T-U-19	75	165	中世墓、柱穴	土師器、瓦質土器	# 工法変更		
	農学部附属農場農道交通規制 (施設ボール設置)	M-10 P-15 Q-15～17	76	12			#		
	正門横(木田内)境界杭設置	J-19	77	0.25	包含層か		#		
	経済学部環境整備 (樹木移植・記念碑建立)	L-20	78	3			#		
昭和63年	吉田橋内交通標識設置	G-23 K-9 O-22 S-20 V-17	79	3		須恵器	立会		年報VI
	市瀬神社1号塚お上げ 間田神社跡の送水管設	B-17～18 C-18～19 D-19～20 E-20～21 F-21～22 G-22～23 H-23～24 I-J-K-24 L-23～24 M-N-23 O-22～23 P-Q-22 R-21～22 S-21 T-20～21 U-19～20 V-18～19 W-X-18	80	2,100	古墳・弥生溝、 古代河川跡、 弥生包含層	弥生土器、土師器、 須恵器 (墨書きのもの含む) 瓦質土器、製塙土器、 石斧、板石	立会 山口市教育 委員会 山口大学埋蔵 文化財資料館		
	新業部自動洗車機設 (屋根設置および機器移動)	K-L-18	81	3.5			#		
	教育部身体障害者用 スロープ設置	L-15～16	81	3			#		
	経済学部散水綫取設	L-20	83	4			#		
	吉田構内水泳プール 改修等	E-15 F-15～16 H-15	84	26.5	包含層		#		
	農学部附属農場 木道管理設	S-12	85	3			#		
	吉田構内汚水排水管等 総改修	M-18 O-15	86	15.5		土師質土器	#		
	本部身体障害者用スロープ 設置	L-14	87	12			#		
	経済学部身体障害者用 スロープ設置	K-18～20 L-18	88	78			# 工法等変更		
昭和62年	田園風景書斎荷物運搬用 スロープ設置	L-16	89	8		弥生土器	#		年報VII
	教養部7番教室改修	K-16	90	1			#		
	教育学部附属教育実践 研究指導センター新営	J-K-18～19	91	240		ブランク、削器、 植物遺体	事前		
昭和63年	教養部複合棟新営	J-K-17	92	35	埋甕上壇、溝、柱穴	土師器、須恵器、 瓦質土器、石斧	試掘		年報VIII
	教養部複合棟新営	I-J-16	93	30	溝状遺構	弥生土器	立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (nf)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和62年	教養部複合棟新営	J-K-17・18	94	900	廓・穴、河川跡、 堅穴・窓、土壙、溝、 井戸、堆積土塚、 獨立社建築跡、 谷状造構、柱穴	織文土器、土師器、 須恵器、土師質土器、 須恵質土器、 陶磁器、石器、石斧、 木製品	事前		年報Ⅷ
	九田川局部改修	B-16・17 C-16	95	20			立会	山口県教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	国際交流会館新営	M-N-22・23	96	195			"		
	教育学部附属幼稚園 自転車置場設置	B-20	97	1			"		
	農芸部附属農場E・F6 排水管理設置及び F6園道進入路拡幅	L-N-12	98	55	中世土壤基盤	弥生土器、土師器、 須恵器、輸入白磁、 国産磁器、磁石	"		
	農学部植栽	N-17	99	3			"		
昭和63年	経済学部集会場設置	J-20	100	0.5			"		年報Ⅸ
	教養部複合棟新営に伴う 自転車置場設置	I-16	101	1	包含層か		立会		
	国際交流会館新営に伴う 排水管理設置	N-O-22	102	35	河川跡(溝か)、 包含層	弥生土器、須恵器	"		
	教養部複合棟新営に伴う ケーブル埋設	J-18	103	1			"		
	チッカー・ラグビー場改修	F-19・21 G-18	104	25	性格不明	弥生土器	"		
	消防用水設置	K-M-22	105	7.5			"		
平成元年	水銀灯新営	J-L-15	106	4	古墳溝状構造柱穴	弥生土器、土師器、 須恵器、六連式製塙土器	事前		年報Ⅹ
	種野原ボイラー設備改修	O-20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新営	H-22 I-21・22 J-K-21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器	"		
	防火水槽配管布設	K-21・22	109	15	柱穴		"		
	吉田寮ボイラー設置	M-B	110	4			"		
	体育施設給水管改修	G-H-16	111	50		陶器	" 工法等変更		
平成2年	大学会館前記念植樹	M-13	112	6			"		年報Ⅺ
	吉田寮ボイラー棟 地下貯油槽設備改修	M-B	113	45	包含層	土師器、須恵器、 土師質土器、陶器、 銅片、 二次加工のある銅片	"		
	第2武道場棟新営	G-15	114	2	虎		"		
	室内標識設置	F-14 L-18	115	0.5			"		
	本部東座給水管改修	I-13	116	6.5		弥生土器	"		
	大学会館前庭環境整備	N-14・15	117	35	中世溝		"		
平成2年	大学会館前庭環境整備	M-15	118	2			"		年報Ⅻ
	第1学生食生活設備改修	I-J-19	119	7			"		
平成3年	教育学部附属幼稚園学案内板設置	E-20	120	1			"		年報Ⅹ
	農芸部連合館医学部新営	O-P-17	121	76	織文河川	織文土器、石器	試掘		
	農芸部設立記念館設置	P-17	122	6		須恵器	立会		
平成3年	農芸部微生物実験室 その他機械替換機械設備改修	P-17	123	8			"		年報X-1
	大学会館前庭記念植樹	L-M-15	124	2			"		
	サークル棟新営	F-14	125	11			"		
平成4年	農芸部連合館医学部棟新営	O-P-17	126	980	織文河川	織文土器、石器	事前		年報X-II
	H-22 M-10 O-22 R-19 S-20								
	吉田構内道路 (南門ロータリー)設置	H-23	128	40			"		
	交通規制標識及びバリアー設置	O-16	129	4			"		
	農芸部附属農場ガラス室新営	S-14	130	3.5			"		
	大学会館前庭記念植樹	L-M-15	131	3			"		
平成4年	泉町平川線緊急地方道路整備工事 及(内)山口大学吉田団地 環境整備(正門周辺)	E-11・12	132				"		年報X-II
	泉町平川線緊急地方道路整備 (信号機設置)	I-11	133	7			"		
平成5年	本部裏給水管設置	K-M-13	134	70	虎、柱穴	弥生土器、土師器、 滑石製模造形	事前		年報X-III
	人文学部・理学部講義棟新営	M-20	135	4			試掘		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成5年	第2層内運動場新設	G・H-16	136	144	溝	弥生土器、須恵器、砾石	II		年報 XIII
	農学部給水管理設	N・P-18	137	9			II		
	基幹整備 (埋立地給水管改修)	L-15 M-17・18	138	16			立会		
	農学部連合獣医学棟新設 電気設備	O-16	139	4			II		
	大学会館前庭アーチー設置	N-14	140	1			II		
	大学会館前記念植樹	L-15	141	1.6			II		
	久田川河川局部改良	C-16 D-15・16	142	40			II		
	農学部電柱立替	V-17	143	0.2			II		
	農学部ガラス室設置	S-14	144	10			II		
	教育学部給水管理設	H-19	145	15			II		
	環境整備(大学会館前庭)	L-14 M-13～15 N-14・15	146	140.9			II		
	H-20	I-19～21 J-20・21	147	361			II		
	環境整備(道路保存地区)	G-13 H-12	148	350			II		
	グランド屋外照明施設新設	E-20 F-21 G-18・22 H-19・20 I-21	149	600	隅文河川、弥生住居、溝、土坑、弥生～古墳時代、近世溝	縄文土器、弥生土器、土師器、ガラス小玉、砾石、磨石、鐵石	事前工法等変更		
	第2層内運動場新設	G-I-15・16	150	726	弥生～古代溝、貯蔵穴、土坑、近世溝、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、砾石、磨石、鐵石、瓦質土器、土師質土器、陶器、鐵器、瓦、下駄	II		
平成6年	グランド屋外照明施設配線埋設	F-21 G-20・21 H-19・20	151	200	隅文河川、弥生住居、溝、土坑、弥生～古墳時代、近世溝	縄文土器、弥生土器、土師器、ガラス小玉、砾石、磨石、鐵石	II 工法等変更		年報 XIV
	経済学部商品資料館新設	K-L-21	152	87.5	隅文河川	陶器、磁器	試掘		
	実験施設処理施設新設	H-12・13	153	2	河川		II		
	体育器具庫及び便所新設	G-H-17	154	60	河川		II 工法等変更		
	経済学部商品資料館	L-22 M-22・23	155	5			立会		
	敷設電柱設置	K-23 L-22・23	156	6			II		
	人文学部前駐車場整備								
	教育学部附属養護学校	F-19	157	2			II		
	生活排水管改修	B-17 C-16・18 D-15～17 E-15・16	158	15			II		
	教育学部附属養護学校	B-20～22	159	16			II		
	陸上競技場整備(透水管埋設)	C-18 D-18・19	160	300			II		
	ハンドボール場改修(プレハブ設置)	K-22	161	30			II		
	野球場フェンス改修	H-22 I-21・22	162	3			立会		
	基礎環境整備 (ボイラー室配電盤設置)	O-16	163	4	河川か		II		
	久田川河川局部改良	D-15 E-14・15	164	100			II		
	第2層内運動場電柱設置	G-14・15	165	0.5			II		
	教養部水道管破裂修理	I-16	166	2			II		
平成7年	グランド屋外照明施設配線埋設	E-20 F-20～21 G-18・19・22 H-19・20 I-20・21	167	150			II		年報 XIV
	公共下水道接続 (教育学部附属養護学校 プール排水施設設置)	A-21	168	4			II		
	サークル棧給水管埋設	F-14	169	1			II		
	プール新設給水管埋設	E-15 F-15・16	170	10			II		
	公共下水道接続 (汚水管雨水排水施設設置)	C-18	171	6	河川	土師器	II		
	教育学部ロープ設置(音楽棟)	H-17	172	10			II		

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (af)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成 7年	農学部附属実験研究施設新宮	Q・R-17	173	75	近世溝	磁器	試掘		
	農学部附属実験研究施設新宮	Q・R-17	174	520	中世井戸、近世溝	石斧、須恵器、磁器、瓦器	事前		
	公共下水道接続	C-18 E-16 G-14	175	70	溝、土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、土師器	試掘		
	公共下水道接続	C-D-18 D-E-17 E-F-16	176	240	土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、石器、骨角器	事前		
	農学部附属農場牛舎新宮	F-10	177	22			試掘		
	施設宿舎改修	N-O-22	178	25.5	河川		試掘		
	第2学生食堂増築	N-O-15	179	48	柱穴、包含層	石器	試掘		
	第2階内運動場外周照明施設新設	G-15-16	180				立会		
	機器分析センター新宮工事用電柱仮設	O-19~21 F-22	181				"		
	農学部附属農場家畜病院ハリカー新設	S-20	182				"		
平成 8年	吉田寮可燃ごみ置場新設	N-10	183				"		
	農学部附属実験研究施設電気・情報ケーブル及びガス・給排水管布設	Q-R-17	184				"		
	情報処理センタースロープ新設	O-19	185				"		
	基幹環境整備(ATMネットワークケーブル布設)	E-19~20 F-18~19 G-18	186				"		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-15~16 J-20 K-19 M-10~11 N-12 O-16~18・20 P-18~19 Q-17~18	187				"		
	基幹環境整備(施設宿舎・国際交流会館排水管布設)	M-23 O-22	188	22.5	河川		試掘		年報 XVI
	基幹環境整備(外灯新設)	H-I-21~22	189	306	河川	縄文土器、弥生土器、土師器、石器	試掘		
	農学部附属農場排水管布設	S-10~11	190	93	包含層、ピット	土師器、須恵器	試掘		
	地上競技場移設取扱	G-18	191	5.5	包含層		立会		
	農学部附属農場排水溝改修	R-11	192	2.2			"		
平成 9年	様野寮ハリカー新設	O-20~21	193	7			"		
	ツッカ一湯給水管取替	H-I-19~20 I-19	194	12	包含層		"		
	基幹環境整備(共通教育センター・スロープ・テラス新設)	J-K-17	195	14.3	河川	縄文土器、須恵器	"		年報 XVI
	丸田川河川局部改良	E-14	196	18			"		
	農学部附属農場道路舗装	K-12~13 L-12 M-11	197	27.6	近世用水路、溝状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器	"		
	本部裏排水管取替	K-14	198	2			"		
	農学部附属農場家畜病院整備合意障壁取扱	S-T-19	199	1			"		
	農学部附属農場堆肥合意新宮	S-10	200	41.5			試掘		
	農学部バイオ農場創設施設新宮	Q-15~16	201	140	河川、溝	土師器、須恵器、製塙土器、石器	試掘		
	カーブミラー新設	M-11 N-21	202	0.8			立会		
平成 10年	基幹環境整備(外灯新設)	J-K-21 K-L-22 L-23	203	23.5	包含層		"		年報 XVII
	共通教育棟エレベーター新設	K-16	204	42			"		
	丸田川河川局部改良	E-14	205	48			"		
	本部2号館西側ハリカー新設	L-13	206	0.5			"		
	教育学部附属農業種子学校時計塔新設	D-21	207	1.4	包含層	土師器	"		
	基幹環境整備(教育学部附属農業種子学校排水管取替)	C-D-21	208	17	河川		"		
	基幹環境整備(既却堀農土土作り)	O-16	209	40			"		
平成 10年	第2学生食堂増築及び改修	N-O-15	210	730	掘立柱建物、溝、土坑、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、石器、鉄製品	事前		
	教育学部附属農業種子学校給食室改修	C-21	211	9	縄文河川、土坑、柱穴	縄文土器、弥生土器	試掘		
	丸田川河川局部改良	E-F-14 F-13	212				立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成10年	基幹環境整備(アリカ一新設)	H-15 I-J-20 O-16-18	213				"		
	農学部動物用棲却室改修	Q-18	214				"		
	基幹環境整備(外灯新設)	L-17~19 M-N-18	215				"		
	理学部スロープ新設	M-18	216				"		
	ステンレス回転モニメント新設	M-13	217				"		
平成11年	第2学生食堂兼他の作成 屋外電力線路施設整備	O-14~16	218		包含層、柱穴、河川	土師器、須恵器	"		
	九田川河川局部改良	F-G-13 G-H-12	219				"		
	第2学生食堂兼西側防壁ネット新設	N-14	220				"		
	アリカ一廻廊防壁ネット新設	G-H-22	221				"		
	第1体育館・共通教育本館 スロープ新設	H-15 K-16	222				"		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-12 K-L-18 L-15 M-N-17	223				"		
	総合研究棟新設	Q-18 E-17~19	224	250	河川	土師器、須恵器	試掘		
	総合研究棟新設	Q+R-18+19	225	830	河川、土坑	織文土器、土師器、須恵器、製陶土器、瓦質土器、石器	事前		
	販賣及び周辺施設改修	M-R	226				立会		
	架空電線取り外し埋設	O-15 P-15+16 Q-14+15+ R-13-14 R-S-19 S-14	227		包含層		"		
平成12年	九田川河川局部改良	H-11+12 I-10+11 J-9+10 K-L-9	228				"		
	山口合同ガスガバナー室新設 及びガス配管布設	O-P-22	229				"		
	基幹環境整備 (アリカ一新設)	N-22 M-10 V-17	230				"		
	あずまや新設	L-18	231				"		
	共通教育センター空調設備 新設	J-16	232				"		
	基幹環境整備(外灯新設)	J-K-21 M-10	233				"		
	総合学部校舎改修 (プレハブ校舎新設)	K-21	234	40	河川	織文土器	試掘		
	九田川河川局部改良 (平成12年度工事追加分)	L-8+9	235		河川		立会		
	総合研究棟新設外配管布設	Q-18	236				"		
	理学部改修1期工事外配管布設	M-18+19 M-N-20 N-19	237				"		
平成13年	九田川河川局部改良	L-8+9	238				"		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-14+15 J-15 K-L-M-15 N-16 Q-T-V-17	239		河川		"		
	理学部校舎改修2期工事ポンプ室 配管布設	M-19	240				"		
	理学部校舎改修2期工事 自転車置場新設	N-20	241				"		
	第1学生食堂トイレ改修	I-J-19	242				"		
	経済学部校舎改修(プレハブ 校舎新設配管布設)	L-21	243				"		
	農学部校舎改修(解剖実習室 プレハブ校舎新設)	R-S-19	244	520	脛立柱建物、柱穴、 土坑、包含層、河川	土師器、須恵器 (墨書き土器)、 製塙土器、鍍錫陶器、 瓦、輪印、鉢底、湖銅石	事前		
平成14年	農学部附属農場実験圃整地	O-14	245				立会		
	農学部校舎改修	N-Q-17+18	246		河川	織文土器	"		
	理学部改修3期工事(氨基庫揭示板 自転車置場新設)	N-O-19 M-19+20	247				"		

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成14年	東アジア研究科 プレハブ校舎新設	N-21	248				"		
	農学部校舎改修(解剖実習棟 プレハブ校舎新設)	R-S-19	249		河川、包含層		"		
	教育学部トイレ改修	F-18	250				"		
平成15年	農学部附属農場ガス管漏洩修理	O-P-16 Q-15	251	12	河川		立会		
	教育学部附属養護学校給食調理員 専用ルーム新設	C-21	252	1.7			"		
	農学部環境観測実験棟南側温室	P-Q-15	253	52			"		
	理学部中庭通路屋根新設	N-19	254	5.8			"		
	理学部中庭あづまや新設	N-20	255	6.8			"		
	基幹環境整備(外灯)	F-16, H-14 G-13~15+18 I-16~19 J-19, L-12 Q-15	256	11.5	河川		"		
平成17年	教育総合研究センター改修Ⅰ期	J-K-16	257	130	ビット、河川	弥生土器、土師器	予備		
	教育総合研究センター改修Ⅰ期	I-J-K-16 H-12, E-20	258	580	ビット、河川	弥生土器、土師器 須恵器	立会		
	日本・トリニティ学会 水田土壤の断面調査	R-16	259	3.1	河川		"		
平成18年	基幹環境整備(外灯)取設	H-17~22+23	260	7.7			"		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K-L-16, K-17 J-16~17	261	92	ビット、溝、河川	弥生土器、土師器 石器	予備		
	農学部附属畜病院改修Ⅰ期	S-20	262	36	包含層・谷	土師器、須恵器 製塙土器	予備		
平成19年	農学部附属畜病院改修Ⅰ期	S-20	263	225	雁立柱建物跡、溝、土壤	土師器、須恵器 縄文陶器、木製品(柱)	本		
	農学部附属畜病院改修Ⅰ期	S-20	264	19	包含層		立会		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K-L-16	265	84	ビット、河川、杭列	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器	本		
平成20年	教育総合研究センター改修Ⅱ期	J-K-L-16 I-J-K-L-17	266	480	ビット、河川、溝	弥生土器、土師器 打製石斧、柱材	立会		
	資料館(東亜経済研究所)新宮	L-20~21	267	100	土壤、落ち込み、河川		予備		
	プレハブ貯蔵庫設置	I-16	268	29			立会		
平成21年	第一学生食堂改修	J-20	269	75			"		
	国際部前広場環境整備	L-17~18	270	55			"		
	プレハブ校舎新設	F-14~15, G-15	271	400			"		
平成22年	人文学部外灯用電源敷設	M-20	272	6			"		
	テニスコートフェンス改修	B-C-17, C-18	273	10	河川、包含層		"		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅱ期	T-20	274	48	土壤、ビット	土師器、須恵器 瓦質土器	本		
平成23年	駐車場整備工事	J-21	275	10			立会		
	資料館(東亜経済研究所)新宮	L-20~21	276	550			"		
	第一事務局改修工事	L-15	277	5			"		
平成24年	吉田寮前配水管敷設	M-11	278	11			"		
	農学部附属農場内電源敷設	Q-15, S-18	279	0.5	ビット	須恵器	"		
	経済学部研究棟改修工事	L-M-19	280	26	河川、落ち込み		予備		
平成25年	新教育研究棟新設	M-N-11~12	281	473	谷、ビット、溝	弥生土器、土師器 須恵器、瓦質土器 青磁	"		
	新教育研究棟設備開通工事	L-12~14 M-12~13	282	313	ビット、溝、土壤	土師器、須恵器 縄文陶器、白磁、青磁 国産陶器、砥石	本		
	新教育研究棟新設	M-N-11~12	283	1,333	雁立柱建物、ビット 溝、土壤、井戸、谷	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器、青磁 縄文陶器、瓦質土器 木製品	"		
平成26年	農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期	T-19 S-20	284	250	雁立柱建物、ビット 溝、谷	弥生土器、土師器 須恵器、製塙土器 青磁、瓦質土器 木製品	"		
	国際交流会館改修工事	N-O-22 N-23	285	457	河川		立会		
	サッカーフラウンド防球ネット取設	H-21~22 I-21	286	8.5	河川、ビット		"		
平成27年	正門改修等工事	L-13 M-12~13	287	174	ビット、溝、落ち込み	土師器、須恵器 瓦質土器、陶器、磁器	"		
	教育実践センター取りフェンス取設	K-19	288	2	土壤	縄文土器	"		
平成28年	東アジア研究棟・経済学研究科新宮	K-21	289	117	溝、河川	弥生土器、土師器 須恵器、木製品	予備		年報7

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
	野球場防球ネット取設置	H-23 I-24	290	40	ビット、溝、包含層	弥生土器、砥石	予備		
	K-24								
	教育学部研究実験A棟改修	H-17-I-18 I-K-24	291	35.3			P		
	里山整備工事	Q-10 O-P-Q-11	292	36.9			P		
	新教育研究棟新設	N-11 H-M-11-I-12	293	340.5			立会		
	ピオーネ周辺雨水配水管取設	H-12	294	60			P		
	仮設高圧引込工事	I-M-10-11	295	7			P		
	ため池整備工事	S-8	296	130			P		
	基幹整備(鉄筋管改修)	J-14-15	297	156	包含層		P		
	事務局外灯設置	J-14	298	1			P		
	第1体育館旁引込渠埋設工事	L-14	299	1.2	ビット		P		
	基幹・環境整備	H-13	300	300			P		
平成 21年	男子学生寮東側丘陵災害復旧	N-8 O-8-9	301	700			P		
	人文学部外灯設置	N-21	302	10			P		
	人文学部西側アプローチ改修	M-20	303	750			P		
	教育学部研究実験棟A棟改修電気設備	K-18	304	40	包含層、河川		P		
	理学部サークル外灯設置	O-20	305	0.3			P		
	農学部インターロッキング設置	P-17	306	9			P		
	農学部附属動物医療センター改修整備	S-19-20	307	154	包含層、埋没谷	土師器、須恵器	P		
	Q-15-16 R-15								
	S-15 T-15	308	96	包含層、河川	土師器、須恵器	P			
	U-15 V-15								
	農学部植物工場新設	P-15	309	98	包含層	土師器、須恵器	P		
	男子学生寮新設	M-10-11	310	1350			P		
	ラグビー場排水整備	E-20 F-21	311	58.6			P		
	アーチホール通道整備工事	N-7-8 O-7-8	312	750			P		
	テニスコート改修	C-17 D-16-17	313	18.3			P		
	共通教育講義棟改修	L-17	314	11.6			P		
	石庭美術場整備その他	N-O-P-8 Q-9	315	29			P		
平成 22年	教育学部研究実験棟B棟改修工事	H-I-J-18	316	80	落ち込み、溝	弥生土器	予備 立会		
	音楽サークル棟新設工事	G-14	317	13.5			予備		
	教育学部研究実験棟G棟改修工事	G-18	318	22			立会		
	吉田寮改修工事	I-M-9	319	1,820			P		
	基幹整備(鉄筋管改修)工事	Q-18	320	13.6	河川		P		
	基幹整備(第1体育館旁排水整備)工事	G-13	321	8			P		
	事務局2階車寄せ取設工事	L-14	322	3.6	土壤		P		
	里山歩道手掘り取設工事	N-O-14	323	15.2			P		
	人文学部駐輪場外灯設置工事	M-22	324	13.6			P		
	教育学部附属特別支援学校	C-D-21	325	18	包含層、河川		P		
平成 23年	構内雨水排水新設工事	H-S-19	326	10	ビット、溝、土壤		P		
	農学部附属農業機械廻転清掃工事	R-S-19	327	380	ビット、杭列、河川	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、石器	本 立会		
	特高受変電設備機新設工事	P-Q-16 R-S-T-U-V-17	328	224	ビット、杭列、河川				
	基幹整備	G-13-14	328	72			立会		
	(第1体育館旁排水整備)工事								
	埋蔵文化財資料館スマート取設工事	N-16	329	48			P		
	第2学生食堂西側	M-15	330	8			P		
	テープル・ベンチ取設工事	P-15	331	224	ビット		P		
	農学部植物工場新設工事								
	農学部連合歎息医学棟横倉庫撤去・新設工事	O-17	332	75			P		
平成 23年	教育学部附属特別支援学校新棟増設工事	C-D-21	333	16.8			P		

年報
7年報
8年報
9

白石構内

調査年度	調査名	構内地区別	地點	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属山口小学校・幼稚園運動場整備		1	60	古墳堅穴住居、 横状造構	土師器、須恵器、 瓦質土器、瓦、 石製品。不製品	試掘		年報Ⅳ
昭和60年	教育学部附属山口小学校 敷地改修		2	1			立会		年報V
	教育学部附属山口中学校 球技場→整備		3	2			#		
	教育学部附属幼稚園 環境整備(樹木植樹)		4	1			#		
昭和61年	教育学部山口附属学校	幼稚園・ 小学校部分	5	57	中世土礫か	調文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、 瓦質土器、 土師質土器。	試掘		年報VI
	污水排水管設置	中学校部分		20	河川跡の杭列	陶磁器、不明鉄製品、 石繩、剝片、植物遺体			
昭和61年	教育学部附属山口小学校 電柱設置		6				立会		年報VI
昭和62年	教育学部附属幼稚園 遊戯室改修		7	40			#		年報VII
昭和63年	教育学部附属山口中学校 屋内消火栓設備改修		8	35	包含層	土師器、磁器、剝片	#		年報VIII
平成元年	教育学部附属幼稚園・ 山口小学校污水排水管設置		9	260	弥生～古墳堅穴住居、 土壙、溝、柱穴、 河川跡	調文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、 瓦質土器、 須恵質陶器、 黒色土器、攝器、 二次加工のある剝片、 使用痕のある剝片、 剝片、石核、砥石	事前		年報IX
	教育学部附属幼稚園 バーベコート支柱設置		10	0.3			立会		
	教育学部附属幼稚園・ 山口小学校污水排水管設置		11	170	弥生護状造構	弥生土器、土師器、 打製石斧、 削器、剝片、石核	#		
平成2年	教育学部附属山口中学校 污水排水管設置		12	70	横状造構	調文土器、弥生土器、 土師器、瓦質土器、 不明鉄製品、石繩、 敲石、扁平打製石斧、 砥石、剝片	事前		年報X
			13	130		弥生土器、土師器、 須恵器、土師質土器、 瓦質土器、 圓座陶磁器、 扁平打製石斧、砥石	立会		
平成6年	教育学部附属山口小学校 「ブル新宮給水管理設置		14	3			#		年報XIV
	教育学部附属山口中学校 「ブル新宮給水管理設置		15	7			#		
平成7年	教育学部附属山口中学校 自転車置場新設		16				#		
平成10年	教育学部附属山口小学校 給水栓改修		17				試掘		
平成12年	教育学部附属山口中学校 防球ネット新設		18				立会		
平成14年	教育学部附属山口中学校 給水管路改修		19				#		
	教育学部附属幼稚園 運動場整備		20		河川、柱穴	土師器	#		
平成15年	教育学部附属山口幼稚園庭園新設 山口小学校スクープ新設		21	27.7			立会		年報I
	白石地区市道歩道改修		22	1	河川		立会		年報2
平成16年	教育学部附属山口小学校事務室新設		23	101	河川、土壤または溝		#		
	教育学部附属山口幼稚園・小学校 フェンス・通用門改修		24	11			#		
平成17年	教育学部附属山口幼稚園・小学校 給水管改修		25	10			立会		年報3
平成19年	教育学部附属山口中学校校舎改修		26	121	河川、落ち込み、ビット	調文土器、弥生土器	予備		年報5
平成21年	教育学部附属山口小学校共用棟・ 教室B棟間渡り廊下植根取扱		27	38	河川、包含層		立会		年報7
			28	2.5			#		

山口大学構内文化遺産調査

調査 年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査 区分	備考	文献
平成 21年	教育学部附属幼稚園園内中庭池 改修整備		29	50	露丸込み		立会		年報 7
平成 22年	教育学部附属山口中学校中庭敷地 渡り廊下設置		30	1.5			#		年報 8
平成 23年	教育学部附属山口小学校 渡り廊下底板設置工事		31	12			立会		年報 9
	教育学部附属学校園案内板設置工事		32	1			立会		
	教育学部附属幼稚園 渡り廊下底板拡張工事		33	11.5			#		

小串構内

調査年度	調査名	構内地図割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和56年	医学部体育館新営		1	260		土師器、瓦質土器、石器	試掘		年報Ⅲ
	医学部ampus館増築		2	4			立会		
	医学部体育館新営		3	1			"		
昭和59年	医学部浄化槽新営		4	44	近世溝	土師器、瓦質土器、磁器	事前		年報Ⅳ
	医学部体育館新営		5	65		土師器、瓦質土器、磁器	"		
	医学部基幹整備 (特高受変電設備)		6	28		動物遺体(貝殻)	試掘		
昭和60年	医学部臨床講義棟 病理解剖棟新営		7	38			"		年報Ⅴ
	医学部附属病院 外来診療棟新営		8	390		土質土器類、瓦質土器、陶磁器	"		
	医学部基礎研究棟新営		9	10		近世陶器	"		
昭和60年	医学部看護婦宿舎改修		10	25.5		近世陶磁器	立会		年報Ⅴ
	医学部看護婦宿舎改修		11	20			"		
	医学部附属施設(木造木替)		12	40			"		
昭和61年	医学部附属病院 外来診療棟新営		13	5			"		年報Ⅵ
	医学部附属病院 外来診療棟周辺 環境整備等(活水桿埋設)		14	18			"		
	医学部附属病院東棟車庫改修		15	6			"		
昭和62年	医学部附属病院病棟新営		16	104		削器、ナイフ形石器、細石刃核	試掘		年報Ⅶ
	医学部附属病院運動場整備		17	300		二次加工のある剝片、使用痕のある剝片、剝片、鐵石、鐵、原石、土師器、土質土器、瓦質土器、陶磁器	立会		
昭和63年	医学部附属病院運動場新営		18	220			"		年報Ⅷ
	医学部附属病院MBI棟新営		19	45		削器、細石刃、二次加工のある剝片、剝片、石核	試掘		
平成元年	医学部附属病院MBI棟新営		21	0.5					年報Ⅸ
平成3年	医学部臨床実験施設新営電気工事		22				立会		年報X I
平成4年	徒歩棟地盤調査		23				"		年報X II
平成5年	医学部附属病院基幹設備 (焼却炉新設)		24	9			"		年報X III
平成6年	MRI-CT装置棟新営		25	300			"		年報X IV
平成7年	医学部附属病院 看護婦宿舎新営		26	40			試掘		
平成8年	医療技術短期大学部 屋外排水管布設		27	6			立会		年報X VI
平成9年	医学部歴史碑・納骨堂新営		28	15.2			試掘		年報X VII
	瓦神環境整備 (看護婦宿舎浄化槽撤去)		29	4			立会		
	医学部検査棟移設		30	10			"		
平成10年	宇都市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線)		31	134	包含層、近世～近代用木路	剝片、弥生土器、土師器、陶器、磁器	事前	宇都市 教育委員会と 共同調査	
平成10年	宇都市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線・医学部 敷地西側特殊道路)		32	379	包含層、近世～近代溝	剝片、縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	"	宇都市 教育委員会と 共同調査	
平成11年	宇都市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線)		33	792	近世～近代用水路、土坑	陶器、磁器、鉄製品	"	宇都市 教育委員会と 共同調査	
平成13年	医学部附属病院立体駐車場新営		34	229	包含層	縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	試掘		
平成14年	医学部附属病院高エネルギー 棟新営		35	13.25			"		
平成15年	総合研究棟新営		36	382	包含層	縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器	"		
平成15年	基幹環境整備(煙突)新営		37	76			試掘		年報 1

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成16年	医学部基幹環境整備 (地下オイルタンク他)		38	144		繩文土器、土師器、陶器、磁器、石錐	試掘	年報2	
	医学部職員宿舎他公共下水接続		39	400		弥生土器、土師器、瓦質土器、陶器、磁器	#		
	医学部総合研究棟北側 道路用護り廊下設置		40	40.6			立会		
平成17年	医学部基幹環境整備 (冷熱源設備他改修)		41	37			#	年報3	
	医学部南側通用門廊取扱		42	30			#		
平成18年	ミニユメ小設置		43	6.2			#	年報4	
平成19年	医学部総合研究棟改修Ⅰ期		44	6.75			予備	年報5	
平成20年	医学部総合研究棟改修Ⅱ期		45	9			#	年報6	
平成21年	小串宿舍B棟埋設ガス管改修		46	58			立会	年報7	
平成22年	医学部附属病院患者用 ・職員用立体駐車場建設		47	125		埋管、陶器、磁器、瓦質土器、土師器	予備 立会	年報8	
	地域医療教育研修センター新宮		48	156	駐車場	磁器、陶器、泥メンコ、土人形、埋管、土錐、土師器、須恵器、弥生土器、繩文土器	予備		
平成23年	地域医療教育研修センター新宮工事		49	4			立会	年報9	

常盤構内

調査 年度	調査 名	構内地区別 地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査 区分	備考	文献
昭和 58年	工学部校舎新設	1	70		須恵器	試掘		年報 III
昭和 59年	工学部図書館増築	2	70			#		
昭和 60年	工学部尾山宿舎排水管布設		20			立会		年報 IV
昭和 60年	工学部尾山宿舎排水管取設等		65			#		年報 V
昭和 61年	工学部受水槽改修	3	1.5			#		
昭和 61年	工学部尾山宿舎排水管改修		6			#		
昭和 61年	工学部身体障害者用スロープ取設	4	29			#		年報 VI
昭和 63年	精養地理センター(常盤センター) 空調設備直設		5	30		#		
昭和 63年	工学部焼却炉上屋新設	6	225			#		年報 VII
平成 元年	工学部夜間照明装置 及び防犯ネット設置	7	2			#		年報 IX
平成 2年	工学部記念植樹	8	2.5			#		
平成 3年	工学部ガス管改修	9	45			#		年報 X
平成 3年	大学祭展示物設置	10	7			#		年報 X 1
平成 4年	工学部プレハブ研究・実験棟新設	11	6			試掘		
平成 4年	工学部・工業短期大学部の 改組再編・博士課程設置に伴う 建物等の新設	12	40			#		年報 X II
平成 5年	工学部および工業短期大学部 職員宿舎取壇	13	9			立会		
平成 5年	大学祭展示物設置	14	7			#		
平成 5年	工学部・プレハブ研究・実験棟新設	15	12			試掘		年報 X III
平成 6年	工学部地域共同研究開発 センター新設	16	16			#		
平成 7年	工学部国際交流会館新設	17	8		石罐	#		
平成 8年	工学部国際交流会館新設	18	352	段状遺構	ナイフ形石器、剥片	事前		年報 X VI
平成 12年	工学部福利厚生棟新設	19	38.5			試掘		
平成 13年	工学部インキュベーション センター新設	20	60			#		
平成 14年	総合研究棟新設	21	13.5			#		
平成 15年	工学部本館改修	22	428			立会		年報 I
平成 16年	工学部定歪速度応力観測割れ 実験室新設	23	20			試掘		年報 2
平成 17年	工学部光半導体素子実験室新設	24	52.5			#		
平成 18年	工学部雨水の濾工工事	25	9			立会		年報 3
平成 19年	工学部職員宿舎排水施設改修	26	65			#		年報 4
平成 20年	工学部会議棟身体障害者スロープ取設置	27	38			#		年報 5
平成 21年	総合研究棟改修工事 (Ⅱ期・本館北)	28	280			確認		年報 6
平成 21年	工学部総合研究棟改修(Ⅲ期・本館)	29	147			#		年報 7
平成 21年	工学部女子学生宿舎新設その他	30	24			予備		年報 8
平成 21年	工学部ガス管改修	31	12.5			確認		年報 9

光構内

調査 年度	調査 名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査 区分	備考	文献
昭和 58年	教育学部附属光小学校 自転車置場設置		1	6	近世～近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦 試掘			年報 Ⅹ
昭和 59年	教育学部附属光小・中学校 便所跡の新設		2				立会		年報 Ⅺ
昭和 60年	教育学部附属光中学校 外灯改修		3	1		土師器	〃		年報 Ⅻ
昭和 61年	教育学部附属光小学校創立 記念事業(プロンズ像建立)		4	2.5		土師器、須恵器	〃		年報 Ⅼ
昭和 62年	教育学部附属光中学校 グラウンド防球ネット設置		5	2		弥生土器、土師器、 瓦質土器、瓦 土師質土器、瓦	〃	御手洗浜採集	年報 Ⅽ
昭和 63年	教育学部附属光小学校 遊器具移設		6	10		土師器、土師質土器、 陶磁器	〃		
	教育学部附属光小学校 屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、 須恵器、瓦器、 瓦質土器、陶磁器、 土埴	〃	御手洗浜採集	年報 Ⅾ
平成 2年	教育学部附属光小学校 運動場改修		8	15		縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 施釉陶器、磁器、 土埴、片口、瓶、 片口、瓶	試掘	御手洗浜採集 遺物含む	年報 Ⅹ
	教育学部附属光小学校 運動場改修		9	23	土壤	土師器、須恵器、 須恵器模倣土器	事前		
平成 3年	教育学部附属光中学校 武道館新設		10	38	土壤、溝状遺構	土師器、磁器、陶器	試掘		年報 X I
	教育学部附属光小学校 屋外施設設置		11	18		土師器、石鍤	立会		
	教育学部附属光中学校 バックネット新設		12	0.5		土師器	〃		年報 X I
平成 4年	教育学部附属光中学校 武道館新設		13	500	土壤、柱穴	縄文土器、須恵器、 土師器、瓦器	事前		年報 X II
	教育学部附属光中学校 武道館地盤調査		14				立会		
平成 5年	教育学部附属光中学校 武道館新設その他		15	6			〃		年報 X III
平成 6年	教育医学部附属光小・中学校 ゴール新設給排水管理設		16	19			〃		年報 X IV
平成 8年	教育学部附属光小・中学校 護岸(外周)フェンス・防球ネット取設		17	7		陶磁器	〃		年報 X VI
平成 10年	教育学部附属光小・中学校 給食室改修		18	6			〃		
平成 11年	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		19	132	古墳包含層、柱穴、 近世～近代土壤	土師器、須恵器、 縦式系土器、電形土器、陶器、磁器	試掘 立会		
平成 12年	教育学部附属光小・中学校 護岸石積改修		20		石垣	陶磁器	立会		
	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		21				〃		
平成 15年	教育学部附属光小学校エレベータ 昇降路等新設		22	169	ピット、土壤、溝	縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器、磁器、石器	試掘 立会		年報 I
平成 17年	教育学部附属光小学校 体育器具庫新設		23	53		土師器、須恵器 磁器陶	予備		年報 3
	教育学部附属光小・中学校護岸改修		24	40	石垣	陶磁器	立会		
平成 21年	教育学部附属光中学校校舎改修工事 に伴うプレート建設		25	107	ピット、土壤	須恵器	本		年報 7
平成 22年	教育学部附属光中学校 防球ネット設備		26	225			立会		年報 8
平成 23年	教育学部附属光中学校 下水道接続工事		27	1			立会		
	教育学部附属光小学校道具設置工事		28	19.4		土師器、須恵器、陶磁器	予備		年報 9
	教育学部附属光小学校道具設置工事		29	20			立会		

その他構内

調査年度	調査名	構内地区割	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和59年	学生部ボート競艇庫 合宿研修所整備	宇部市大字小野 宇土井	0.5			立会		年報IV
	学生部ヨット競艇庫 合宿研修所整備	吉敷郡秋穂町 東字中道				#		
昭和60年	熊野荘給湯機器取扱	山口市熊野町3-21	7			#		年報V
	湯田宿舎水管改修	山口市湯田温泉 6丁目8-29	35	杭		#		
昭和61年	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市姫通り 2丁目3-32 山口市 水の上町6-9	1 7		土師質土器 瓦	# #	6号宿舎 2号宿舎	年報VI
	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市白石 二丁目8-7	1		須恵器、土師器、 土師質土器、 瓦質土器、陶磁器	#	7号宿舎採集	
平成元年	本部職員宿舎 公共下水道切替	山口市水の上町 6-1	1			#	1号宿舎	年報IX
平成2年	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市石鶴音町 1-25	1.2		陶磁器	#	7号宿舎	年報X
	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市香山町 3-1	0.5			#	3号宿舎	
平成3年	湯田宿舎A棟給配水 その他改修	山口市湯田温泉 6丁目	30			#		年報XI
	経済学部6号職員宿舎 通柱設置	山口市姫通り 2丁目3-32	0.5			#		
平成4年	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市天花 932-2	1			#		
平成4年	上塙小路共同下水管布設	山口市上塙小路 宇久保7-4	7			#		年報XII
平成6年	湯田宿舎公共下水道接続 及び排水施設改修	山口市湯田温泉 6丁目8-29	44			#		年報XIV
平成13年	ボート部合宿所排水整備	宇部市大字小野 宇土井	80			確認		年報1
平成16年	湯田宿舎B棟自転車置場新設	山口市湯田温泉 6丁目8-29	11			確認		年報2
平成17年	経済学部職員宿舎2号フエンス取替	山口市水の上町6-9	1			確認		年報3
平成21年	工芸部職員宿舎(尾山) 排水施設改修	平島市上野牛町 1-33-34	15			確認		年報7
平成21年	秋穂団地(ヨット競艇庫)浄化槽改修	山口市秋穂東706-2	4.5			#		

※文献① 山口市吉田遺跡調査団『吉田遺跡発掘調査概報』(山口大学、1976年)

※昭和41年以降、吉田構内においては、工事に際し随時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査団の関与した調査については、調査名をすべて把握しているわけではなく注意が必要である。

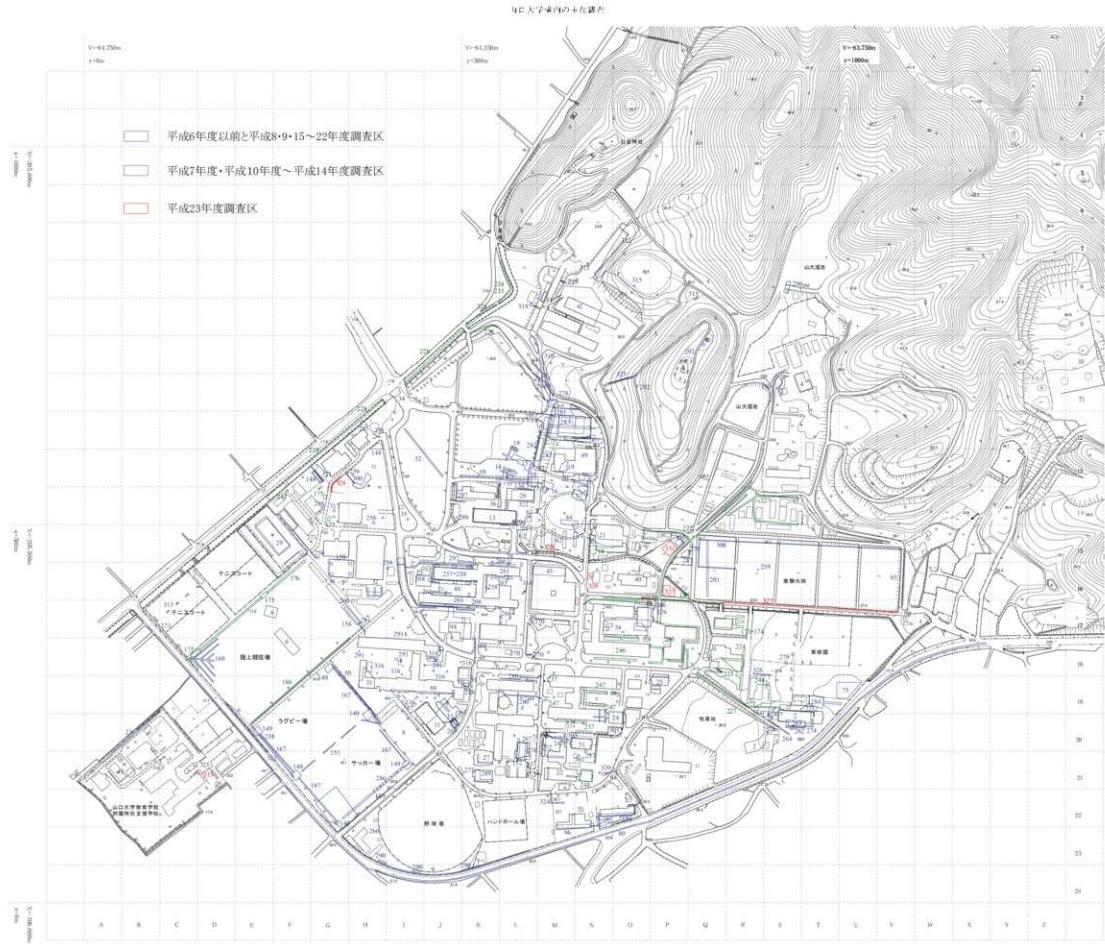


図32 山口大学吉田構内地区割および主な調査区位置図

山口大学白石構内（幼稚園・小学校）

- 平成6年度以前・平成15～17年度・平成21・22年度調査区
- 平成10年度・平成14年度調査区
- 平成23年度調査区

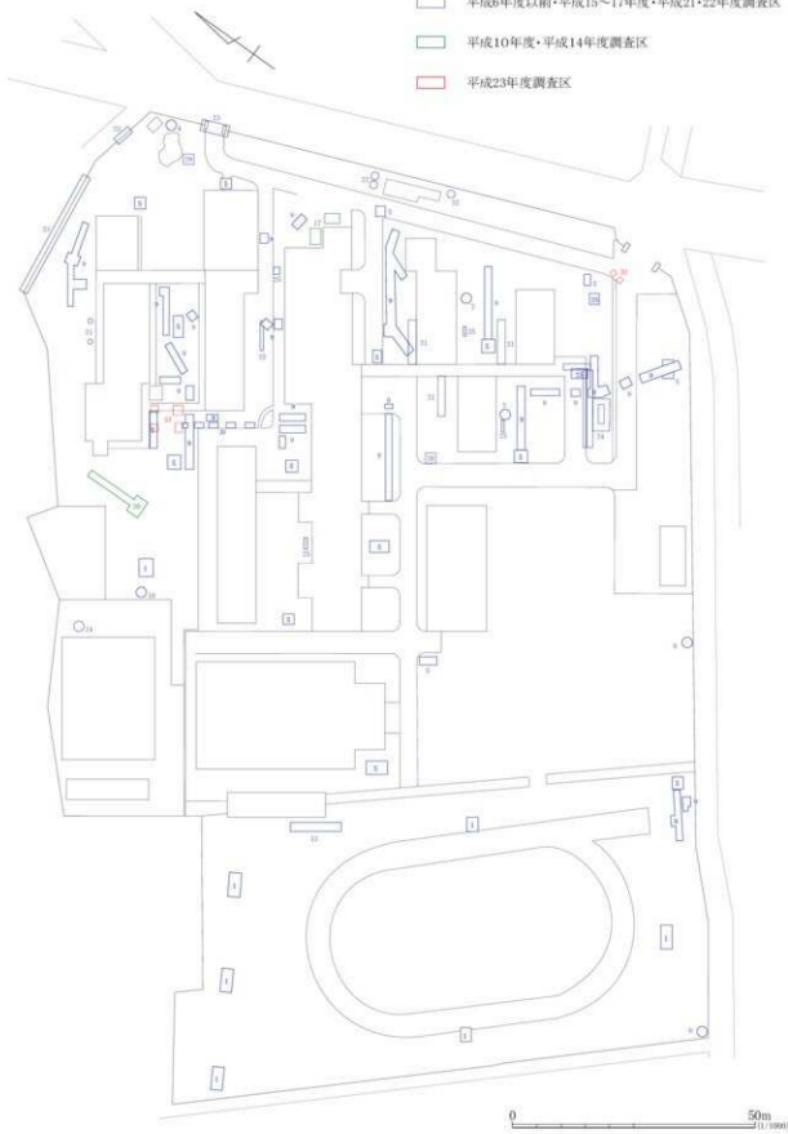


図33 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

山口大学白石構内（中学校）調査区位置図

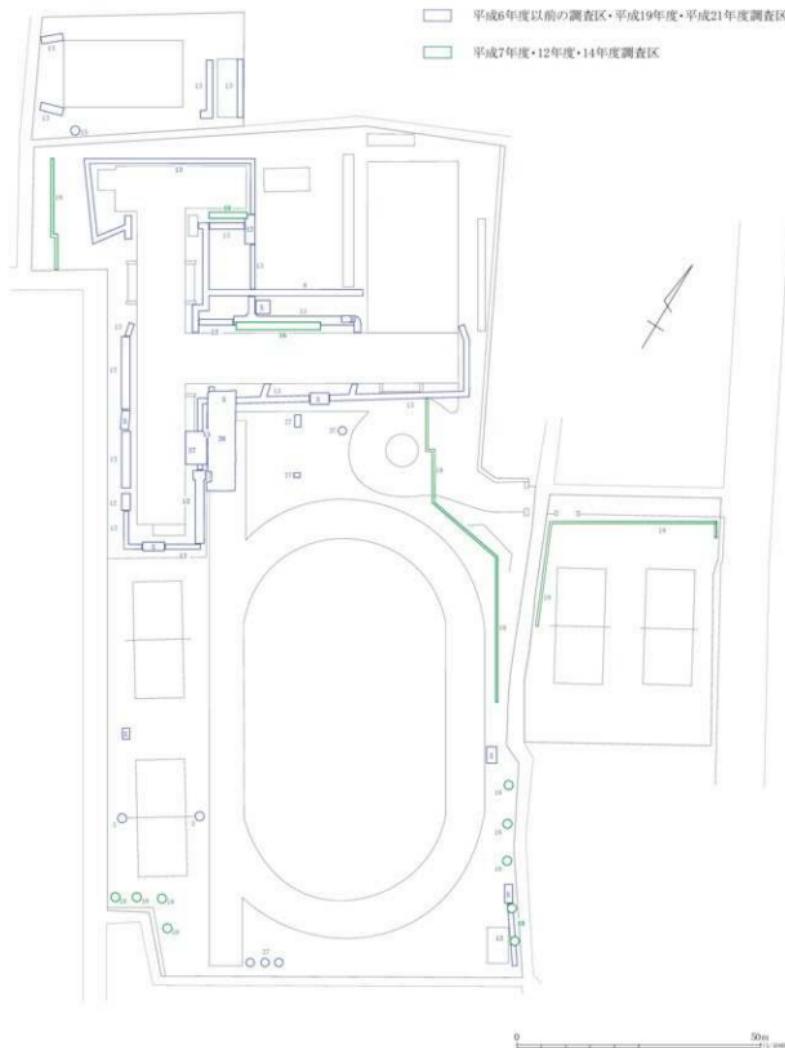


図34 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図



図35 山口大学小串構内調査区位置図

山口大学構内における調査区

赤線：構内旧境界線
黒線：構内境界線

白地図：平成6年度以前と平成8・9・15～21年度調査区

緑地図：平成7年度・平成10年度～平成14年度調査区



図36 山口大学常盤構内調査区位置図

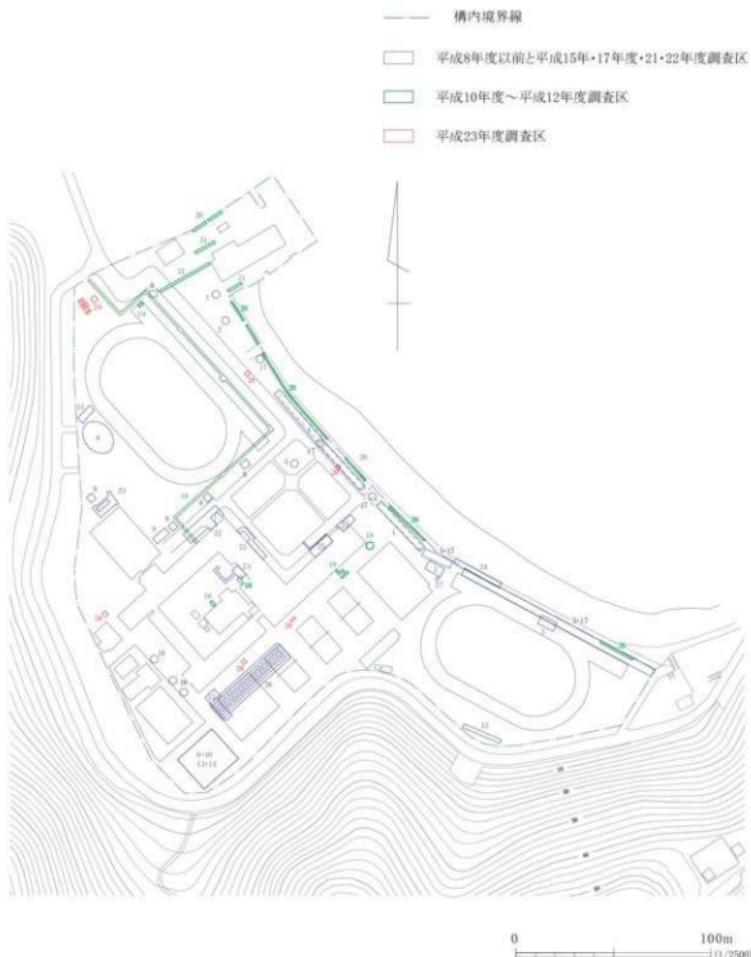


図 37 山口大学構内調査区位置図

第2章 平成23年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)設置以降、山口大学構内が所在する遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開・また埋蔵文化財・考古学にかかる教育活動を行っている。具体的には、展示・情報公開活動として、当館展示室において年度中3回前後の企画展示を行うこと、各種メディアを用いて遺跡及び収蔵資料の情報を公開すること、教育活動としては年度中1回の市民対象公開授業を開催すること、そして出張展示やワークショップの開催、講演会等での講師派遣など学内外の要望に応じた地域連携・生涯学習支援活動を実施することである。

平成23年度は、展示・情報公開活動として、第31・32回となる企画展を開催した。また、平成22年度に開始した山口県大学博物館連携事業を発展形消させ、新たに山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業を開始した。その他、年報はじめ各種刊行物により情報公開を行った。社会教育活動に際しては、農学部附属農場との共催により第11回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう6－』を開催した。

当年度は新たな取り組みとして展示活動では山口県大学ML連携事業を開始させることができた。情報公開活動として平成22年度より開始した「館蔵資料調査報告書」刊行を継続して実施した。施設面では、昭和52年(1977)に建設された当館に初の大規模改修(身障者用スロープ設置・バリアフリートイレ化・外壁再塗装・屋上防水シートの張り替え等)が行われた。そのため、展示室を約6週間閉鎖することとなり、総入館者数は1,473人(前年度比約14%減)と減少した(表6-7)が、次年度以降来館者がより快適に当館を利用する環境を整備できたことは大きな成果と言える。以下に平成23年度に実施した展示・情報公開活動、社会教育活動の概要を報告する。

表6 埋蔵文化財資料館利用者の推移

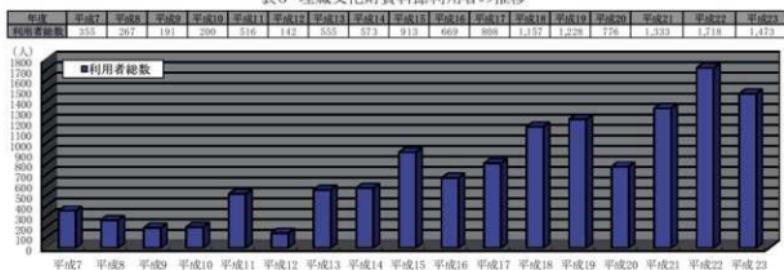
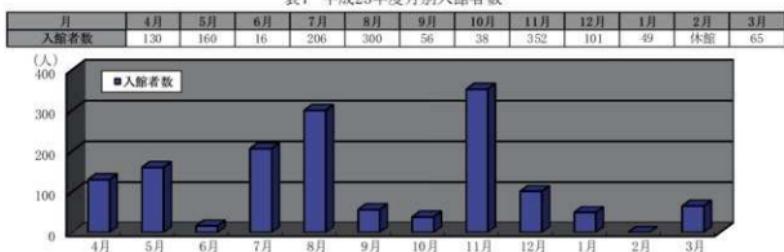


表7 平成23年度月別入館者数



第1節 資料館における展示・情報公開活動

1. 第31回企画展『遺跡に行こう！～家族で楽しむ遺跡公園～』を開催

平成23年度は、山口市内に所在する「遺跡公園」にスポットを当て、企画展を開催した（開催期間：平成23年6月27日（月）～10月7日（金））。対象とした遺跡公園は、①吉田遺跡（山口大学吉田構内遺跡遺跡保存地）×2箇所（山口市吉田所在）、②犬神山古墳公園（山口市吉敷佐畠所在）、③丸山遺跡「弥生の家」（山口市仁保下郷所在）、④大内氏館跡（山口市大般大路所在）、⑤朝山墳墓群（山口市朝山所在）の5箇所である。

本学では、昭和41年（1966）に始まる山口市吉田地区統合移転工事に際し、移転予定地に弥生時代を筆頭に各時代の遺構・遺物が埋存されることが明らかとなり、学長を団長とする「山口大学吉田遺跡調査団」が結成され、小野忠照氏を中心に緊急発掘調査が実施されることとなった。緊急発掘調査は各学部校舎等の建設と並行して実施され、大多数の遺跡情報が「記録保存」という形で残される結果となつたが、全学的な議論の下、学術的に極めて重要と考えられる第1学生食堂横の地区について「遺跡保存地区」という名称で地下に現状保存することが決定され、その後長い年月をかけて「遺跡公園化」を図った経緯がある。今回は、本学遺跡保存地区に合わせ近隣の遺跡公園を素材とし、発掘調査の経緯が異なり、開発主体や地域住民の意識も異なる環境下で、どのように遺跡保存への意識が高まり、公園化され、現在どのように活用されているのかを考察し、解説パネル化すると同時に、実際に現地で見学いただくため、遺跡公園へのルートマップを配付した。また、当館が所蔵する吉田遺跡出土品以外に関しては、②～④遺跡の出土品および④に関連して宮御膳献立復元の食品サンプルを山口市教育委員会より、⑤遺跡の出土品を（財）山口県埋蔵文化財センターより借用して実物展示を行った。

展示を見学いただいた方々からの反響は大きく、実際に遺跡公園の探訪に挑戦した方から電話にて「遺跡が見つかりません。どこにあるのでしょうか？」という問い合わせや、「せっかくの貴重な遺跡公園の現状がひどい。もっと有効活用すべきではないでしょうか」という声も多数聞かされた。

本学および山口市に限らず、全国的にも整備後の遺跡の保存・活用には課題が山積されていると聞く。容易に正解の得られない問題と思うが、この様な機会を通じ、学内外に問い合わせができたことは一つの成果と言えるであろう。



写真 53 第31回企画展ポスター



写真 54 展示の模様

2. 第32回企画展『でた！～山口大学発掘調査速報展2011～』を開催

当館は、数年に1度の間隔で発掘調査速報展を開催している。前年度末に計画した平成23年度展示計画では、平成23年度上半期実施予定の発掘調査により出土した資料を主として展示する予定であったが、埋蔵文化財保護の視点からは幸運なことに開発計画の変更により発掘調査が中止となる案件が出たため、展示スペースの半分（オープン展示スペース）を「発掘調査の方法」を紹介するコーナーとし、展示ケース内にて平成21年度冬から平成23年度秋までに実施した構内遺跡の発掘調査成果を公開した（開催期間：平成23年11月5日（土）～平成24年1月27日（金））。

発掘調査速報展の構成は、①平成22年度に2度実施した山口大学医学部構内遺跡の予備発掘調査成果（昨年度刊行「年報8」所収）、②平成23年度に実施した吉田遺跡の本発掘調査成果（本書所収）、③平成21年度に実施した古田遺跡の立会調査成果（昨年度刊行「年報7」所収）、④平成20年度から23年度にかけて行った内業調査で得られた成果の4部構成とした。

当館では、現地における発掘調査から内業調査を経て発掘調査概報（年報）刊行まで約3年の歳月が必要となっており、必然的に発掘調査速報展では出土品調査および遺跡の評価が不十分なまま資料を公開しなくてはならなくなる。本学教職員および学生への「速報性」を重視しての事業実施であるが、今回は新たな視点として「工事立会の意義」と「現地調査で見落とされる遺跡情報」を展示内容に取り入れたことにより、当館の埋蔵文化財保護業務を多岐にわたり紹介することができたと感じている。

本展示は約3ヶ月の開催期間中、500名を越える方々に観覧いただいた。アンケート回収率も約9%と通常の回収率を大きく上回り、当展示への关心の高さが伺えた。「最も印象に残った展示物」への回答は、④コーナーで展示了した、「墨書き安」が記された須恵器が他を圧倒しており、展示意图が上手く伝わっているようであった。また、発掘調査や遺物の整理作業を体験してみたいとの声も複数届けられた。

諸処の事情により、当館では毎年発掘調査速報展を開催することは困難であるが、今後も開催時には「新たな視点」や「新たな手法」を意識した展示の構成を行いたい。

【評】

- 1) 近年では、平成18年度開催「吉田遺跡発掘調査速報展2006」、平成21年開催「七の町からコンニチワ～山口大学発掘調査速報展2009～」などがこれに該当する。



写真 55 第32回企画展ポスター



写真 56 展示の模様

3. 山口県大学ML連携企画巡回展『風化させない記憶への一歩～自然とともに～』

山口大学会場を開催

平成22年度、当館は梅光学院大学博物館（山口県下関市所在）との連携により大学博物館連携第1弾 交流展『EXCHANGE! 山口大学埋蔵文化財資料館×梅光学院大学博物館』を開催した。具体的な事業としては、構内遺跡を中心とした当館収蔵品を梅光学院大学博物館にて、大学史資料を中心とした梅光学院大学博物館収蔵品を当館にて展示するというものであったが、初の試みということもあり試行錯誤を繰り返しながらなんとか無事に事業を完了することができた。

展示終了後、梅光学院大学博物館と次年度事業の打ち合わせを複数回行ったが、館種の違いからテーマを共通とする連携展示の開催が困難であること、さらには当県において博物館施設を有する大学が本学と梅光学院大学だけであり、今後の事業発展ビジョンが描けないことなど問題点が表出した。

そのような状況下の平成23年(2011)3月11日、未曾有の地震災害が東日本を襲い、当館は梅光学院大学博物館とともに、山口県の大学博物館ができる支援は何かを考えることになった。その結果、東日本から遠く離れた本州最西端に身を置く我々にできることは限られるが、思い続けることはできるという共通意識が生じ、東日本大震災を西日本においても「過去の記憶」としないため、「人と自然との共生」を共通テーマに各館のグランド・イメージにもとづく展示活動を実施することとなった。

また、県央部に所在する当館と県西部に所在する梅光学院大学だけでなく、県内広域に活動を広げるため、本学図書館と梅光学院大学図書館も主催に加わり「山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業」が組織され、山口県大学図書館協議会の協力の下、半年をかけて県東部、県西部を含む県内4大学を巡回する展示事業が企画された。

展示タイトルは『風化させない記憶への一歩～自然とともに～』に決定した。各館の展示に関しては当館が『海と生きる～遺跡出土遺物に見る海の恵み～』、山口大学図書館が『災害の歴史と防災』、梅光学院大学博物館が『藤山一雄の〈周東のビヨコ〉～明日を生きる～』、梅光学院大学図書館が『宮澤賢治～雨ニモマケズ～』というタイトルで実施することに決定した。

その他、事業準備過程で梅光学院大学東北ボランティア実行委員会の被災地でのボランティア活動報告も展示に加えられることとなり、さらに被災地への募金活動や被災者へのメッセージ・ジボードの設置な



写真 57 展示ポスター



写真 58 山口大学会場（埋蔵文化財資料館）の模様

どが付加されていった。

展示の巡回開始は東日本大震災1年後の平成24年(2012)3月11日に決定され、結果として年度をまたぐ事業となつた。以下にその巡回スケジュールを記載する。

巡回スケジュール

・山口大学会場	平成24年(2012)3月11日(日)～4月27日(金)
・梅光学院大学会場	平成24年(2012)年5月11日(金)～6月26日(火)
・徳山大学会場	平成24年(2012)年7月2日(月)～8月10日(金)
・山口福祉文化大学会場	平成24年(2012)年10月1日(月)～11月9日(金)

3月11日にオープンした山口大学会場では、展示スペースの問題から、当館展示室と図書館1階ロビーの2箇所を会場とした。当館と梅光学院大学博物館、梅光学院大学図書館が前者を会場とし、本学図書館と梅光学院大学東北ボランティア実行委員会が後者を会場とした。

当館は博物館施設ではあるが、収蔵品は埋蔵文化財(考古資料)に特化している。埋蔵文化財は過去の人類生活に直結する資料と言えるため、何れの資料を素材としても「自然との共生」という共通テーマに関連づけることは可能と考えられたが、このたびの震災被害の大きな要因が巨大津波であることを鑑み、海をテーマに展示を構成することにした。長らく島国である日本列島においては、たび重なる海の脅威に直面しながらも、人類はその恵みを受け継ぎ、生命を繋いできた。今回の震災被害に対しても、「防災」という意識を疎かにしてはいけないが、再び人類が海と共生できるよう、『海と生きる～遺跡出土品に見る海の恵み～』と題し、当県沿岸部の上器製塩関連資料と蠣漁関連資料の展示を行った。

全体的な展示構成に関しては、図書館会場では梅光学院大学ボランティア実行委員会が被災地で行った活動の報告パネル展示と、本学図書館の山口の災害史と本学における防災研究解説展示が連携していたため、観覧者から高評を得たが、埋蔵文化財資料館会場では展示室左手に梅光学院大学博物館による大正期の旧教諭、藤山一雄氏の敗戦・復興関連の資料および解説展示、右手に梅光学院大学図書館による宮澤賢治「雨ニモマケズ」の紹介と解説展示、奥手に当館の海関連考古資料の展示となつたため、観覧者からは「コンセプトが伝わりづらい」との指摘を多數受けた。

一方で観覧者からは「応援すれば済まされる問題ではない。なるべく具体的な支援ができればと思う」(女子大学生:福岡県)「春にボランティアに行く予定」(一般女性:東京都)「震災を忘れない。自分の身に起こったときに生かす」(男子高校生:徳島県)「このような貴重な展示をありがとうございます。復興に向けて頑張っていきます」(一般男性:宮城県)など、展示主旨に対する様々な声が聞かれた。

山口大学会場以降の事業報告および総括に関しては、次年度年報に掲載する予定である。



写真 59・60 山口大学会場 (図書館) の模様



写真 61 設置した募金箱と缶バッヂ

4. 平成23年度刊行物

1.『山口大学埋蔵分解資料館年報－平成20年度－』を刊行

平成23年度は、平成20年度に実施した構内遺跡発掘調査概報と資料館活動報告を所収した年報を刊行した。発掘調査関係としては本発掘調査3件(吉田)、予備発掘調査4件(吉田・小串・常盤)、工事立会4件(吉田1・白石1)の成果が掲載されている。件数こそ少ないが、主として本発掘調査において遺構・遺物が密に確認されたこともあり、構内遺跡発掘調査概報部分だけで220頁を超えるボリュームとなつた。

館の活動報告としては、展示・公開活動として10件の企画展示等事業と、3件の社会教育活動を報告している。その他、館員田畠による「周防西部・東部における弥生時代後期から古墳時代初頭の土器編年」と題する付録を所収している。

2. 館蔵資料調査研究報告書2『見島ジーコンボ古墳群 第151号墳出土資料調査報告』を刊行

平成22年度に開始した事業であるが、引き続き、見島ジーコンボ古墳群の出土資料調査及び報告書の刊行を実施した。

平成23年度は、当館において鎧帶や耳環などの装身具とともに、鉄刀や刀装具、鉄鏃など武器類、刀子など工具類が収蔵されている第151号墳を調査対象とした。萩博物館収蔵品の調査は平成23年(2011)12月1日～22日にかけて館員横山・松浦・乃美が実施し、当館所蔵品と合わせ報告を行つたが、調査過程において当館バックヤードより『見島総合学術調査報告』(1964)に掲載された見島ジーコンボ古墳群石室図のトレース原図が発見され、可能性は指摘されるものの確信を得るに至らなかつたガラス小片1点が第154号墳出土品と認定されたため、付録に捕獲として報告した。その他、第151号墳出土人骨に関し、上井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸・松下貞実両氏に玉稿を賜つた。

3. 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第22号『てらこや埋文』を刊行

平成18年(2005)より刊行している季刊広報誌である。平成23年度は、平成20年度の年報作成で多忙であったため、「春夏秋冬特大号」と称し、年度末に頁数を倍増して刊行した。トップページには当館リニューアル記事を掲載し、当館の活動報告の他、「山口県内の博物館」コーナーにておおすみ歴史美術館(山口市湯田温泉所在; 平成25年(2013)4月7日をもって閉館)を紹介した。また、2年間の任期を終えて退任する嶽瀬厚館長(現:木学理事・教育学生担当副学長)のインタビュー記事を掲載した。



写真 62 平成 23 年度埋蔵文化財資料館刊行物

第2節 資料館における社会教育活動

1. 第11回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう6－』を開催はじめに

当館では、平成13年度より、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、公開授業を開催している。

第11回となる平成23年度の公開授業は、昨年度に引き続き、日本のお米のルーツとされる赤米をつくり、土器で炊いて食べてみるという内容である。今回も埋蔵文化財資料館と山口大学農学部との共催で、吉田構内の山口大学農学部附属農場にて延べ4回行い、小学生～高校生5名、教育学部学生4名、一般19名、合計28名の皆様に参加していただいた。以下、授業内容を報告する。

6月18日(土)－田植え－

今回栽培した品種は、昨年と同じ「紅吉兆」(糯米)である。当日は、事前に農学部の長砂技術専門職員に代かきをしていただいた水田に23名で田植えを行った。今回も、田植えを初めて体験する参加者が多かったが、声を掛け合いながら少しずつ移動し、無事に終了することができた。

7月30日(土)－稲の観察と土器づくり－

猛暑の中、長砂技術専門職員から水田に生える雑草や稲とヒエの違いなどを学習した。この後土器づくりに挑戦し、壺や皿など、参加者各々が古代をイメージした個性的な土器ができた。

10月22日(土)－土器焼成・収穫－

本来は10月2日(日)に開催予定であったが、稲の生長が大幅に遅れたため、1週間延期した。最終的に稲は長さ約70～80cmにまで生長した。今回は水田がぬかるんでいたため、参加者による収穫は水田の一部について、模造した石庖丁などを使った穂摘みにとどめ、その後の根刈り・はげ架けは附属農場が行った。収穫後、前回つくった土器の焼成を「覆い焼き」で行うため、埋蔵文化財資料館横の空閑地で泥窯づくりに挑戦し、点火した。翌日の午後には土器をほぼ削れることなく焼成することができた。

11月12日(土)－脱穀・糊入り、赤米を食べる－

午前中は箸こぎ、臼と杵による粉切り、てみとザルによる選別を体験した。昼食時の赤米の試食にあたっては、今回も上器による炊飯のほか、模造した古墳時代の瓶(こしき)と甕(かめ)、壺(かまと)形土器によって赤米を蒸すことに挑戦した。いずれの赤米も虜ごたえがあるものの美味しく甘みがあった。このほか、おかげには朴葉焼や、豚汁、あさりのすまし汁をつくったが、これらも美味しく好評であった。

公開授業を終えて

今回の公開授業は農学部附属農場で4回目の開催となったが、気候等の影響により稲の生長が大幅に遅れ、改めて稲の栽培の難しさを痛感した。昨年に引き続き、稲の生長や雑草の解説、土器づくりなど埋蔵文化財資料館と農学部附属農場の特色を生かした体験メニューを準備し、大学ならではの公開授業を実施することができた。参加者からは「授業をうけられて楽しかったです(小学生)」「食べられるとのありがたさがよくわかりました(一般)」などの声が寄せられ、好評であった。

今年度も、参加者には米づくりの歴史や大変さを実際の体験を通して学んでいただくことができ、公開授業の目的を達成することができたと感じている。全4回の公開授業を盛況のうちに無事終了することができたことを館員一同心より御礼申し上げたい。



写真63 館長挨拶（6月18日）



写真64 苗の説明（6月18日）



写真65 田植え（6月18日）



写真66 稲の説明（7月30日）



写真67 土器づくりの説明（7月30日）



写真68 土器づくり（7月30日）



写真69 稲の状況（9月13日）



写真70 稲の収穫（10月22日）



写真71 泥窯づくり（10月22日）



写真72 焼成後の土器（10月23日）



写真73 箕による選別（11月12日）



写真74 木葉焼（11月12日）



写真75 昼食メニュー（11月12日）



写真76 食事風景（11月12日）

【註】

1)10月22日に掲げる『てらこや理義』2012春夏秋冬特入号の記載は誤っていたので、お詫びして訂正する。

付篇1

山口市秋穂筈倉古墳の出土遺物

横山 成己

1. 資料の由来(写真77・78)

筆者は当館に着任以降、所蔵される主として山口県内遺跡の未公開資料を断続的に公開しているが、本稿では山口市秋穂に所在した筈倉古墳にて発掘調査され、本学に所蔵された資料を報告する。

筈倉古墳は、山口市秋穂筈倉山の北西斜面(標高15m)に所在した。筈倉古墳の調査に関しては、小野忠熙と松田治登の報告によりその概要を知ることができ(小野1967・松山1982)。調査経緯を見ると、昭和37年(1962)7月20日、農業構造改善事業によるみかん園の開墾作業中に発見され、秋穂町教育委員会からの依頼により同年7月14日から15日にかけて本学助教授である小野忠熙(現:名誉教授)と本学学生により緊急発掘調査が実施されたようである。

出土遺物に関しては、小野報告では「疊床面から金環各1個、鉄刀、刀子、鐵鎌の断片若干を、また側石に接して、焼成不良な須恵器の高杯1個を検出した。なお石室を充填していた埋積土の中から土器2個体分を採集し」、松山報告では「金メカされた耳環と高杯・玉類などが検出」とされている。

この内、須恵器高杯と耳環、玉類は秋穂町に収蔵され、松田報告に図示されることとなり(図42)、瓦質土器足鍋(小野報告では「土鼎」と表記)1点とともに旧秋穂町に収蔵されていたそうであるが、これとは別に本学にも出土資料の一部が収蔵された。当館設立後にコンテナNO.48袋NO.16に収蔵された耳環1点、コンテナNO.48袋NO.17に収蔵された耳環1点、コンテナNO.93袋NO.41に収蔵された鉄器類、コンテナNO.48袋NO.15に収蔵された瓦質土器足鍋1個体分である。平成25年度に大学情報機構長裁量経費の予算配分を受け、本学所蔵学術資産維持事業の一環として出土金属器類の保存処理および成分分析事業を実施した。本稿は事業成果報告を兼ねるものである。



図38 遺跡位置図



写真77 耳環保存処理前



写真78 鉄器保存処理前

2. 遺跡の立地、現況と石室構造(図38・39、写真79~81)

遺跡は、秋穂半島南端部に聳える草山(標高約110m)の北西丘陵部に位置する。古墳が立地したとされる標高10m~20mコンターラインは草山北方の丘陵地に続くため、古墳築造当時の草山も本州と連絡していたことが分かる。山口県における瀬戸内沿岸丘陵部の古墳は海側(南方)に面して築造される事例が散見されるが、草山の南側丘陵は急峻で古墳築造には適さない。当墳は古墳の北側に位置する児川湾沿岸を意識して築かれたものと思われる。松田報告でも石室の主軸は「N-120°-W」とされており、これを裏付ける。平成26年(2014)2月8日に実地調査を実施したが、発見原因となったみかん園はすでに廃園しており、古墳の痕跡も確認することはできなかった。

小野報告と松田報告から古墳の状況を確認すると、発見時古墳の封土上部はほぼ失われており、石室も基底部付近を残し完全に破壊されていたようである。写真で見る限りは石室石材は主として花崗岩が使用されている。秋穂半島は古くより良質な花崗岩産出地であり、地元石材を使用したものと思われる。奥壁と奥壁側側壁第1石は長さ約2m程度の切石が用いられ、開口部側側壁は高さを揃えるため幅を均等にした切石も用いられており、精巧なつくりであったことが見て取れる。

玄室床面は「径10~24cmばかりの浜の小石を敷いた疊床」(小野報告)、「大小さまざまな礫が敷かれているが、部分的になくなっているところもある」(松田報告)とされ、写真や平面図からも疊床であったことは確実である。石室平面図に見られる疊床は石室西北部に設置された石列部で途切れていることから、この右列を框枠として玄門と見なし、無袖单室構造の横穴式石室と判断したいところであるが、小野は「内部主体の構造は横穴式石室と異なり、厚さ36~48cmばかりの自然石と割石3個を縦に使ってコの字形に囲み、不足の部分や入口に当る個所には大の自然石や割石を置いて方形に近い長方形(約2.1m×1.7m)にめぐらし、一見組合式箱式石棺を大きくしたような構造を呈している」と私見を述べている。松田も「玄室部と羨道部にあたると思われるところは、比較的小型の花崗岩自然石と割石が用いられているが、動かされた可能性が強く、II状のままかどうか疑わしい」と述べるに留めている。石室の埋積土中からほぼ完形に復元される瓦質上器足錆が2個体出土していることからも、本墳は室町期以降に野営施設や作業小屋として再利用された可能性が指摘され、限られた情報からの石室構造に関するこれ以上の考察は無意味と言える。

3. 山口大学埋蔵文化財資料館所蔵筈倉古墳出土遺物(図40・41、写真82~86、表8・9)

当館には、筈倉古墳出土品として耳環2点と鉄器片52点、瓦質土器足錆1個体分が所蔵される。平成25年度に金属器類の保存処理および耳環2点の成分分析業務を、株式会社吉田生物研究所に委託した。成分分析に関しては本書付篇2にて詳細を確認いただくこととして、本稿では資料の概要を報告する。なお、出土資料は全てに略号(HK=HIAZUKURA)下に通番を付して収蔵している。

【装身具】

HK1は銅地金貼り耳環、砒素を含む銅芯に銀と銅をわずかに含む薄い金板が巻かれており、木口接面に金板の疊み込みが観察される(付篇2写真89)。直径は2.3~2.4cmで、重量は5.27g。山口市(旧秋穂町)所蔵の耳環(図42)とセット関係にある可能性が高い。HK2は銅地銀貼り耳環。砒素や少量の鉛が含有される銅芯に銀の薄板が巻かれ、表面に少量の金を含む鍍銀が施されている。HK1同様、木口接面に銀板の疊み込みが観察される(付篇2写真90)。直径は2.6~2.9cm、重量は13.64g。

【工具】

HK3は鉄製刀子。両刃づくりで、刃部の一部と切先、茎端部を欠失する。茎部には部分的に木質が

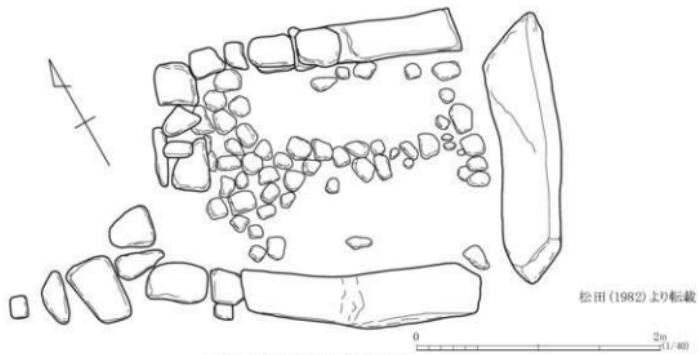


図 39 答倉古墳石室平面図



松田(1982)より転載

写真 79 発掘調査時の答倉古墳石室（西から）



写真 80 遺跡地遠景（西から）



写真 81 遺跡地近景（西から）

道存する。HK4も鉄製刀子の刃部片。茎部と切先を欠失する。

【武具】

HK5は尖根系長頭式鉄鎌と見られ、頭部上位と鍔身を欠失する。頭茎の境界は両側づくり。残存長7.6cmを測る。HK6・7・8は鉄畿莖部片と見られる。断面形態は長方形または台形を呈する。HK9・10は鉄畿頭部もしくは莖部片と推定されるが、判別できない。HK11は鉄畿莖端部片。HK12は剥離が激しいものの鉄畿莖部片の可能性を残す。

HK13～18は鉄刀の断片である。接合状態が悪く、個体数の把握は困難である。HK13・14・16は表面の剥離等劣化が比較的少ない資料であり、背に原面を残している。HK17は片面に木質が残っている。

HK19～46は鉄片で、いずれも鉄刀、刀子、鉄畿の剥離片と見られる。HK20は背と見られる原面が残ることから、刀子の断片と推定される。HK38は表面にわずかに木質が遺存する。

HK47は鞘もしくは柄の責金具と見られ、内面に木質を残している。長径1.8cm以上、短径2.2cmを測る。HK48は鉗状に曲がる鉄片であり、刀装具(鞘尻や柄頭等)の一種である可能性が残る。

これら鉄器類の総重量は207.15gを量る。

【土器】

当館に収蔵される管倉古墳Ⅲ土上器資料は、HK49瓦質土器足鍋が唯一のものである。脚部は端部を屈曲させず、口縁は屈曲気味に外傾させ、端部内面に肥厚帯を貼り付けている。口縁外側調整はヨコハケ後ナデ、内面上位はヨコハケ、下位はヨコナダを施す。体部外側は全体にナデ調整を施すが、下位に格子タタキが残っている。体部内面はヨコハケ、下位にはタテハケも施す。ゆがみが大きい個体であるが口径はおよそ25.5cmに復元される。器高は22.6cmを測る。岩崎仁志氏の分類ではVB式に、編年案では16世紀後半に比定される(岩崎1999)。

4. 山口市(旧秋穂町)所蔵管倉古墳出土遺物(図12)

災物は現在所在不明であり、松田報告に掲載された遺物災洞図と『中津原遺跡』(大村・福本2000)に掲載された須恵器高环カラー写真に頼るほかない状況である。

松田報告に図示された資料は、須恵器高环1点、耳環1点、玉類8点である。須恵器高环は唯一古墳の所属時期を推定しうる資料である。図によると口径11.5cm程度、残存高は口縁下に14cm弱と見られる。脚裾部は欠失する。図示されていないが、カラー写真を見ると脚柱中位下方に3条程の凹線が巡っており、环部外側には环底と口縁との境界部に明瞭に凹線が巡っている。スカシが消失しているものの、未だ長脚を残していることから、所属時期は7世紀前半から中頃を想定したい。耳環1点に関しては、小野報告と松田報告から銅地金貼り耳環と想像される。前述したが、HK1と対になる可能性が高い。玉類8点はガラス小玉であろうか。具体的な記述がないため素材等不明である。

5. 小結

管倉古墳は、県央部にて瀬戸内に南流する佐波川と権野川にはさまれた沿岸地帯、旧秋穂町に所在した終末期古墳である。当該地での遺跡調査例は少なく、当墳の有する学術的価値は極めて高い。

権野川河口広域の終末期古墳の状況を概観すると、権野川右岸に関しては、南方の宇部市北部から川阿知須町沿岸部までは複室構造の横穴式石室墳が顕著に分布し(豊1968、富1977・1978)、河口部では單室構造の横穴式石室墳と混在する様相を見せる(豊1998、山本ほか1999)。一方で旧秋穂町を含む権野川左岸域に分布する終末期古墳はいずれも単室構造の横穴式石室墳であり(富

山口県萩市吉良古墳出土金屬器

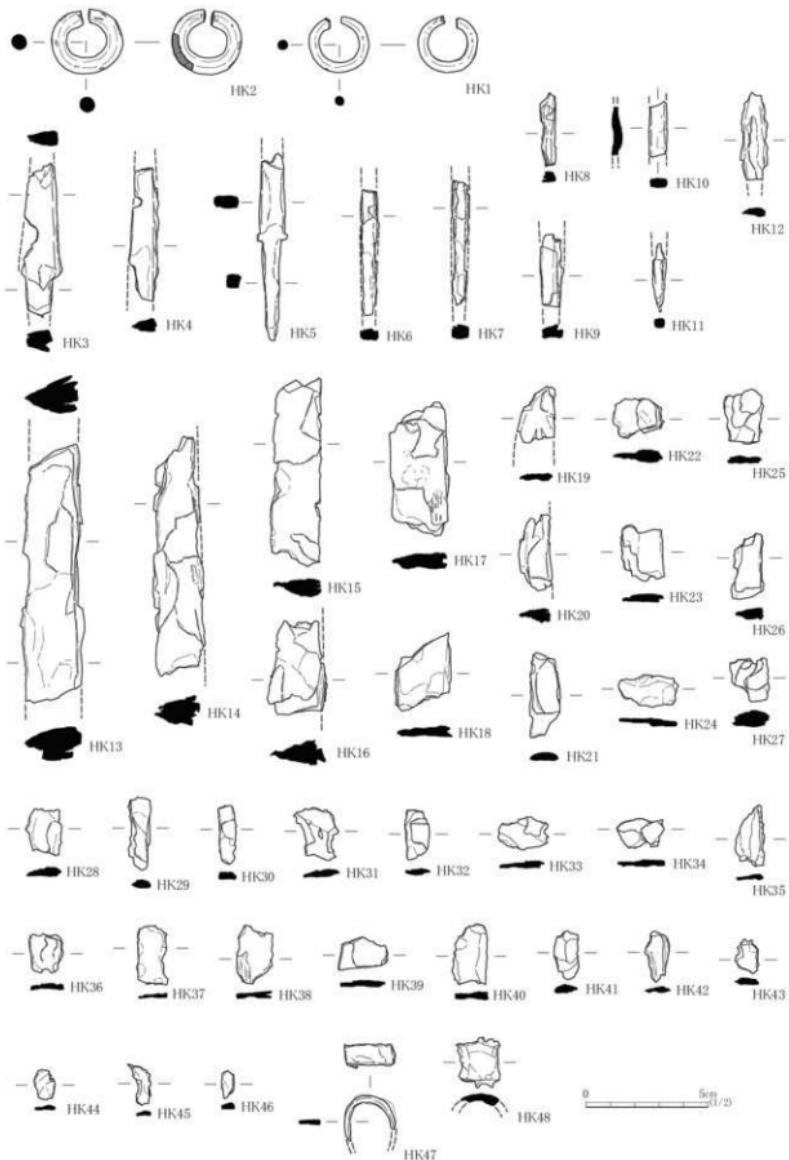


図40 箕倉古墳出土金属器実測図

上林1973a・b、磯部2005)、現状では明確な地域差を示している。答倉古墳の石室構造は不明であるが、未発見のものを含め当該地の未調査墳は少なからず存在するため、今後の動向を注視したい。

本稿を終るに当たり、旧秋穂町所蔵の答倉古墳出土資料所在調査に関して、青島啓氏(山口市教育委員会)に多大な労をおかけした。また、川島尚宗氏(当館助教)には遺物トレスについて援助を得た。末筆であるが記して感謝の意を表したい。

【註】

- 横山成己(2011a)『光市小浜防相ヶ迫山の土製軽容器』、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成17年度—』、山口
○横山成己(2011b)『見島ジーコンボ古墳群 第154号墳出土資料調査報告』、山口大学埋蔵文化財資料館(編)、山口
○横山成己・松浦陽一(2012)『見島ジーコンボ古墳群 第151号墳出土資料調査報告』、山口大学埋蔵文化財資料館(編)、山口
○横山成己(2013a)『見島ジーコンボ古墳群 第152・153・155・156号墳出土資料調査報告』、山口大学埋蔵文化財資料館(編)、山口
○横山成己(2013b)『下松古御屋敷山古墳の山上遺物』、山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成19年度—、山口
○横山成己(2014)『下芸市花園八幡宮裏山資料と花園古墳群』、山口考古学会(編)『山口考古 第34号 山本一朗先生追悼号』、防衛(1,11)
- 松田報告では標高10mとなっている(松田1982)。
- 古墳発見日と調査日に顕著を示しているが、小野忠彦報告(小野1967)をそのまま引用する。
- 資料の所在確認は青島啓氏(山口市教育委員会)に依頼したが、所在不明とのことであった。なお平成12年(2000)刊行の『中津の遺跡』(大村・福本2000)には高野のカラーフ写真が掲載されており、刊行時点まで存在していたことは確実と思われる。
- 1962年7月14~15日の出土年月日を有する。
- 別個体は新鋸跡もしくは存在するが、旧秋穂町所蔵の單品に接合する資料と見られる。
- この他、「吉敷郡永和町可寄舎」の地名を有する跡地に、コンテナNO.88袋NO.14「答倉縄張物 1959年5月11日」土師器1点、コンテナNO.80袋NO.2の胸又土器・弥生土器・土師器片23点が存在する。前者は採集年月日の違いから、後者は古墳の東に近接する答倉遺跡での採集品と推定されることから、本稿では報告を省く。

【文献】

- 磯部貴文(2005)『答倉古墳 第1次調査』、山口市教育委員会文化財保護課(編)『山口市埋蔵文化財保護41』、山口
岩崎仁志(1999)『足跡再考』、財團法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター(編)『南墳第12号』、山口
大村秀典・福本久(2000)『中津原遺跡』(山口県埋蔵文化財センター調査報告第15集)、財團法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター(編)、山口
小野忠彦(1967)『山口縣吉敷郡答倉古墳』、日本考古学会(編)『日本考古学年報』16号、東京
柳原昭志(1968)『答倉古墳』、『答の遺跡』(關東委員会(編))『答の遺跡』、『答』
豊島正之ほか(1998)『引野古墳群・大浦古墳群・梅ヶ崎古墳群・小瀬岡作経塚』(山口県埋蔵文化財センター調査報告第1集)、財團法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター(編)、山口
富士松勇(1973a)『答倉古墳』(山口県埋蔵文化財調査報告第14集)、山口県教育委員会(編)、山口
富士松勇(1973b)『答倉古墳・松ヶ迫遺跡』(山口県埋蔵文化財調査報告第26集)、山口県教育委員会(編)、山口
富士松勇(1977)『引野遺跡・丸塚古墳群』、阿知須町教育委員会(編)、山口(山口知能)
富士松勇(1978)『引野遺跡・丸塚古墳』、阿知須町教育委員会(編)、山口(山口知能)
松田治登(1982)『第1章 秋穂の原始文化』、秋穂町史編集委員会(編)『秋穂町史』、山口(山口秋穂)
川木義信ほか(1999)『大浦古墳群・梅ヶ崎古墳群』(山口県埋蔵文化財センター調査報告第10集)、財團法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター(編)、山口

山口市秋穂町大字大字の出土埴輪

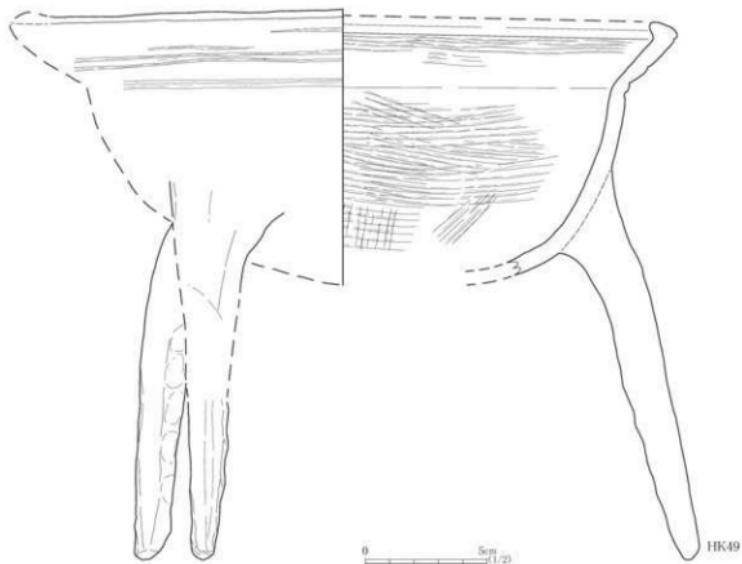
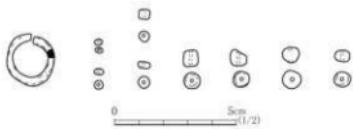
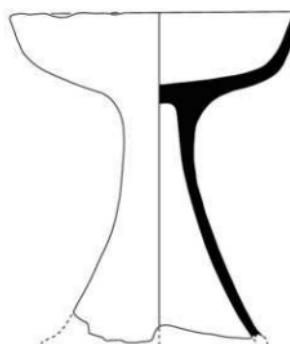


図41 箸倉古墳出土土器実測図



写真82 箸倉古墳出土土器



松田(1982)より転載

図42 山口市(旧秋穂町)所蔵箸倉古墳出土遺物実測図



写真 83 答志古墳出土金属器①

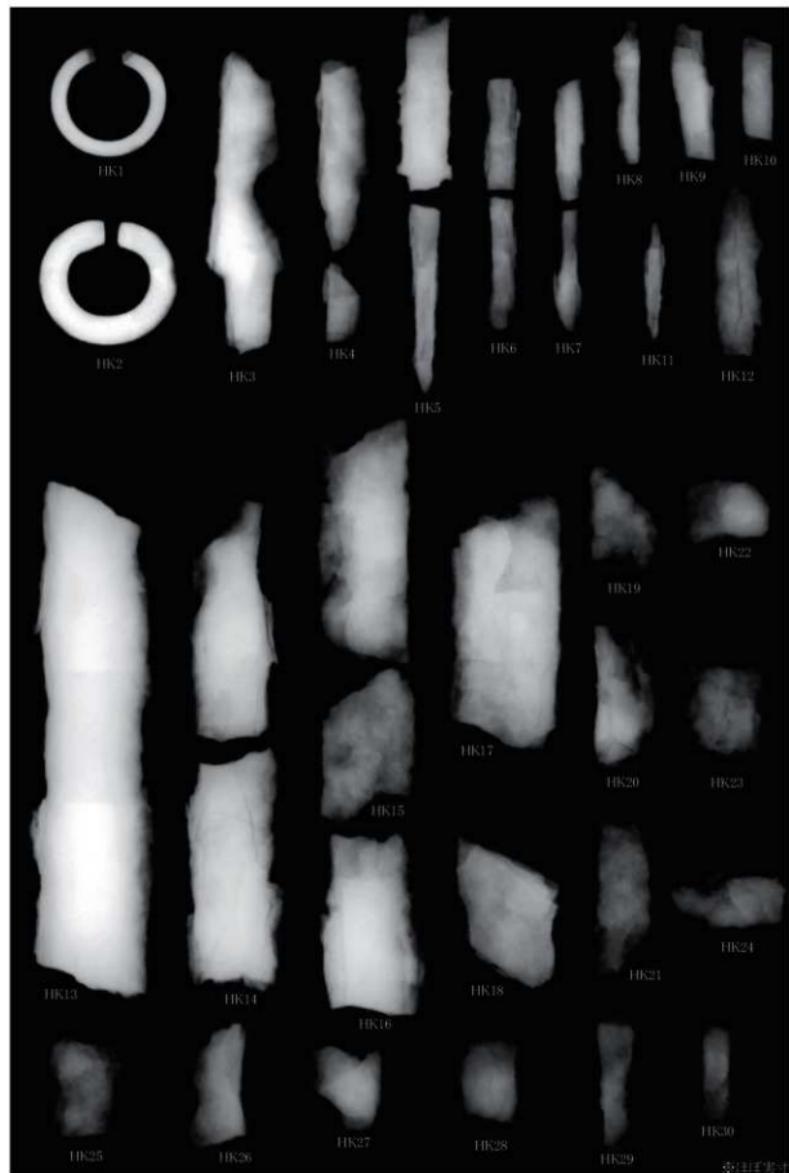


写真 84 苦倉古墳出土金属器 X 線画像①



写真 85 答志古墳出土金属器②

※ほぼ実寸

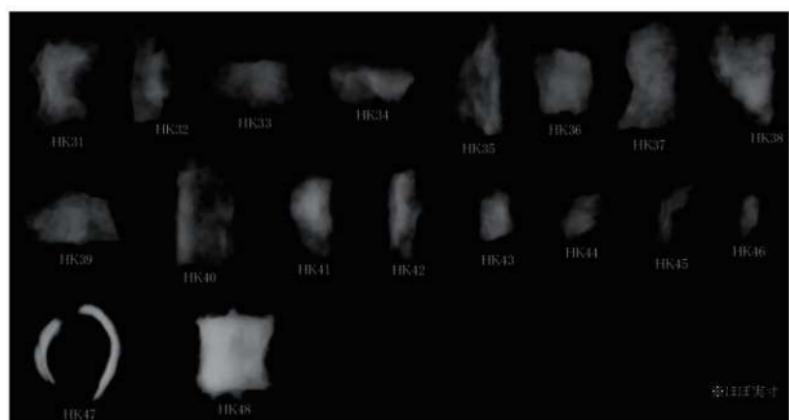


写真 86 答志古墳出土金属器 X線画像②

※ほぼ実寸

表8 出土遺物(土器)観察表

法基()は復元値

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm) ①口側空部厚さ ②底面 ③22.6	色調 ①外面 ②内面 ③25.5cmゆがみ大 ~浅黄色(2.5Y7/3)	胎土	備考
HK 49	答志古墳	瓦質土器 足輪	ほぼ 完形	①25.5cmゆがみ大 ②22.6	②暗灰色(N3/) ~浅黄色(2.5Y7/3)	密(0.1~1.5mm φ の砂粒を 少量含む)	底部外表面 子印き

表9 出土遺物(金属器)観察表

法量()は復元値

遺物番号	遺構	種別	法量(cm)	備考
HK1	笠倉古墳	耳環	長径2.4 短径2.31 軸径0.4 重量5.27g	銅地金貼り 銅軸に緑青ふく
HK2	笠倉古墳	耳環	長径2.85 短径2.59 軸径0.65 重量13.64g	銅(銀)地銀板貼り 部分的に銀板剥離
HK3	笠倉古墳	刀子	残存長6.2 最大幅1.6 最大厚1.0 重量11.1g	両面 切先と基端部を欠失 基に木質遺存
HK4	笠倉古墳	刀子	残存長5.45 最大幅1.13 最大厚0.55 重量4.75g	
HK5	笠倉古墳	鉄劍	残存長7.6 最大幅1.18 最大厚0.62 重量6.96g	両面 茎部断面四角形
HK6	笠倉古墳	鉄劍	残存長5.2 最大幅0.72 最大厚0.46 重量2.54g	断面長方形 茎部か
HK7	笠倉古墳	鉄劍	残存長5.15 最大幅0.71 最大厚0.59 重量2.7g	断面長方形 茎部か
HK8	笠倉古墳	鉄劍	残存長3.05 最大幅0.65 最大厚0.66 重量1.31g	断面台形 茎部か
HK9	笠倉古墳	鉄劍	残存長3.0 最大幅0.9 最大厚0.62 重量2.16g	断面長方形 茎部または頭部
HK10	笠倉古墳	鉄劍	残存長2.3 最大幅0.72 最大厚0.36 重量1.17g	断面長方形 頭部か
HK11	笠倉古墳	鉄劍	残存長2.65 最大幅0.52 最大厚0.71 重量0.71g	断面方形 基端部
HK12	笠倉古墳	鉄劍	残存長3.65 最大幅1.1 最大厚0.34 重量1.3g	鐵身部分か
HK13	笠倉古墳	鉄刀	残存長10.56 最大幅2.06 最大厚1.44 重量6.15g	背に原面残る
HK14	笠倉古墳	鉄刀	残存長9.85 最大幅2.0 最大厚1.15 重量28.73g	背に原面残る
HK15	笠倉古墳	鉄刀	残存長7.7 最大幅2.03 最大厚0.72 重量13.26g	
HK16	笠倉古墳	鉄刀	残存長3.8 最大幅2.34 最大厚1.08 重量12.76g	背に原面残る
HK17	笠倉古墳	鉄刀	残存長5.45 最大幅2.35 最大厚0.67 重量13.66g	木質残る
HK18	笠倉古墳	鉄刀	残存長3.2 最大幅2.23 最大厚0.51 重量4.7g	刀身の剥離片か
HK19	笠倉古墳	鉄片	残存長2.3 最大幅1.52 最大厚0.34 重量1.18g	刀子切先片か
HK20	笠倉古墳	鉄片	残存長3.15 最大幅1.26 最大厚0.69 重量2.67g	刀子の刀身片か 背に原面残る
HK21	笠倉古墳	鉄片	残存長3.5 最大幅1.23 最大厚0.31 重量1.57g	
HK22	笠倉古墳	鉄片	残存長2.1 最大幅1.5 最大厚0.5 重量1.47g	鉄刀の剥離片か
HK23	笠倉古墳	鉄片	残存長2.3 最大幅1.69 最大厚0.36 重量1.31g	鉄刀の剥離片か
HK24	笠倉古墳	鉄片	残存長2.5 最大幅1.25 最大厚0.37 重量1.2g	鉄刀の剥離片か
HK25	笠倉古墳	鉄片	残存長2.25 最大幅1.59 最大厚0.38 重量1.32g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK26	笠倉古墳	鉄片	残存長2.7 最大幅1.28 最大厚0.49 重量2.05g	刀子の剥離片か
HK27	笠倉古墳	鉄片	残存長1.8 最大幅1.6 最大厚0.61 重量1.84g	鉄刀の剥離片か
HK28	笠倉古墳	鉄片	残存長1.9 最大幅1.42 最大厚0.31 重量1.12g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK29	笠倉古墳	鉄片	残存長2.95 最大幅0.84 最大厚0.29 重量0.86g	
HK30	笠倉古墳	鉄片	残存長2.4 最大幅0.69 最大厚0.27 重量0.58g	鉄劍の剥離片か
HK31	笠倉古墳	鉄片	残存長2.15 最大幅1.68 最大厚0.28 重量1.03g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK32	笠倉古墳	鉄片	残存長2.05 最大幅0.97 最大厚0.28 重量0.61g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK33	笠倉古墳	鉄片	残存長2.05 最大幅1.22 最大厚0.27 重量0.66g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK34	笠倉古墳	鉄片	残存長1.95 最大幅1.05 最大厚0.26 重量0.64g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK35	笠倉古墳	鉄片	残存長2.5 最大幅1.14 最大厚0.21 重量0.8g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK36	笠倉古墳	鉄片	残存長1.6 最大幅1.33 最大厚0.25 重量0.84g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK37	笠倉古墳	鉄片	残存長2.4 最大幅1.23 最大厚0.22 重量1.1g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK38	笠倉古墳	鉄片	残存長2.35 最大幅1.45 最大厚0.27 重量1.25g	鉄刀の剥離片か 木質残る
HK39	笠倉古墳	鉄片	残存長2.05 最大幅1.12 最大厚0.22 重量0.83g	鉄刀の剥離片か
HK40	笠倉古墳	鉄片	残存長2.45 最大幅1.4 最大厚0.27 重量1.04g	鉄刀の剥離片か
HK41	笠倉古墳	鉄片	残存長2.0 最大幅1.0 最大厚0.35 重量0.76g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK42	笠倉古墳	鉄片	残存長2.05 最大幅0.92 最大厚0.26 重量0.55g	刀子・鉄刀の剥離片か
HK43	笠倉古墳	鉄片	残存長1.4 最大幅0.87 最大厚0.26 重量0.37g	
HK44	笠倉古墳	鉄片	残存長1.2 最大幅0.83 最大厚0.19 重量0.25g	
HK45	笠倉古墳	鉄片	残存長1.7 最大幅0.67 最大厚0.15 重量0.23g	
HK46	笠倉古墳	鉄片	残存長1.15 最大幅0.48 最大厚0.22 重量0.14g	
HK47	笠倉古墳	貴金属	長径1.8以上 短径2.2 板幅0.89 重量2.34g	内面に木質残る
HK48	笠倉古墳	刀装具	残存長2.05 最大幅1.67 最大厚0.54 重量3.08g	鞘尻・柄頭の破片か

付篇2

山口県答倉古墳出土金属製品成分分析調査

株式会社 吉田生物研究所

1. はじめに

山口県に所在する答倉古墳から出土した金属製品2点について、材質を明らかにする為に以下の通り成分分析を行った。その結果を報告する。

2. 試料

調査した試料は表10に示す金属製品2点である(写真87・88)。

表 10 試料表

計測No.	遺物No.	試料名	概要
1	HK1	耳環表面の金色部分	完形。表面は金色。接面の表面層が外れている所に緑青が見られる。
2		耳環の芯	
3	HK2	耳環表面の鉛色部分	完形。表面は鉛色。表面層の欠損部分に緑青が見ら
4		耳環の芯	れる。



写真 87 遺物 HK1



写真 88 遺物 HK2

3. 方法

試料を用いて蛍光X線分析を行い、金属元素を同定した。装置は島津製作所製のエネルギー分散型蛍光X線分析装置EDX-800を用いた。

4. 分析結果

成分分析結果のスペクトルを付す(図43~46)。表2に分析結果一覧を示すが、その数値はあくまで参考にすぎない。また、Si~Fe,Br,Sr,W,Po,Thは土壤に由来する成分と思われる。

計測No.1: 遺物HK1耳環表面の金色部分は主成分としては金(Au)が、その他に銅(Cu)、銀(Ag)が検出されている。

計測No.2: 遺物HK1耳環の芯は主成分として銅(Cu)が、その他に砒素(As)が検出されている。

計測No.3: 遺物HK2耳環表面の鉛色部分は主成分として銀(Ag)が、その他に水銀(Hg)、金(Au)、銅(Cu)が検出されている。

計測No.4: 遺物HK2耳環の芯は主成分として銅(Cu)、銀(Ag)が、その他に砒素(As)、鉛(Pb)、セレン(Se)が検出されている。

5. 考察

遺物HK1耳環は、表面から水銀が未検出である事と接面の実体顕微鏡観察で薄板がたたみ込まれているのが確認できた(写真89)。以上から、この耳環は不純物の砒素を含有する銅芯に、銀を含有する金の薄板を巻いたものと考えられる。遺物HK2耳環は表面から水銀が検出されている事と接面の実体顕微鏡観察で薄板がたたみ込まれているのが確認できた(写真4)。以上から、不純物の砒素(As)、鉛(Pb)、セレン(Se)を含有する銅芯に銀の薄板が巻かれ、その表面に金を含有する銀の鍍銀が施された可能性が高いと考えられる。尚、銅芯から銅と同程度の高い検出値が出た銀については、銅に含有されていたものか鍍の薄板由来のものは不明である。



写真 89 遺物 HK1 の接面



写真 90 遺物 HK2 の接面

表 11 寄倉古墳出土金属製品成分分析結果表

元素	No. 1 (wt%)	No. 2 (wt%)	No. 3 (wt%)	No. 4 (wt%)
Si	-	35.61	-	-
P	-	-	-	4.12
S	-	15.14	2.65	2.84
Cl	-	-	2.58	
K	1.01	-	-	-
Ti	-	0.35	-	0.59
Fe	0.38	1.08	1.76	16.69
Cu	12.65	35.56	0.75	36.34
As	-	12.05	-	2.77
Se	-	-	-	0.14
Br	1.06	-	0.18	-
Ag	8.27	-	87.89	36.03
Sm	0.62	-	-	-
W	0.56	-	0.27	-
Au	72.96	-	1.89	-
Hg	-	-	1.92	-
Pb	-	-	-	0.39
Po	2.44	-	-	-
Th	-	0.18	-	-

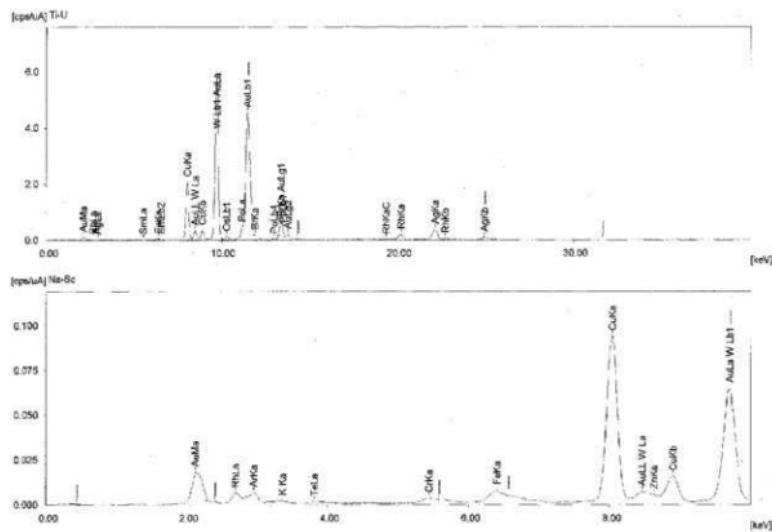


図43 遺物HK1耳環表面の金色部分

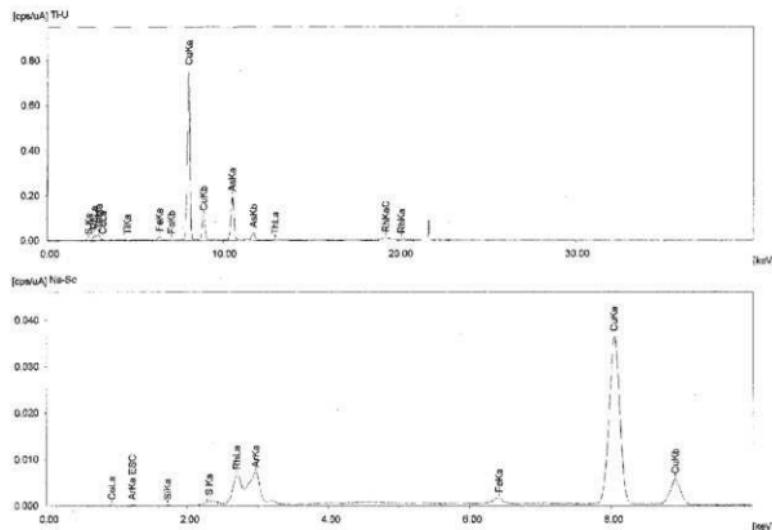


図44 遺物HK1耳環の芯

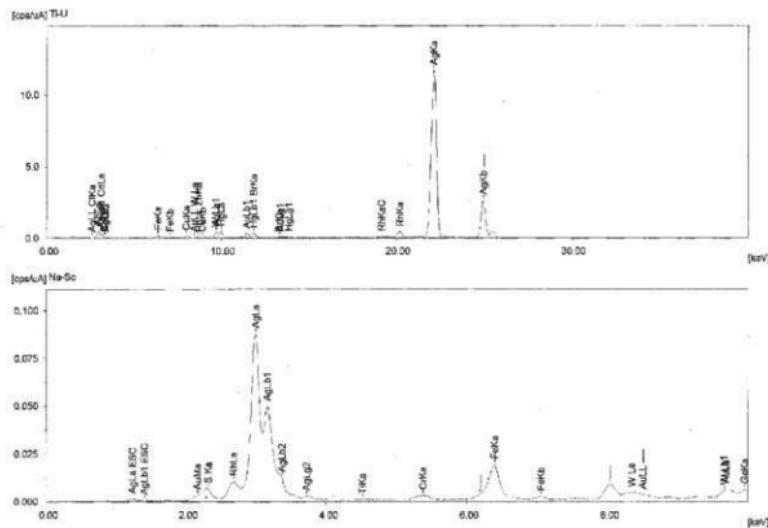


図 45 遺物 HK2 耳環表面の鉛色部分

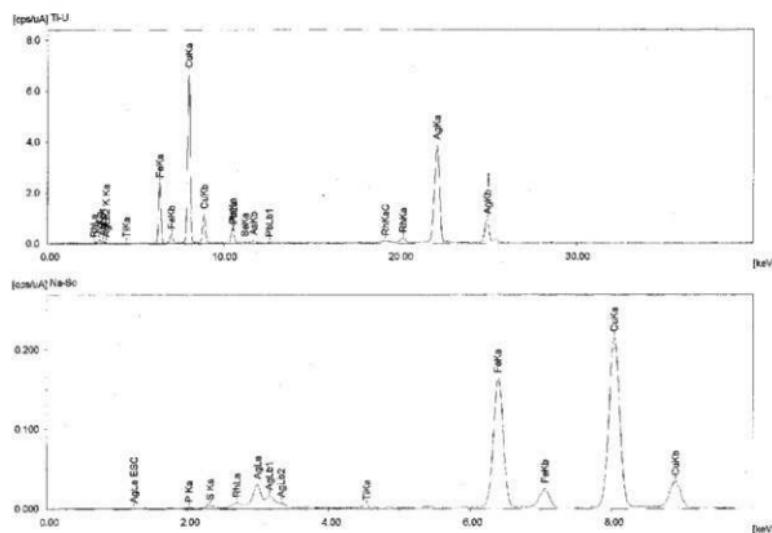


図 46 遺物 HK2 耳環の芯

報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくmaiぞうぶんかざいしりょうかんねんぽう
書名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
副書名	一平成23年度一
巻次	
シリーズ名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
シリーズ番号	9
編著者名	田畠直彦 横山成己 川島尚宗 松浦暢昌
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1 Tel083-933-5035
発行年月日	西暦2015年(平成27年)3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 08分 52秒	131度 28分 14秒	20110509- 20110625	200m ²	特高受変電設備棟新設工事
御手洗遺跡	山口県光市 室横8丁目4番1号	35210		33度 55分 09秒	131度 58分 14秒	20110912- 20110918	19.4m ²	教育学部附属光学校 下水道接続工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田遺跡	集落跡	古代～中世	河川・ビット・杭列	土師器・須恵器・石器	
御手洗遺跡	散布地・集落跡			土師器・須恵器・ 瓦質土器・陶磁器	

山口大学埋蔵文化財資料館年報
－平成23年度－

平成27年3月31日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 (有)三共印刷

〒759-0204 宇部市大字妻崎開作1953-8

YAMAGUCHI UNIVERSITY
ARCHAEOLOGICAL MUSEUM REPORT Vol.9

CONTENTS

Chapter I	The project on the Yamaguchi University campus in the 2011 fiscal year	1
Section 1	General outline of the project on the Yamaguchi University campus in the 2011 fiscal year	1
Section 2	Excavation on the Yoshida campus "Yoshida site"	5
Section 3	Excavation on the Shiraishi campus "Shiraishi site"	32
Section 4	Excavation on the Kogushi campus "Yamaguchidaigaku-Igakubukounai site"	34
Section 5	Excavation on the Hikari campus "Mitarai site and Tshukimachiyama site"	35
Appendix 1	The gist of researches and studies at Yamaguchi University in the 2011 fiscal year	42
Appendix 2	List of researches in Yamaguchi University campus	45
Chapter II	Report of the Yamaguchi University Archaeological Museum activities	68
Section 1	Exhibition activities	69
Section 2	Social education activities	74
Appendix 1	Archaeological finds at Hazukura barrow (Yamaguchi City)	77
Appendix 2	Component analysis of metal artifacts from Hazukura barrow	88

Published by
Yamaguchi University Archaeological Museum
Yamaguchi, 2015